

新・おりがみランド

布施知子 編

# おりがみ ユニット広場



誠文堂新光社

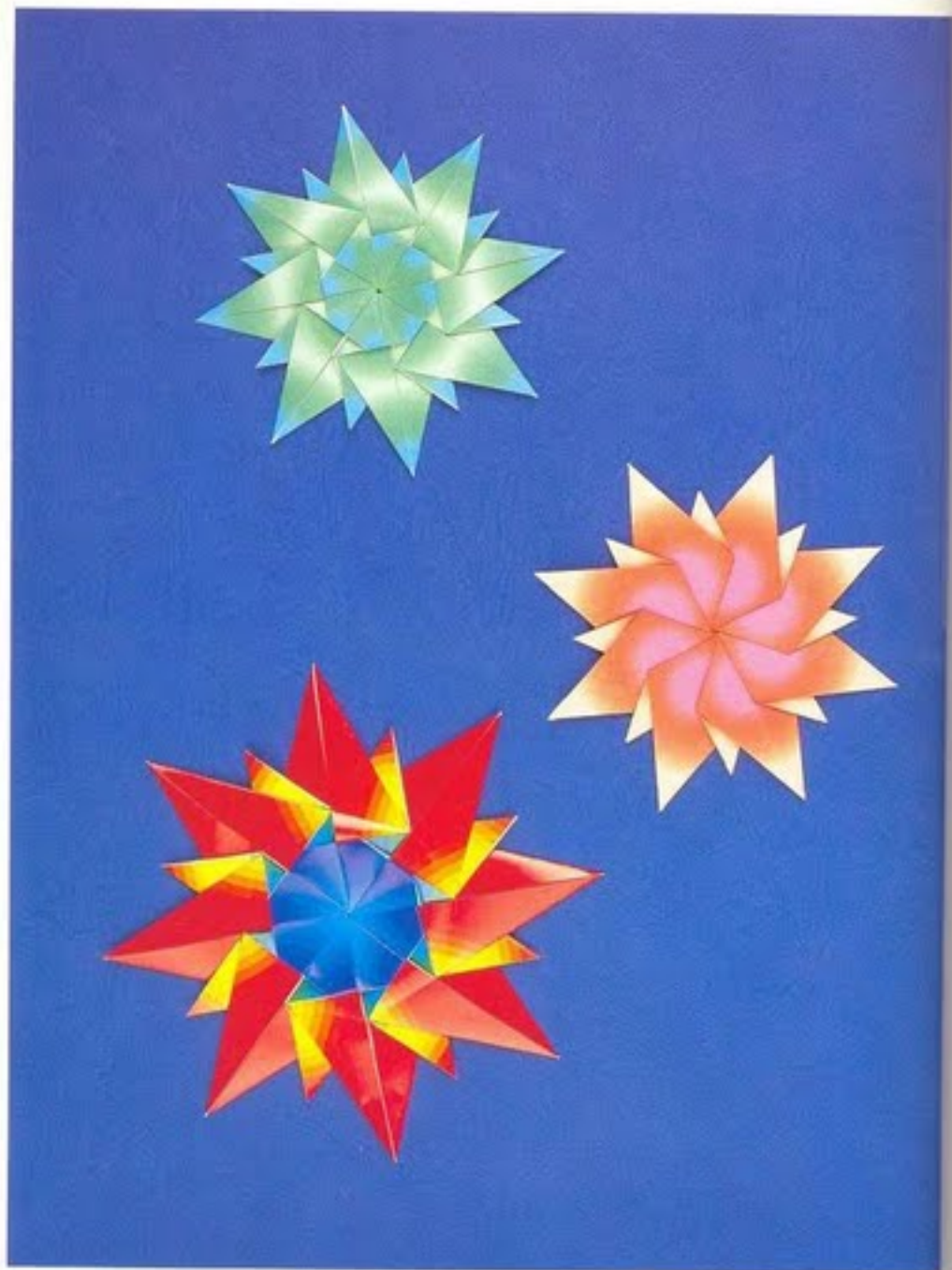
新・おりがみランド

# おりがみ ユニット広場

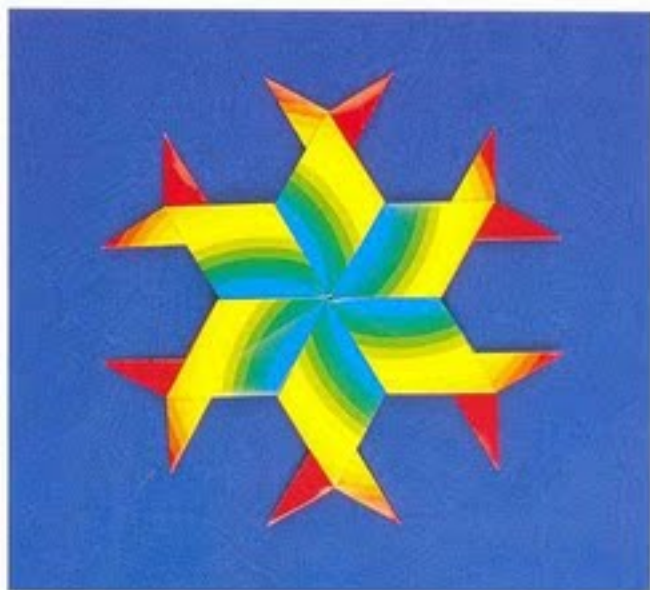
布施知子 編



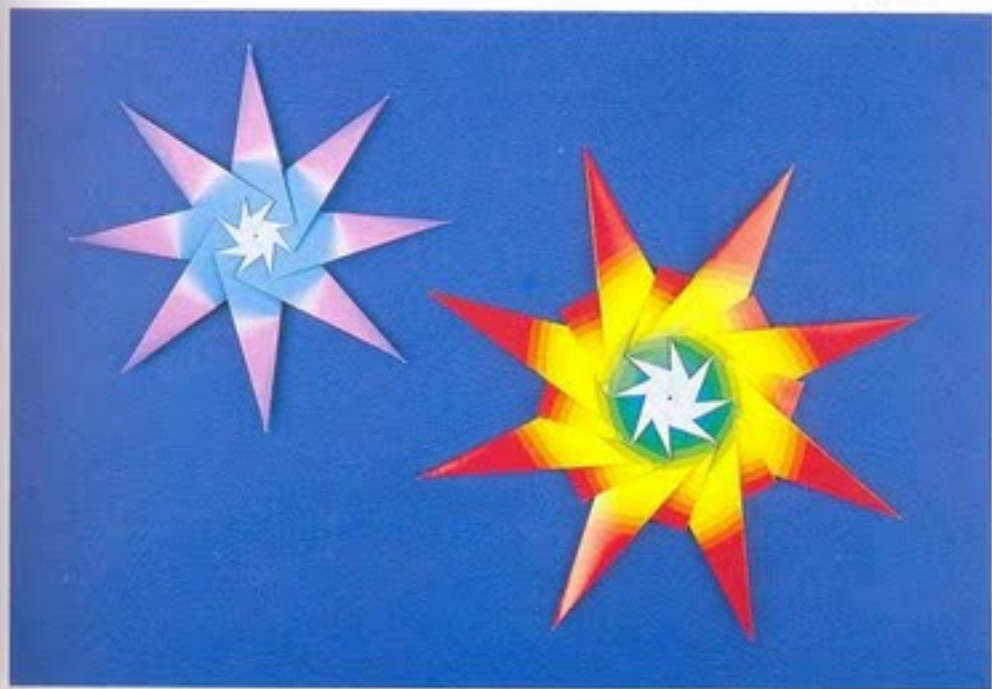
誠文堂新光社



16光の星 (p26)



魚のコースター (p104)



ヨットの星1, 2 (p22, p24)

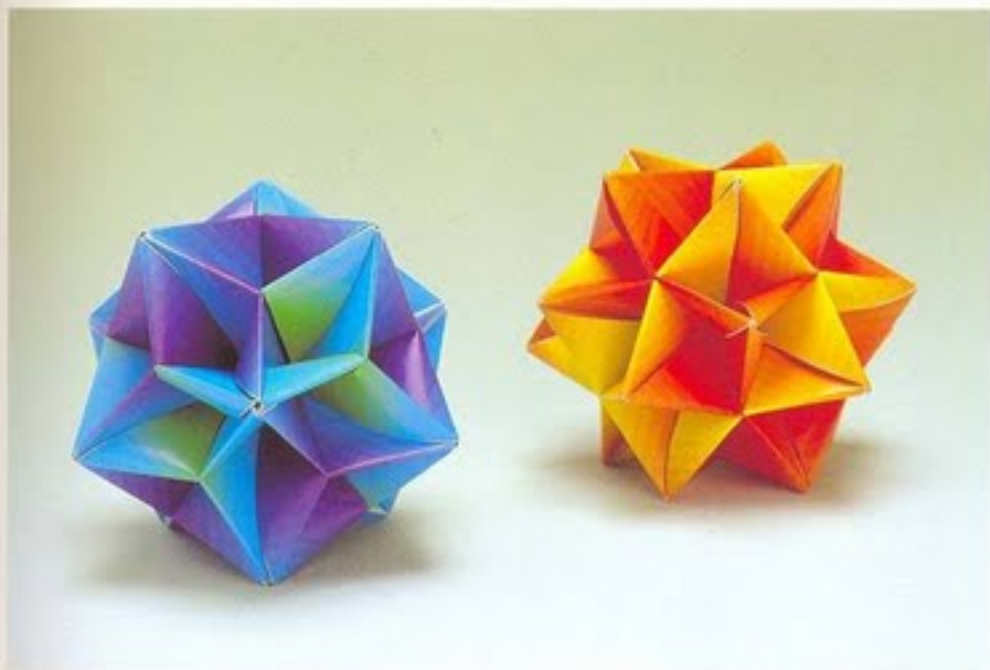


バセット・ユニット 上から、X30、X6、X12 (p28)

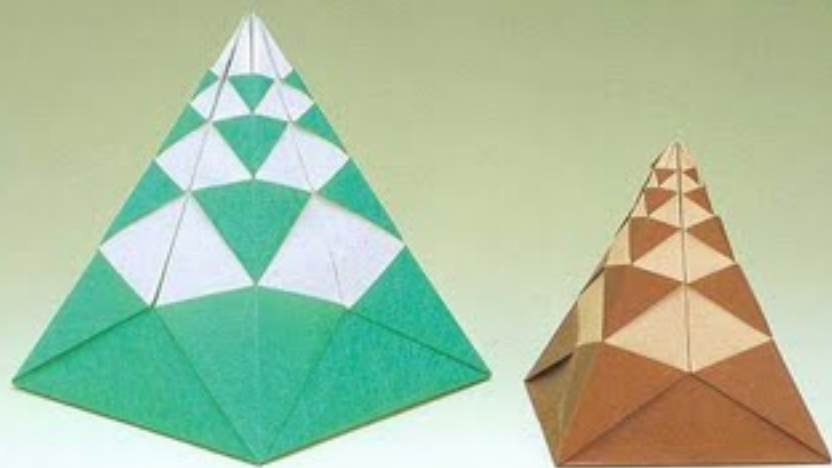




パセッタ・ユニット×30 (p31)



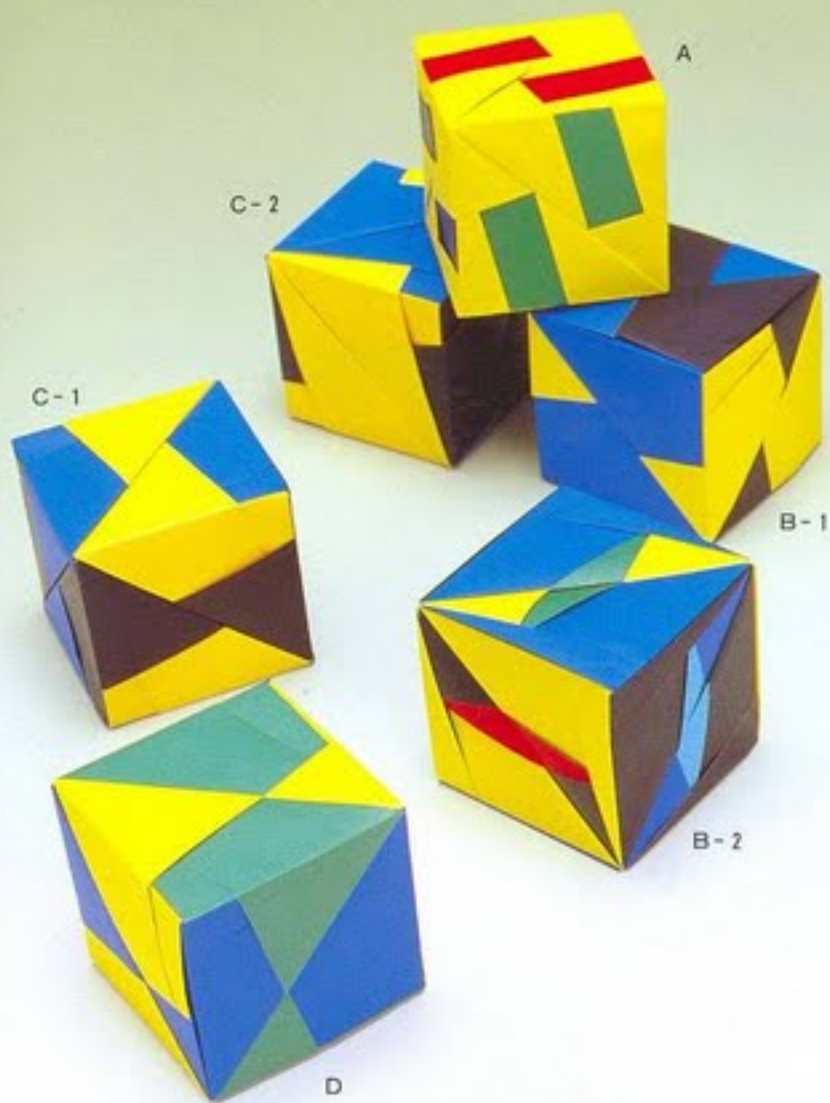
シルバーナさんの星A・B (p98)



アステカ宮殿 (p34)



鶴のトッピングボックス (p54)







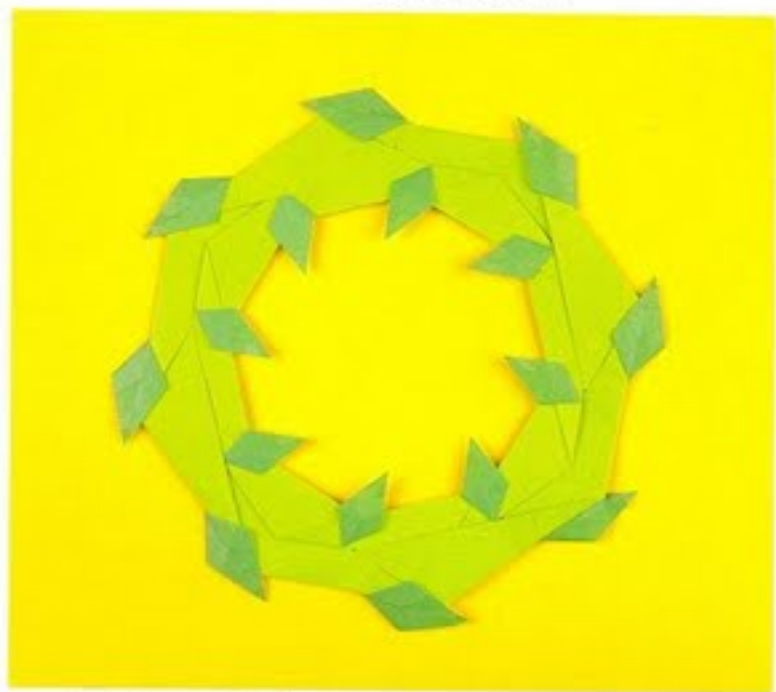
上左：どでもボックスねじれの重箱（p50）、上右：どこでもボックス基本の重箱（p47）、  
下左：どこでもボックス基本（p44）、下右：どこでもボックスねじれ（p48）



どこでもボックス・市松のお重 (p52)



多重リング (p38)



サークルツリー (p40)



135度のユニット, X60, X36 (p108)



リング1 (p78)





リング 6 (p84)



リング 2, 4 (p81, p82)



さつき 上から, X60, X60, X24 (p94)



うさぎの Rond (p89)



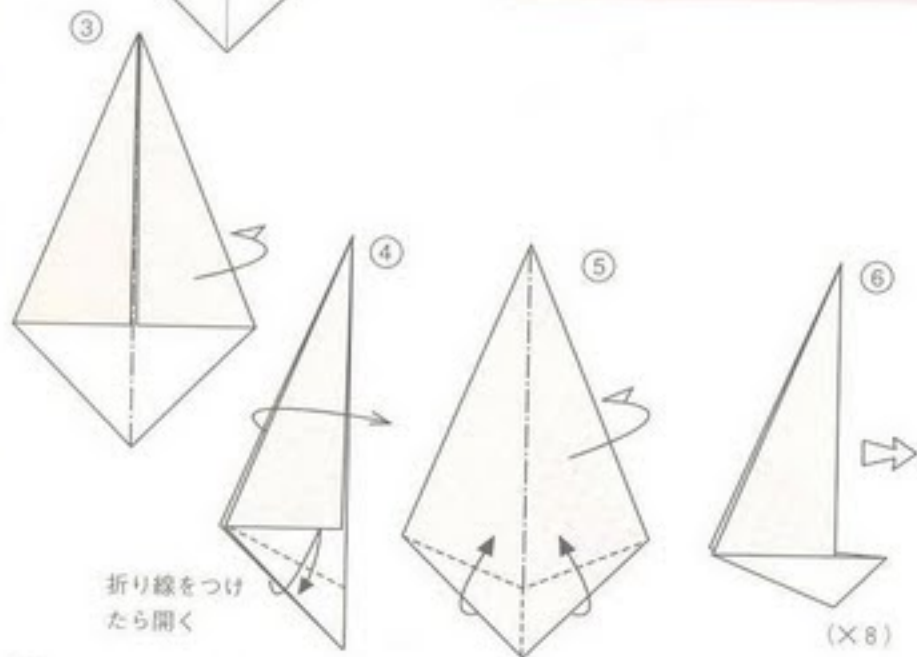
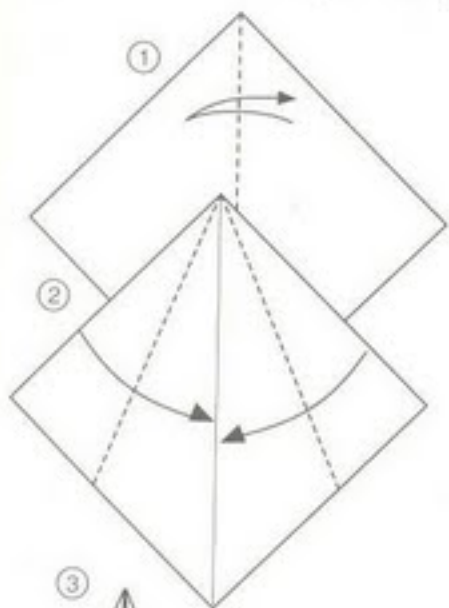
七角リングのらせん組み (p88)



美保子のケーキボックス1、2 (p70、p76)

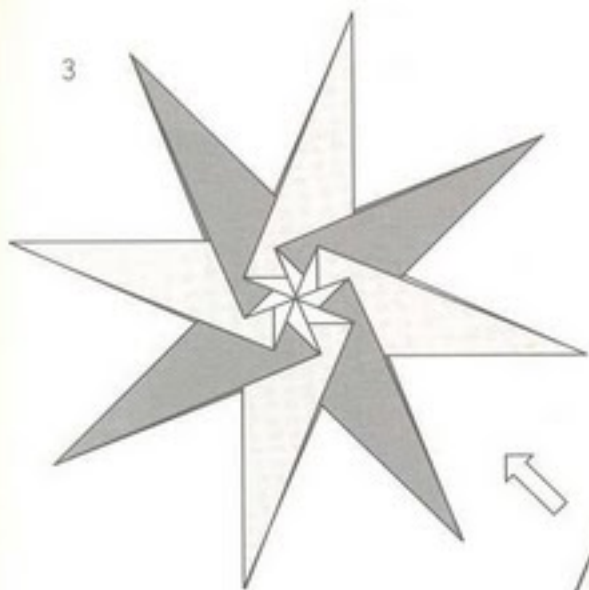
# ヨットの星・1

パオロ・バセッタ (by Paolo Bascetta) / イタリア





3

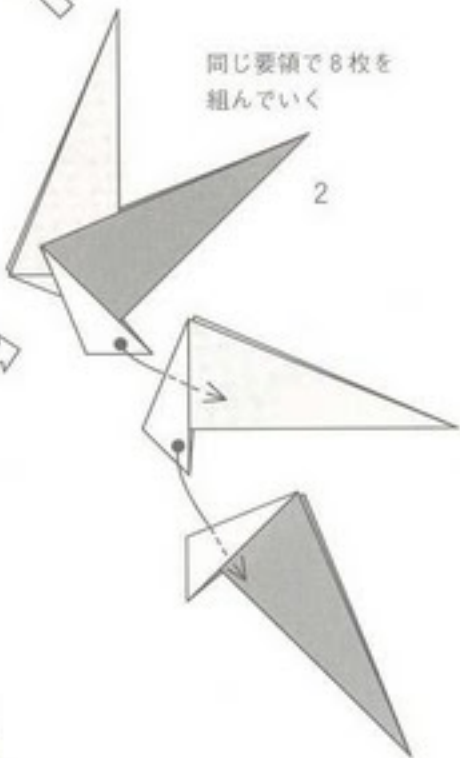


同じ要領で8枚を  
組んでいく

【組み方】 1



2



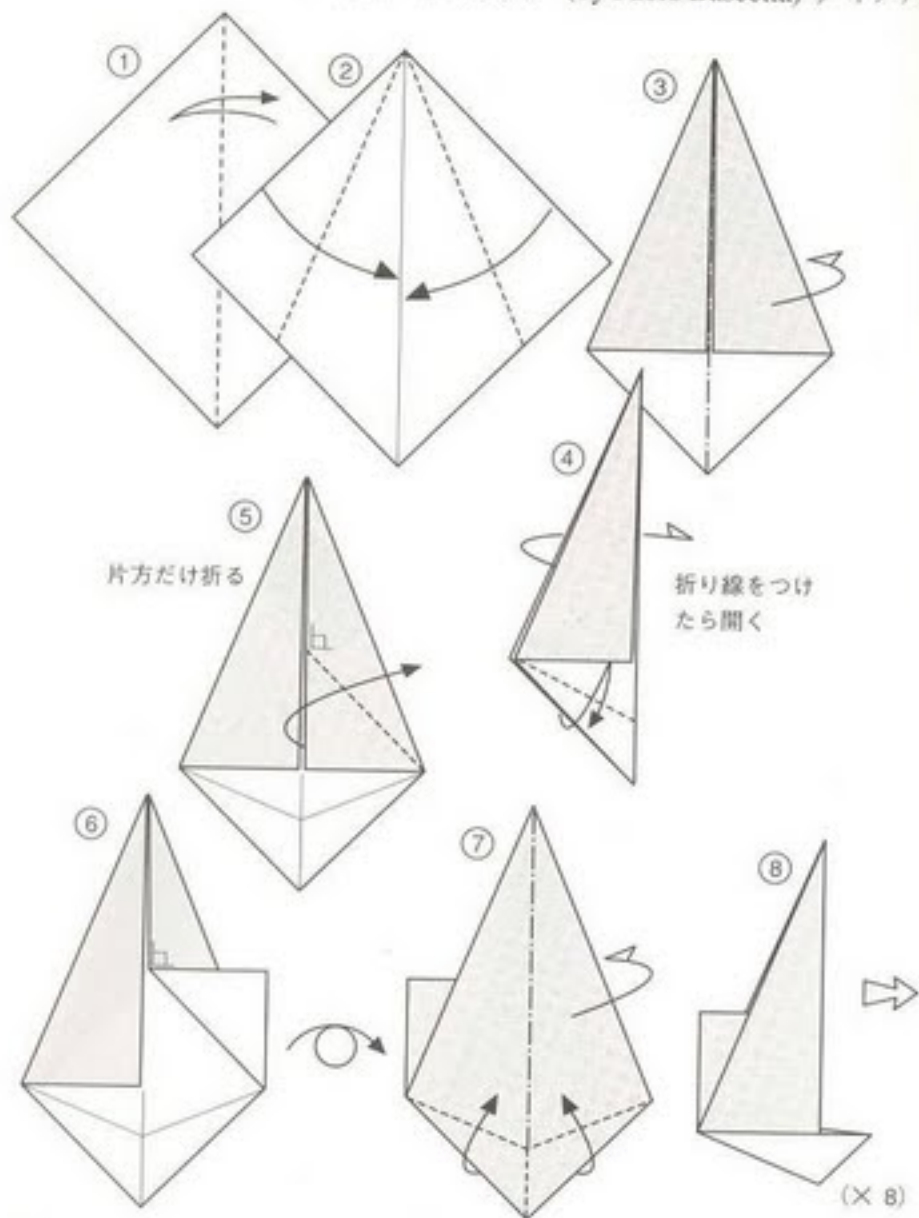
【内側から見た図】

内側のポケット  
にもう一方の先  
を差しこむ

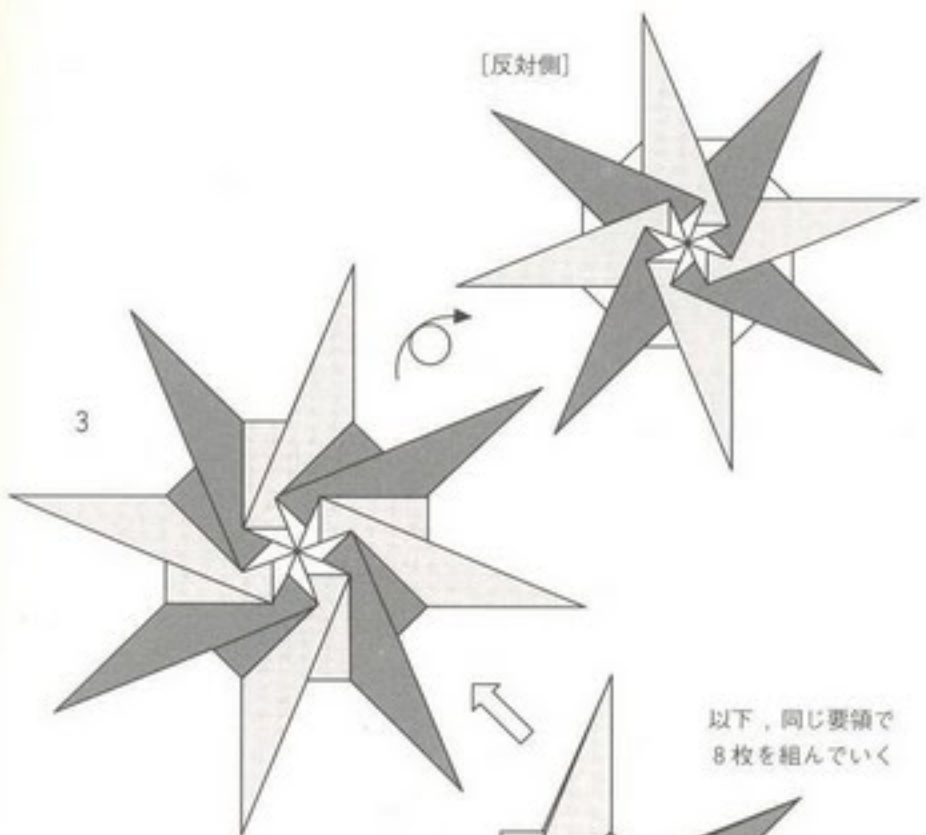


# ヨットの星・2

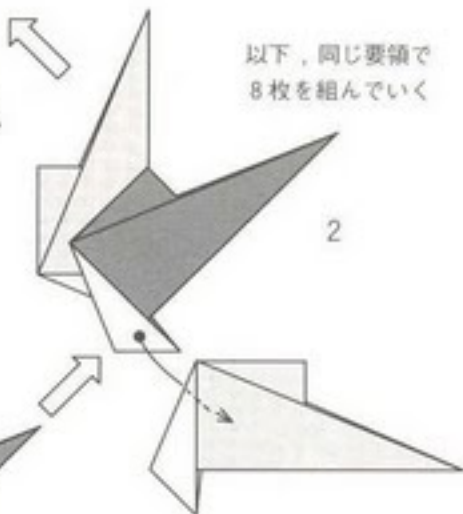
パオロ・バセッタ (by Paolo Bascetta) / イタリア



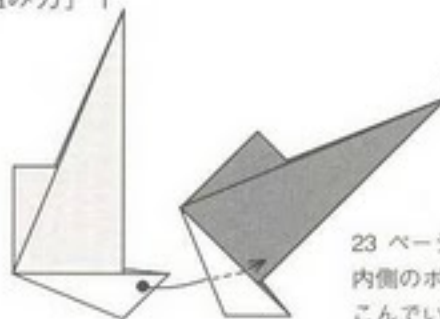
[反対側]



以下、同じ要領で  
8枚を組んでいく



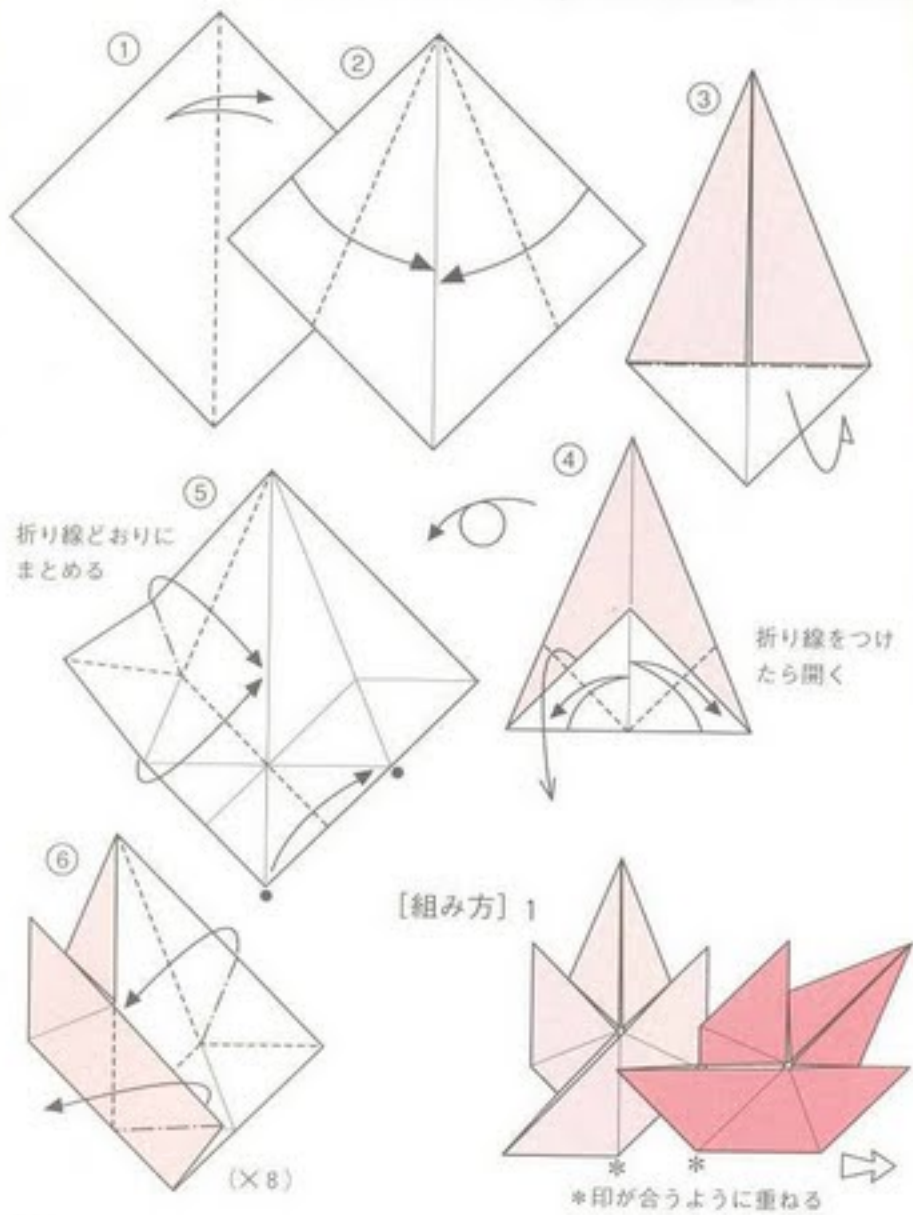
[組み方] 1



23 ページと同じ要領で  
内側のポケットに差し  
こんでいく

# 16光の星

パオロ・バセッタ (by Paolo Bascetta) / イタリア



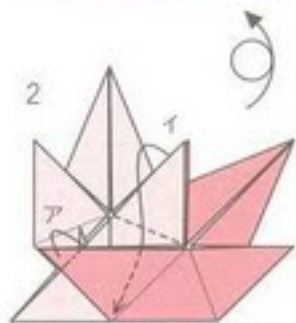
【反対側】



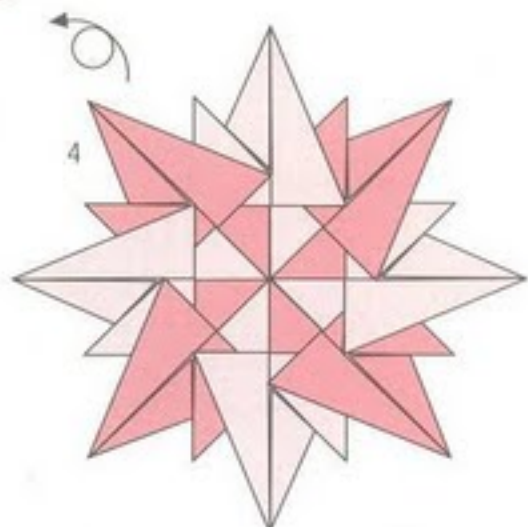
【反対側から見た図】



2



アは先を折ってはさみ、  
イはポケットに差しこむ



4



同じ要領で8枚を  
組んでいく

3

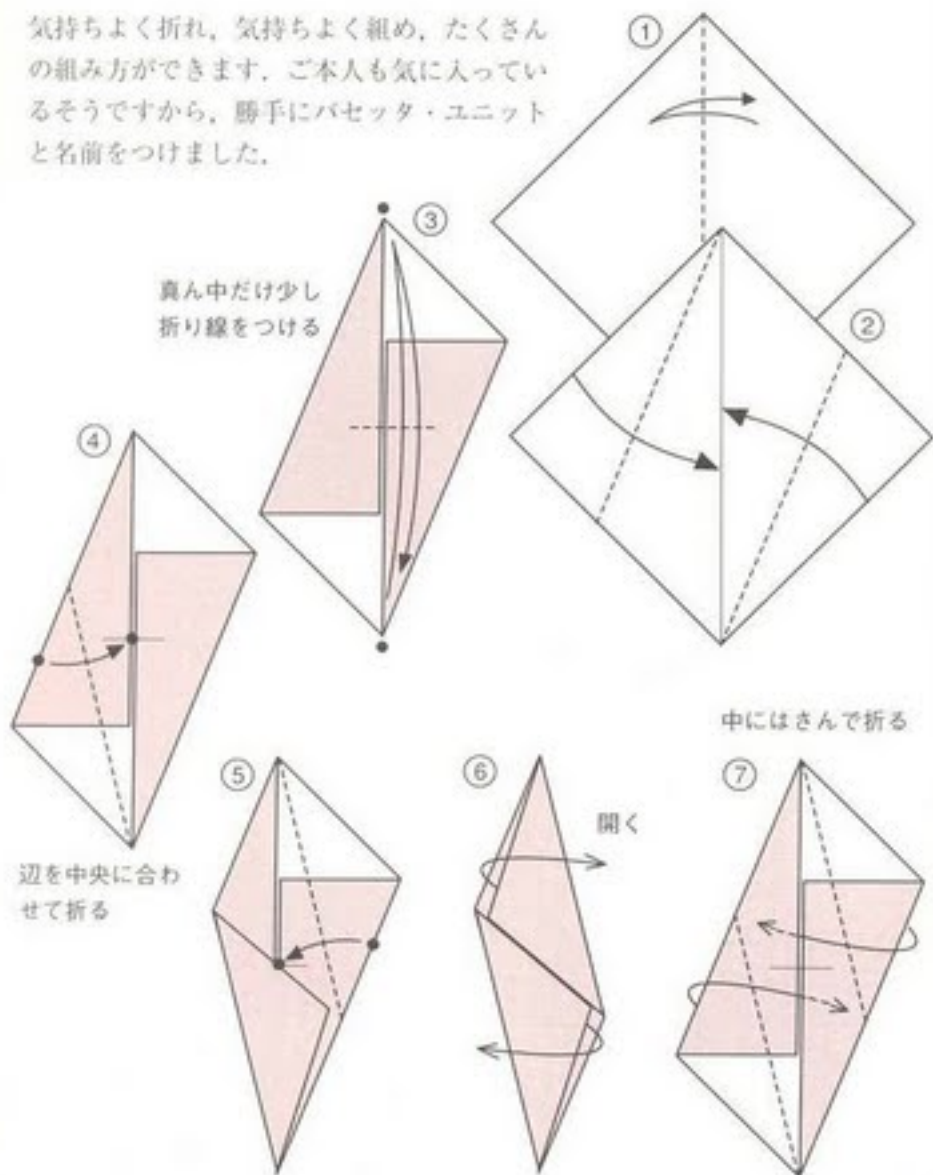




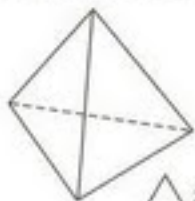
# バセッタ・ユニット

パオロ・バセッタ (by Paolo Bascetta) / イタリア

気持ちよく折れ、気持ちよく組め、たくさんの組み方ができます。ご本人も気に入っているようですから、勝手にバセッタ・ユニットと名前をつけました。



[骨組みになる形]

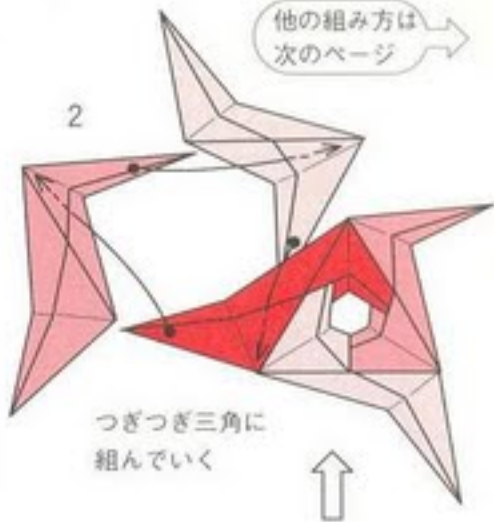


△が4つ  
(×6)



他の組み方は  
次のページ →

2



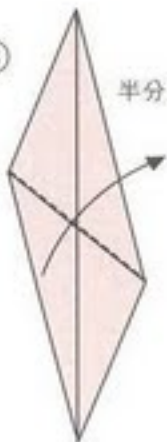
つぎつぎ三角に  
組んでいく

[組み方] 1



まず3枚で  
三角に組む

⑧



半分に折る

⑨



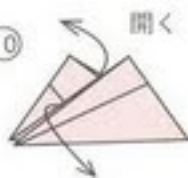
印を合わせて折る

⑪



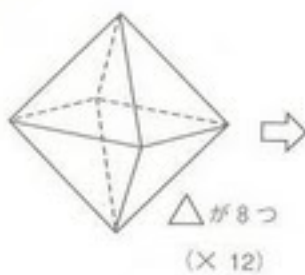
ユニット完成

⑩

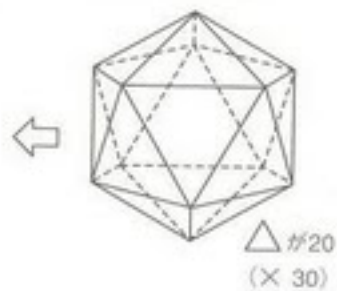


開く

【骨組みになる形】

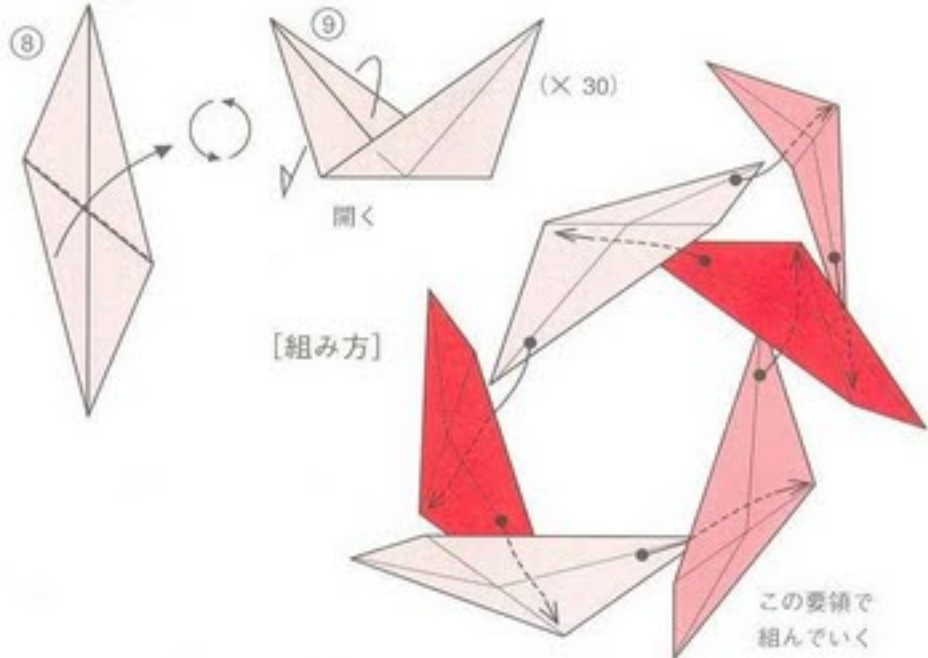


【骨組みになる形】

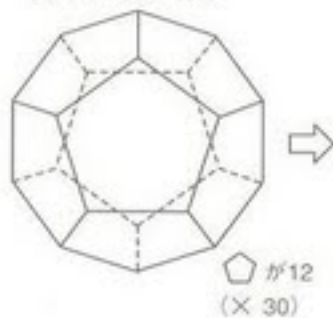


「バセッタ・ユニット」は裏がえして組むこともできます。

29ページ⑧から

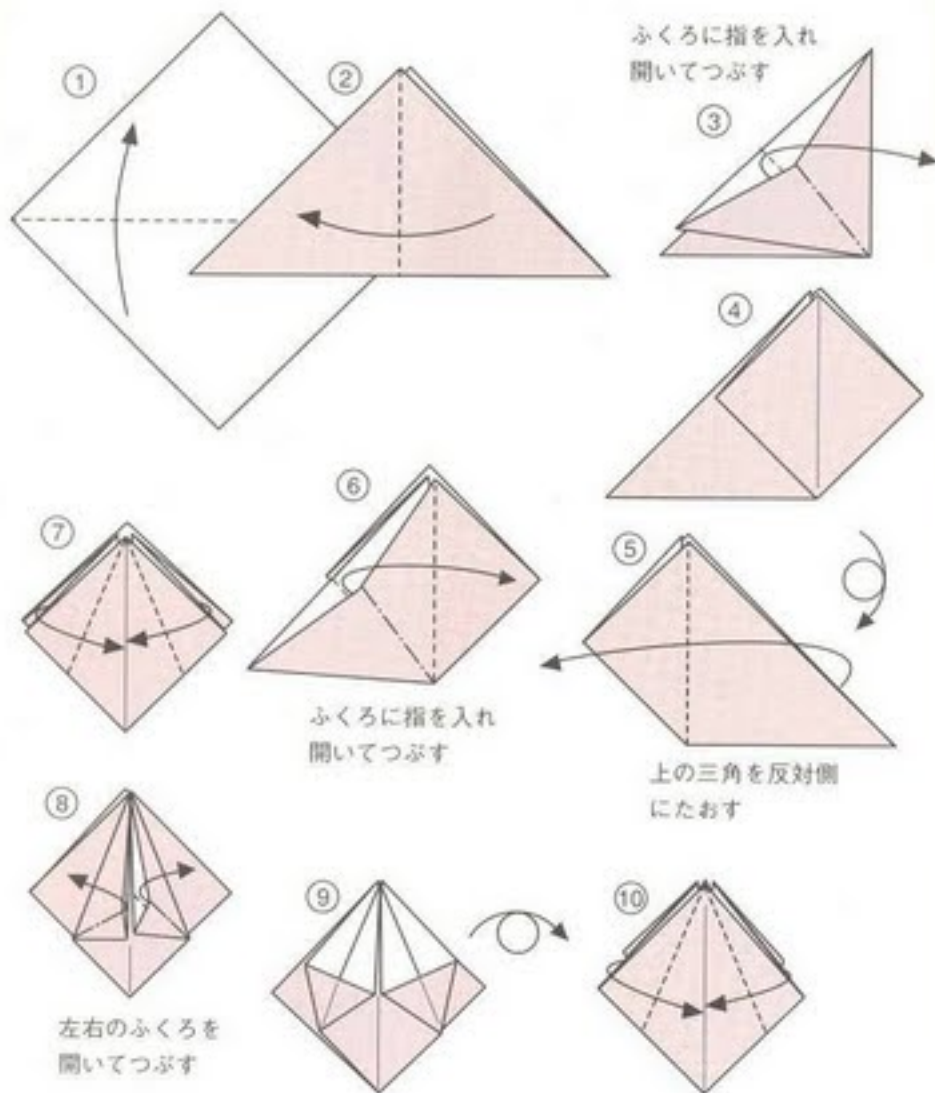


[骨組みになる形]



# つの香ばこ (伝承)

伝承作品には、そのままユニットになるものがあります。永田紀子さんは「つの香ばこ」を「アステカ宮殿」へと、見事に变身なさいました。34 ページをどうぞ。

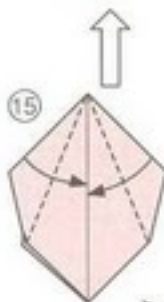




4つのつを引  
出して中を開く



開きかえる

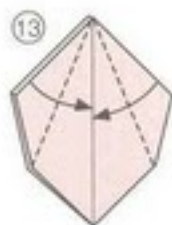
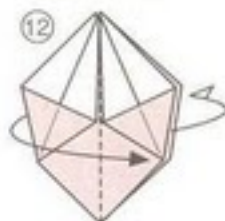


▶ アステカ宮殿をつくるとき ◀

アステカ宮殿 (34 ページ) をつくるときは、  
つこの部分を折らないで、図のようにします。



開きかえる

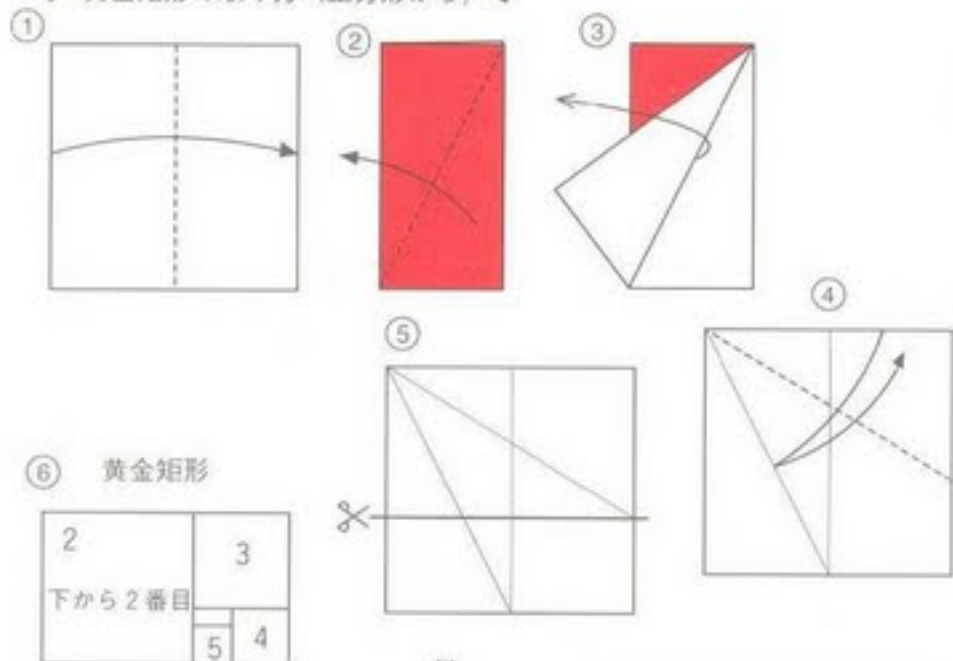


# アステカ宮殿

永田紀子 (by NAGATA Noriko) / 日本

「つの香ばこ」を積み重ねてアステカ宮殿にするには、黄金比を持つ長方形（黄金矩形）を作り、そこから順に正方形を切り取ります。

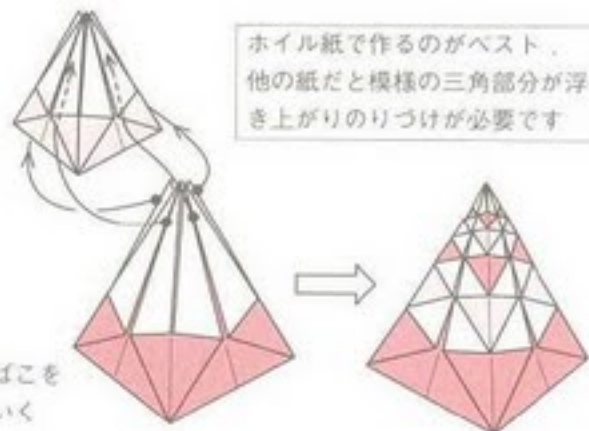
## ▶ 黄金矩形の取り方（正方形から）◀



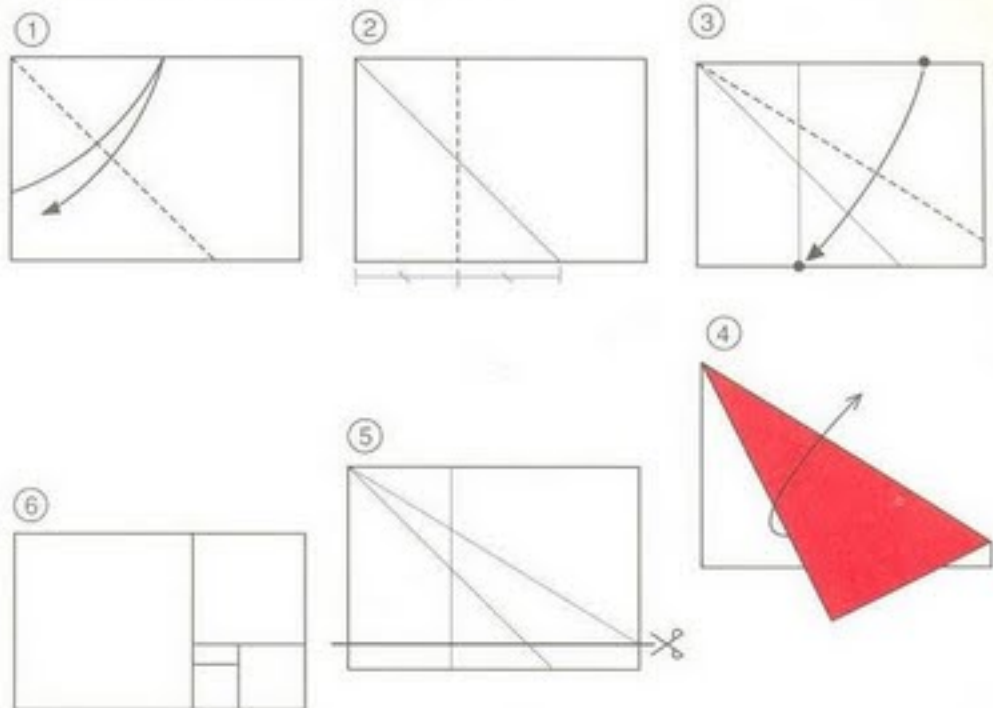
## ⑥ 黄金矩形



4～5つのつの香ばこを  
順にはさみこんでいく



▶ 黄金矩形の取り方（長方形から）◀



黄金比って何？ 文：永田紀子

私達がふだん使っている長方形は、辺の比がおよそ1：1.4です。この形の長方形は、横に2つ折りすると元の長方形と同じ形になります。これに対して、上図の⑥の長方形は辺の比がおよそ1：1.6です。この長方形の場合は、正方形を切り取った残りの長方形が元の長方形と同じ形になります。

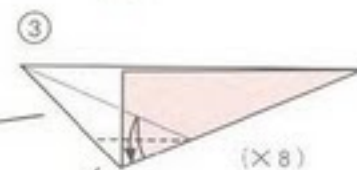
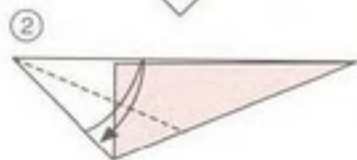
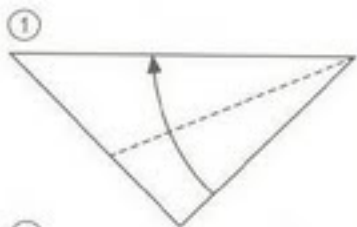
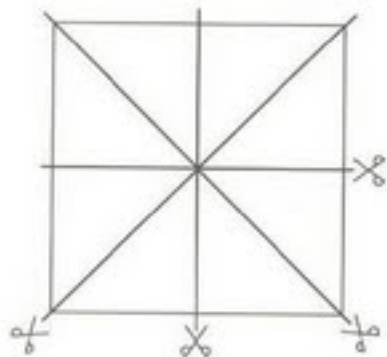
古代ギリシャの哲人達は、この1：1.6を最も調和のとれた美しい比と考え、黄金比と名づけました。黄金比は正五角形の一辺と対角線の長さとの比にみられます。正五角形を描くのは難しいけれど、自然界には、五弁花などきれいだなと感じるものに黄金比が隠れているのはちょっとおもしろいですね。前ページのアステカ宮殿には、黄金比の数の列が現れています。

# 正八角形リング

15cm 角の紙を使う場合、  
図のように8つの三角に  
切ると、ほどよい大きさ  
になります

永田紀子 (by NAGATA Noriko) / 日本

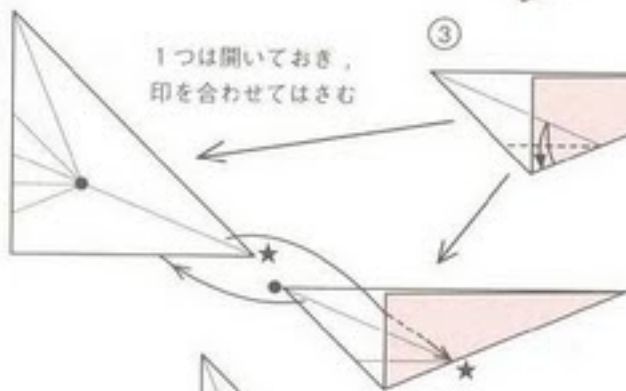
ごく簡単に作れるリングです。このリングは  
内側にポケットがあるので、写真フレームな  
どもにも活用できます。



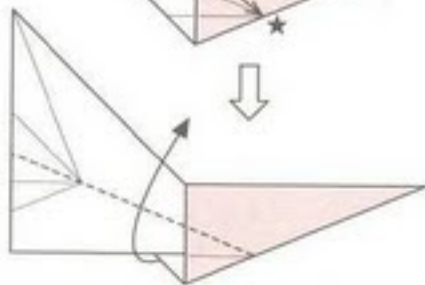
[組み方]

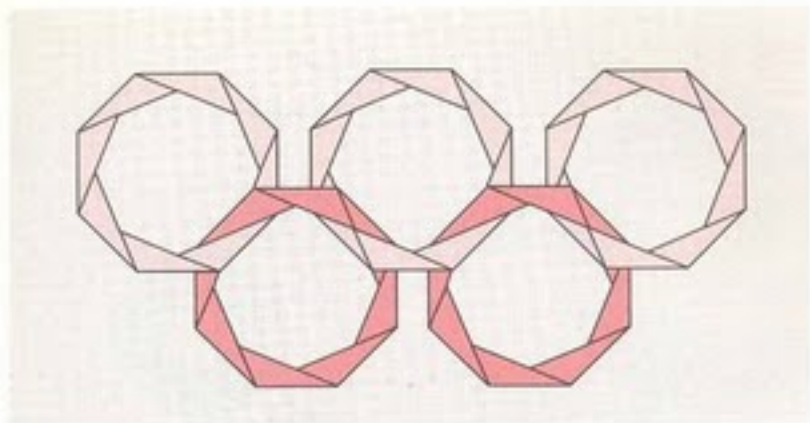
1

1つは開いておき、  
印を合わせてはさむ

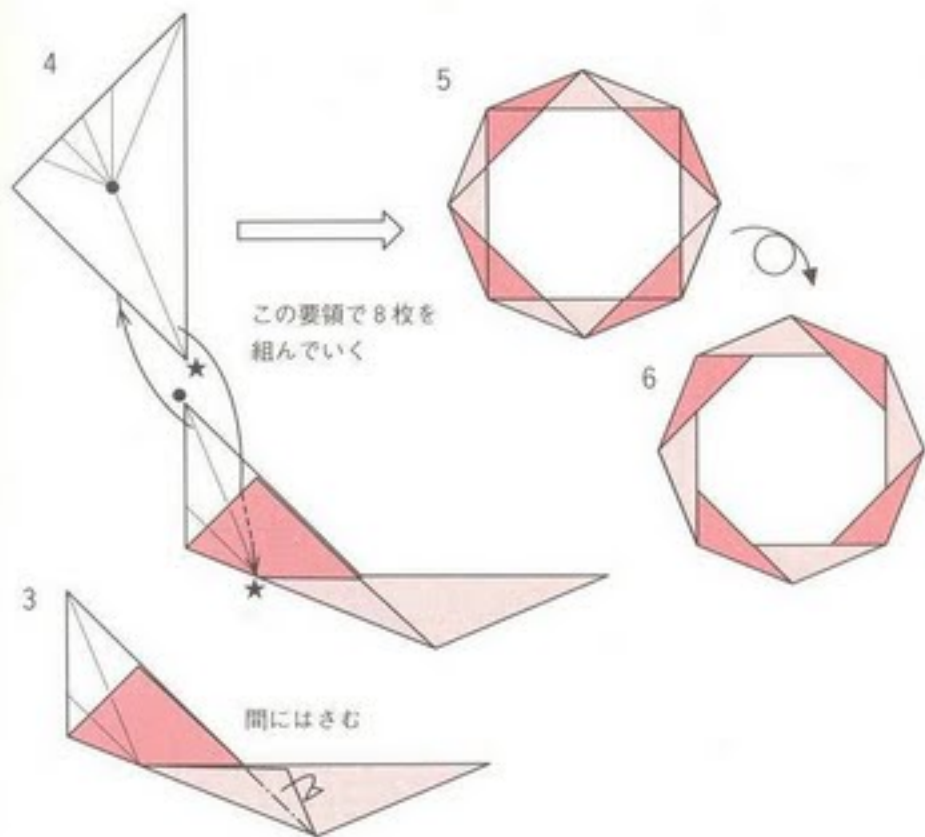


2





このように五輪の輪に組むこともできる

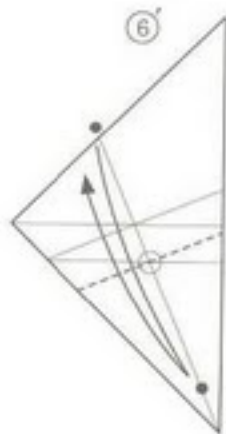
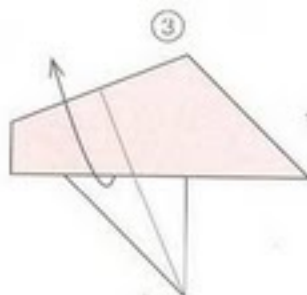
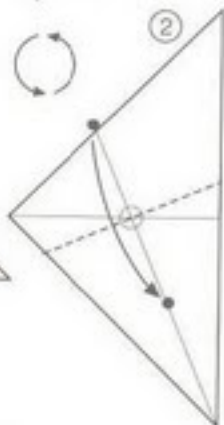
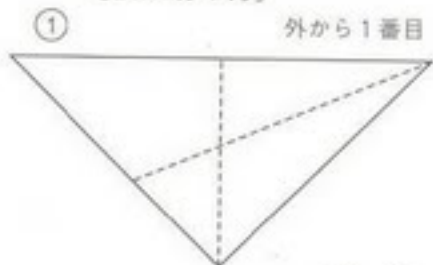




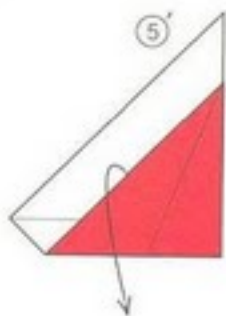
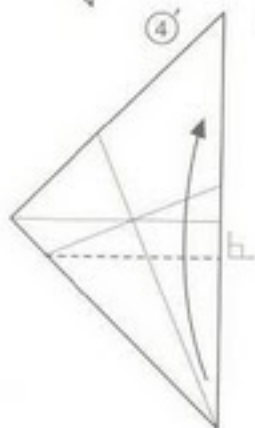
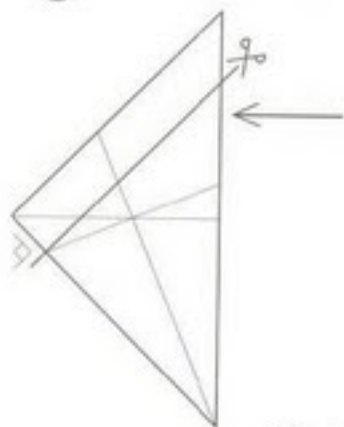
# 多重リング

順に紙を切って、八角リングの中へ中へとはめこんでいきます。配色に工夫してたのしいものを作ってください。

[紙の切り方]



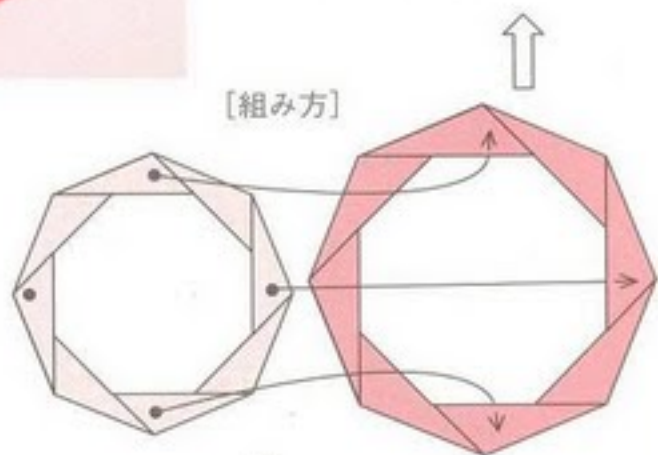
④ 外から2番目



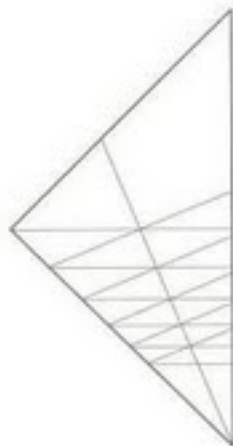
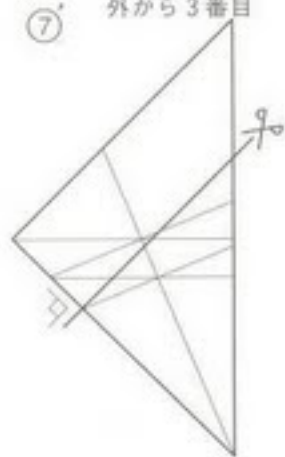


[組み方]

●印のかどをはさむ



⑦ 外から3番目



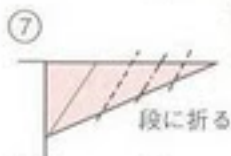
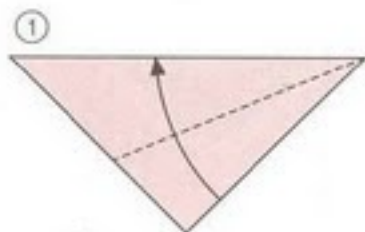
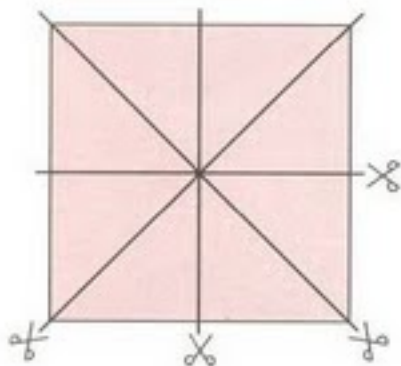
同じ要領で順に寸法をとり  
次々はめこんでいく

# サークルツリー

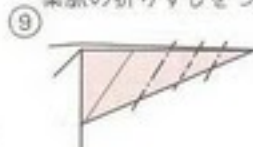
永田紀子 (by NAGATA Noriko) / 日本

15cm 角の紙を使う場合、  
図のように8つの三角に  
切ると、ほどよい大きさ  
になります

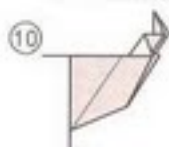
正八角形のリングに木の葉の飾りがつきます。  
これも二重に重ねると、より豪華になります。

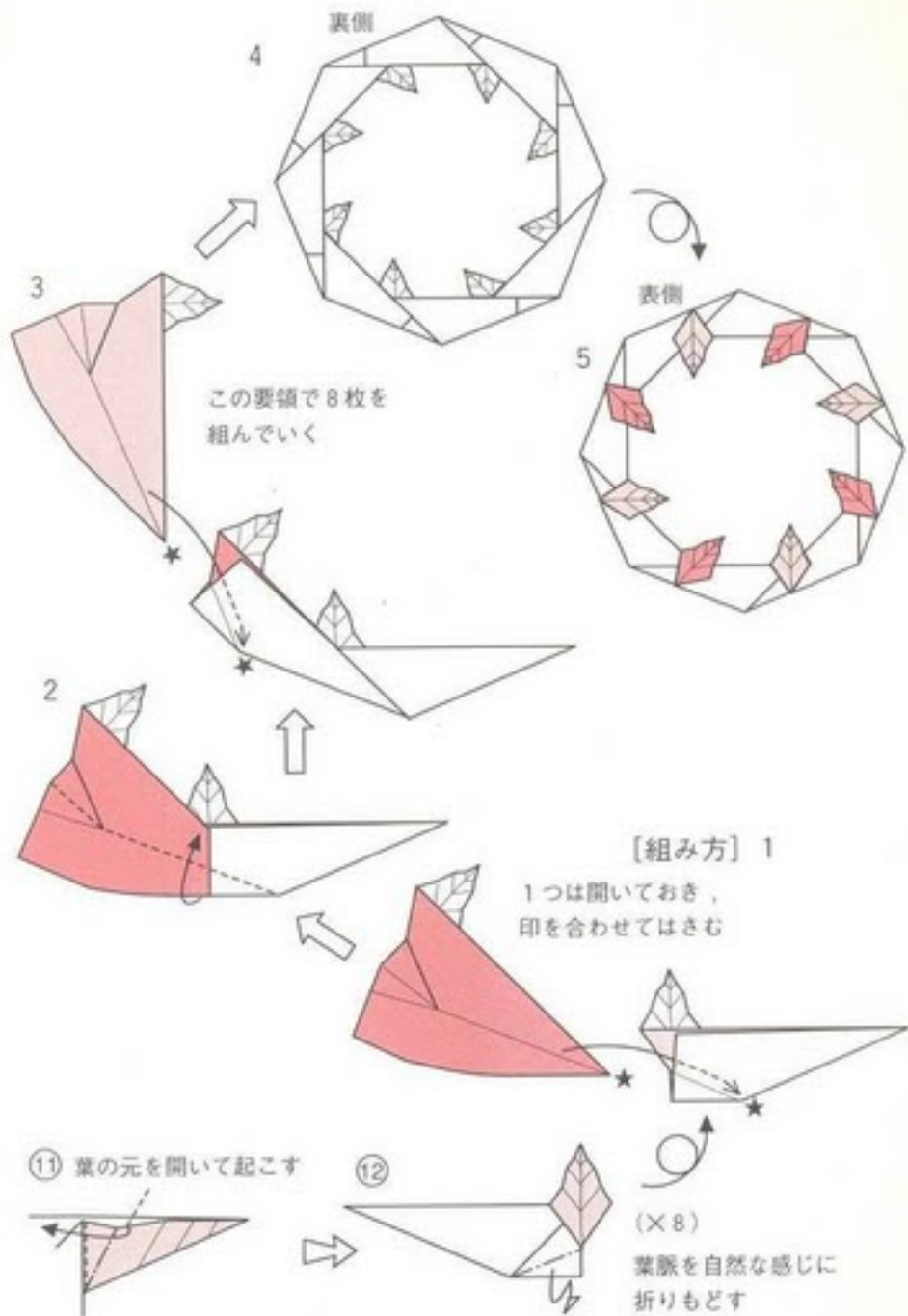


中割り折りをくりかえして  
葉脈の折りすじをつける



いったんもどす

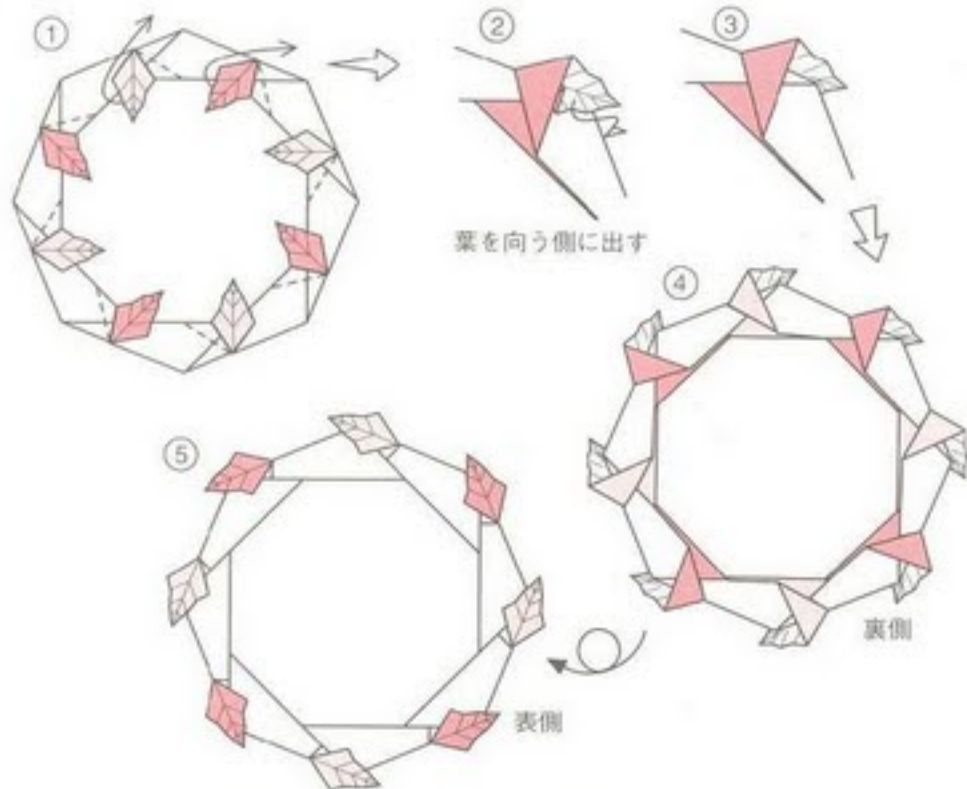




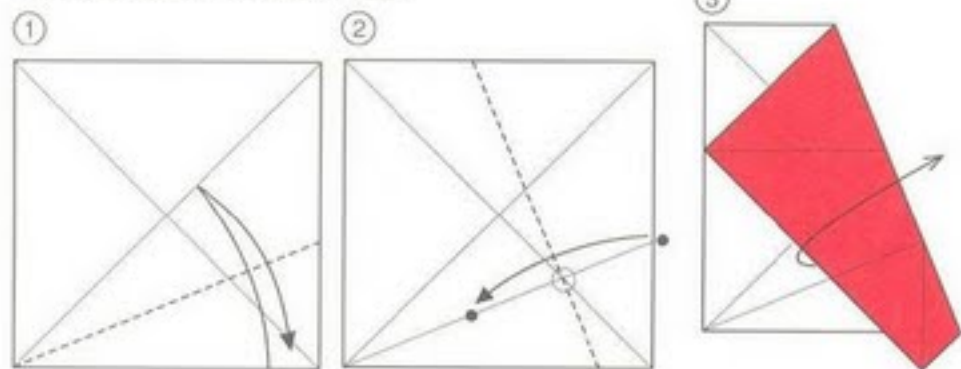
## 二重にするとき

[外側のリング]

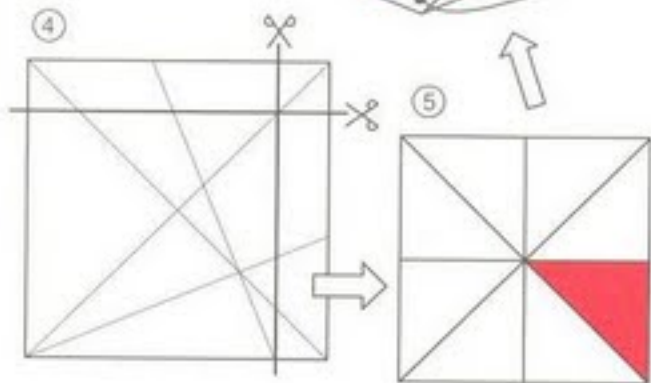
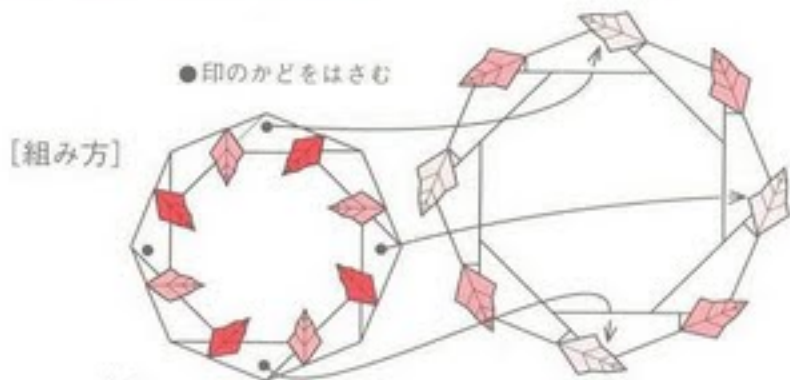
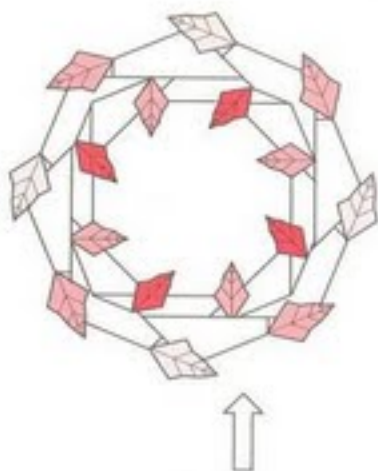
リングを二重にするときは、外側のリングの葉を外に向けます。



[内側のリングの紙の切り方]





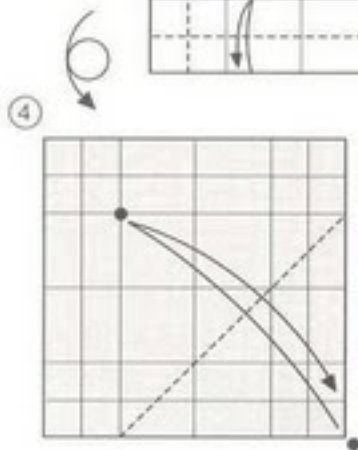
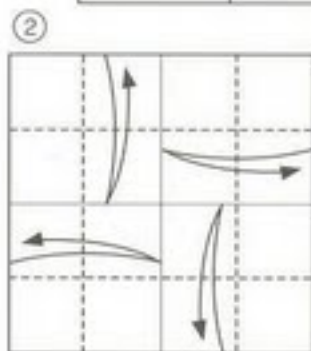
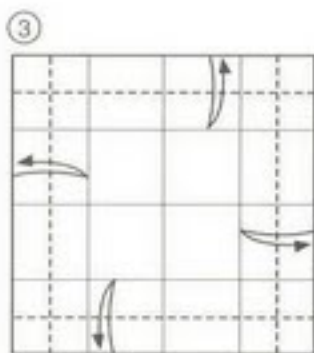
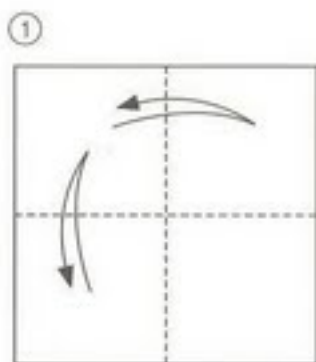


この大きさの紙でサークルツリー (40 ページ) をつくる

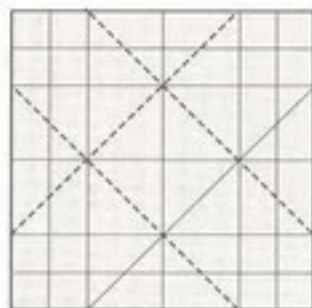
# どこでもボックス・基本

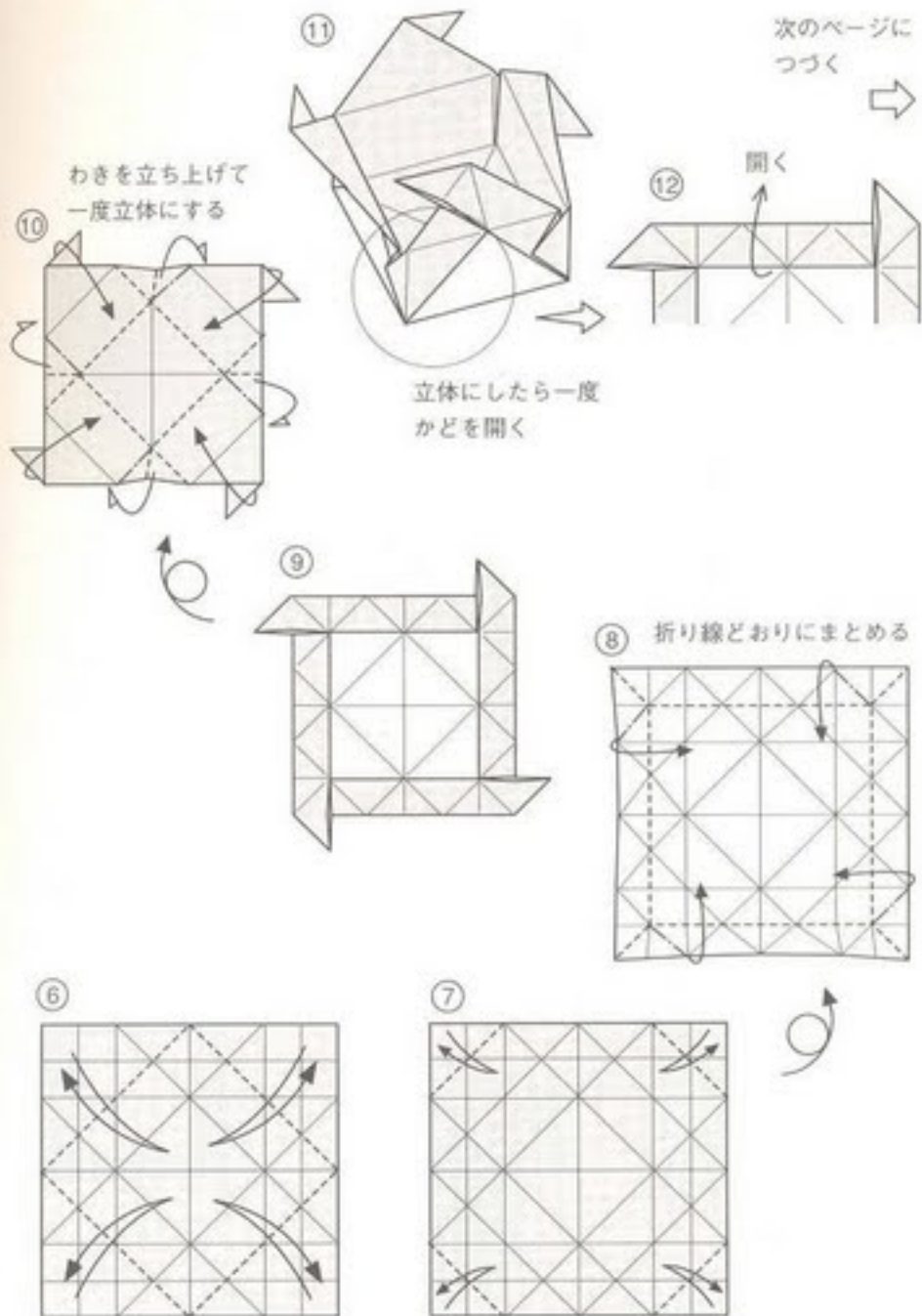
永田紀子 (by NAGATA Noriko) / 日本

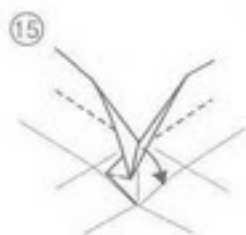
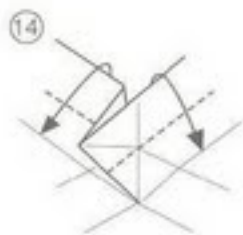
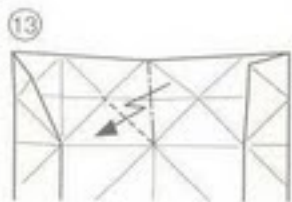
伝承の「風車」をずらして折った⑨の形から、箱として脇を立ち上がらせる場所を変えていくと、次々にいろんな箱ができます。また、重ねて重箱にすることもできます。まず「基本」から始めましょう。



⑤ 同じ要領で折り線をつける



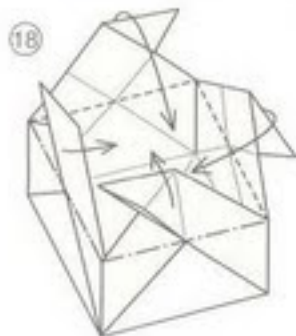
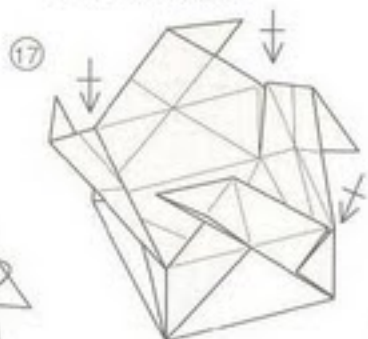




あと3ヶ所も(12)~(16)  
と同じように折る

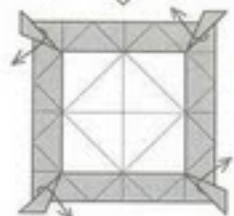
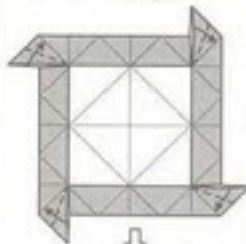


先を中に入れて  
順にふたをする



▶ 十字どめ ◀

45 ページ(9)から



ふたはこのようにして  
とめてもいいですね



以下、45 ページ(10)  
からと同じように  
折る

# どこでもボックス・基本の重箱

使い道によりますが、最上段以外は、46ページの⑱の折り線をつけないほうがしっかりします。



脇のポケットに差しこんで、順に数個を重ねる。  
最上段はふたをする



46ページ⑱

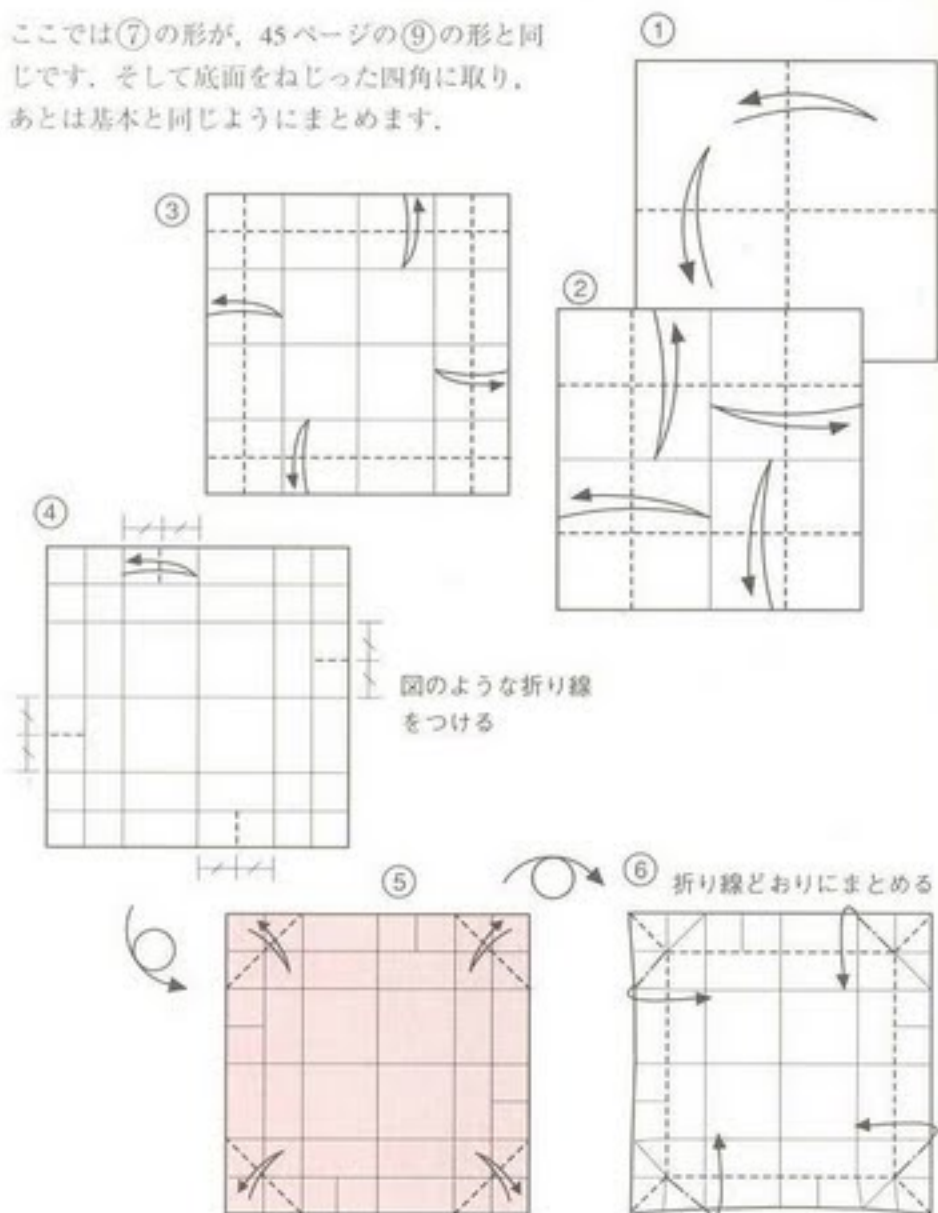


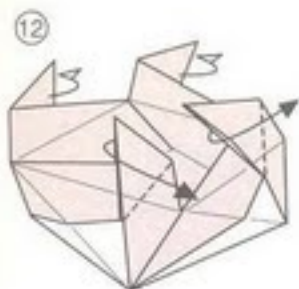


# どこでもボックス・ねじれ

永田紀子 (by NAGATA Noriko) / 日本

ここでは⑦の形が、45ページの⑨の形と同じです。そして底面をねじった四角に取り、あとは基本と同じようにまとめます。

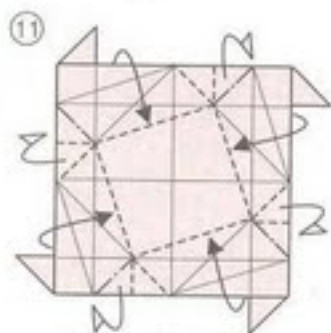




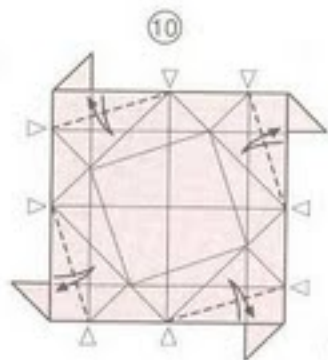
★印は下に入れて、  
順におさえるように  
折っていく



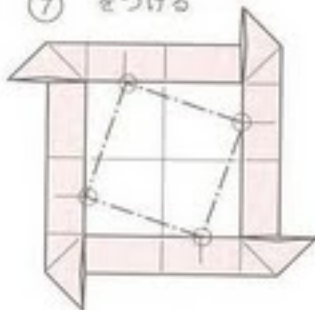
以下、45ページ⑪～⑰  
までと同じ要領で折る



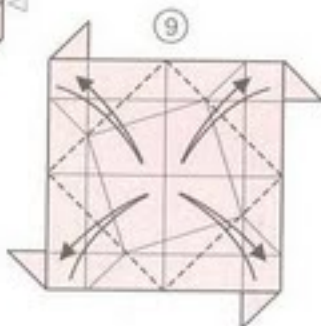
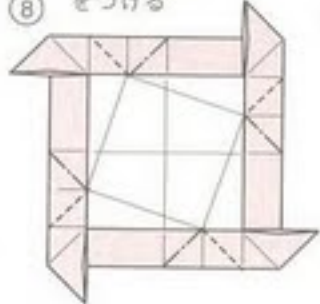
わきを立ち上げて  
1度立体にする



⑦ 図のような山線  
をつける

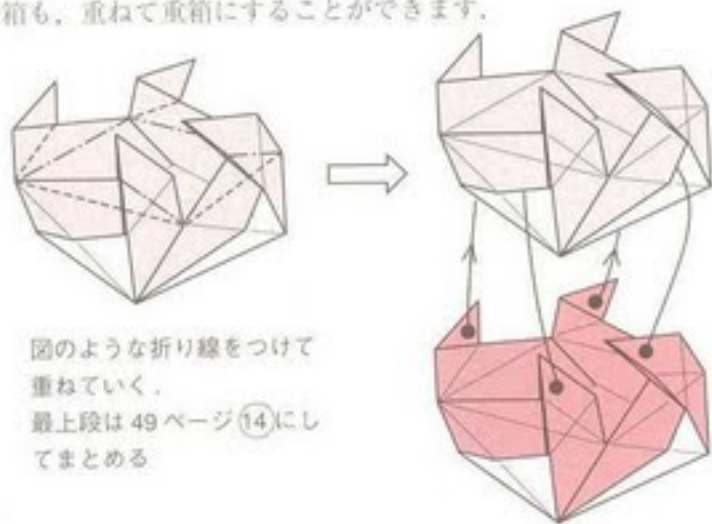


⑧ 図のような折り線  
をつける

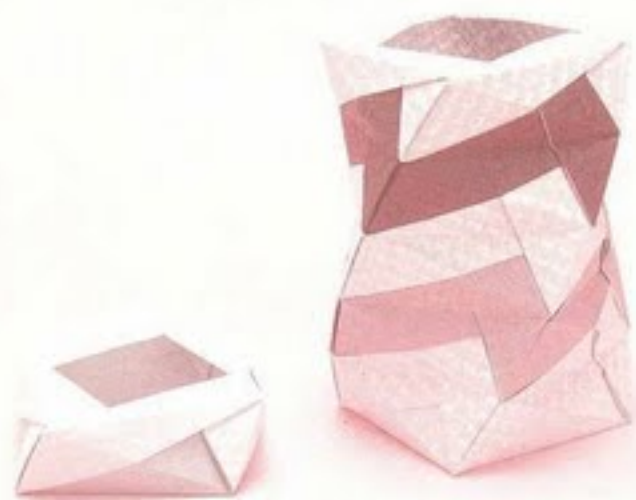


# どこでもボックス・ねじれの重箱

「ねじれ」の箱も、重ねて重箱にすることができます。



図のような折り線をつけて重ねていく。  
最上段は49ページ⑭にしてまとめる

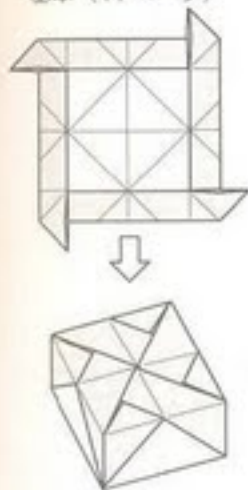


# どこでもボックスいろいろ

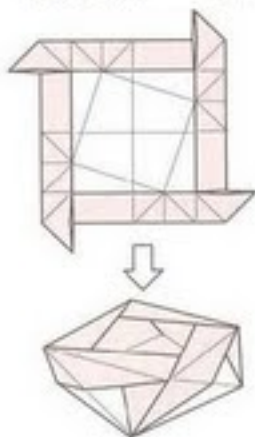
「どこでもボックス」という名前のおりに、箱の底面の取り方でいろいろな形の箱ができます。ここに一部を書きました。

「あ」や「い」のように風車の幅をかえたり、「う」や「え」のように底面を長方形や台形にとることもできます。

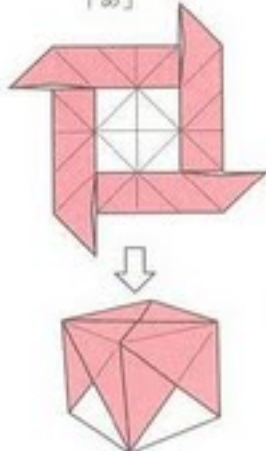
基本 (44 ページ)



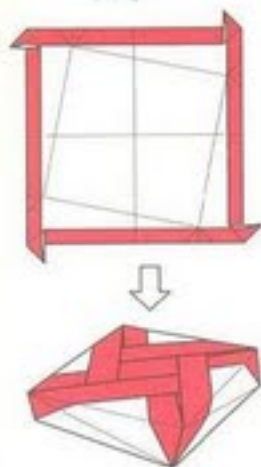
ねじれ (48 ページ)



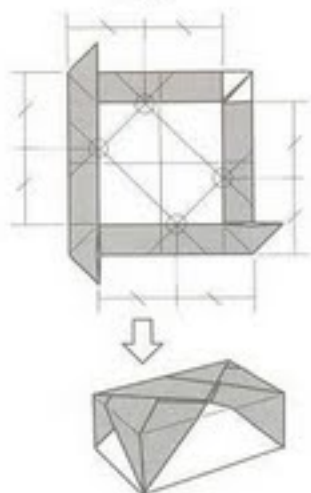
「あ」



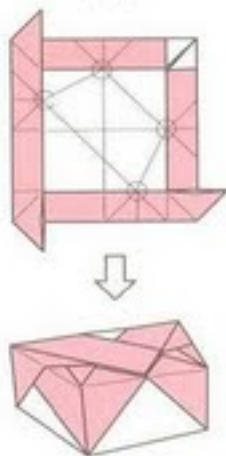
「い」



「う」

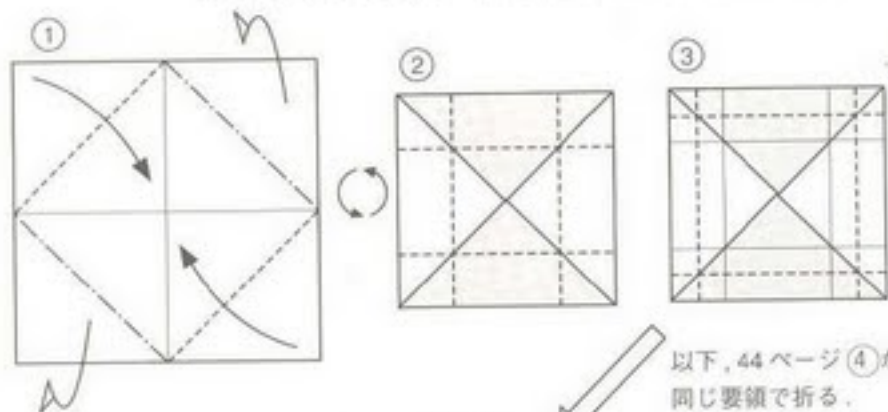


「え」



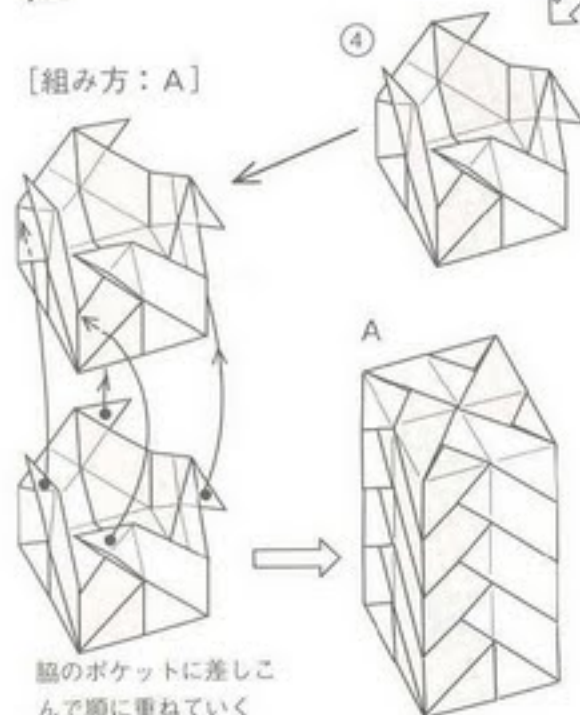
# どこでもボックス・市松のお重

一度ざぶとん折りをしてから「基本」(44 ページ) を折ると、市松のもようが出ます。90 度まわして重箱の横の模様を変えるのもたのしいですね。また「B」のような組み方もできます。



以下、44 ページ ④ からと同じ要領で折る。  
最上段以外は、46 ページの ⑱ の折り線はつけない方がすっきりする

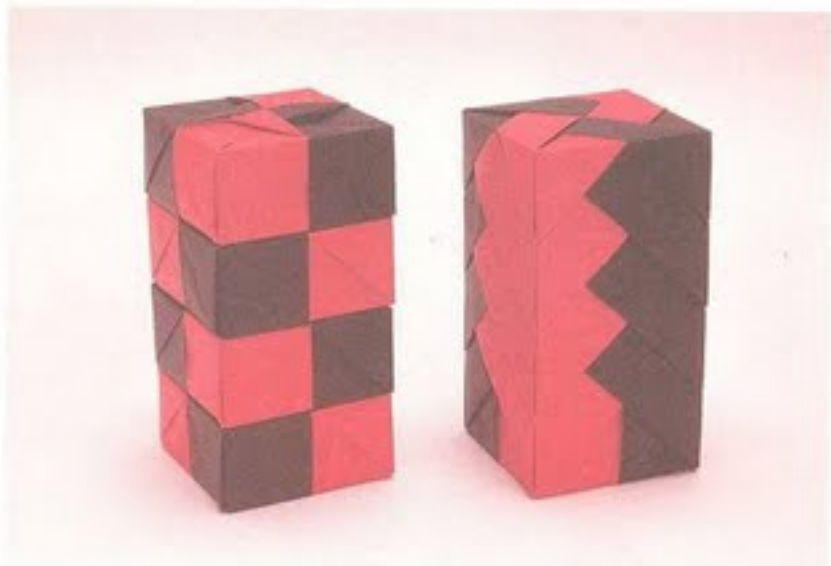
[組み方：A]



脇のポケットに差しこんで順に重ねていく

④で右ページのようにつぎ手の向きを逆にして、積み方を変えると、箱の側面のもようが変わります。





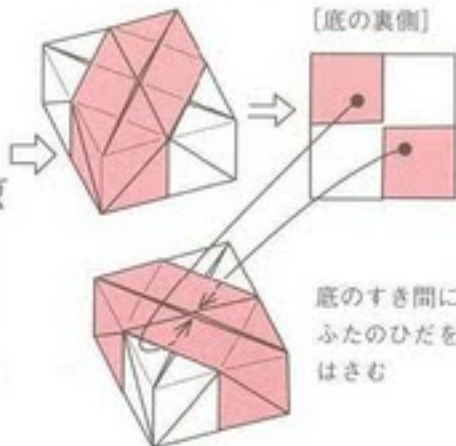
52 ページ④



[組み方：B]



すき間にはさんで  
閉じる



[底の裏側]

底のすき間に、  
ふたのひだを  
はさむ

上段のとめ方はお好み  
で自由に。この場合は  
十字どめ (46 ページ)

B



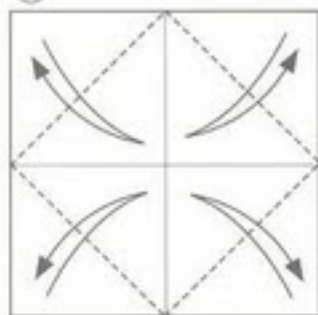


# 鶴のトッピングボックス

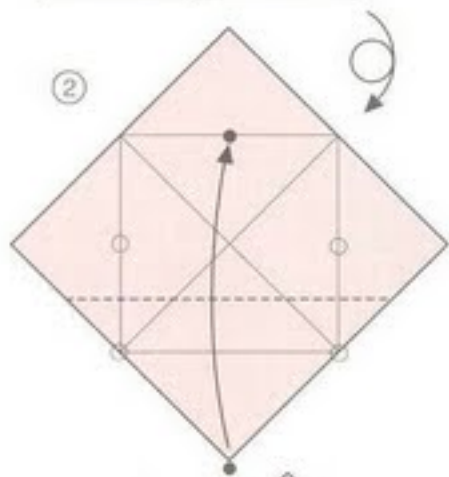
永田紀子 (by NAGATA Noriko) / 日本

「どこでもボックス」(44 ページ) のバリエーション  
ともいえる箱です、とってのように折り鶴をつけます。

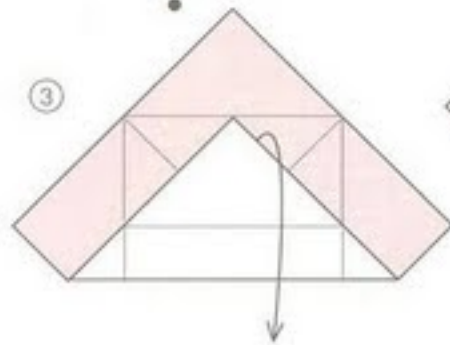
①



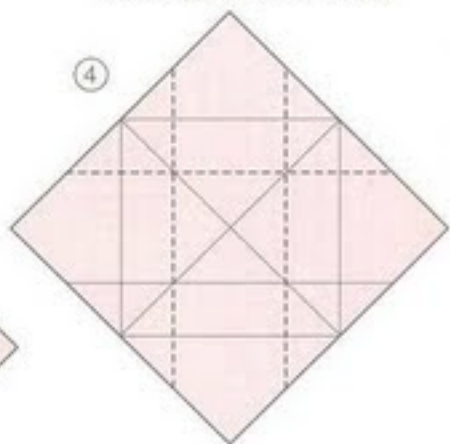
②



③

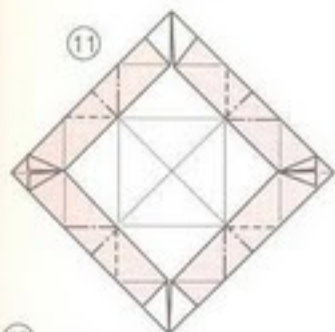


④



同じ要領で折り線をつける

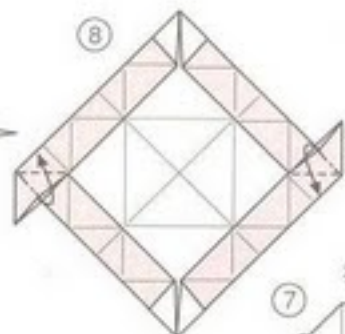




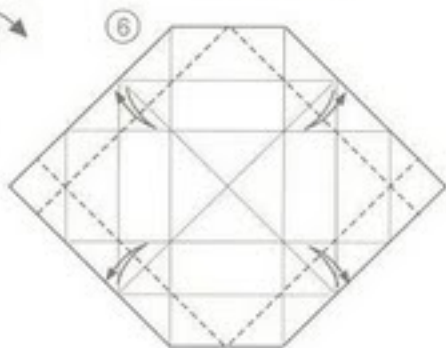
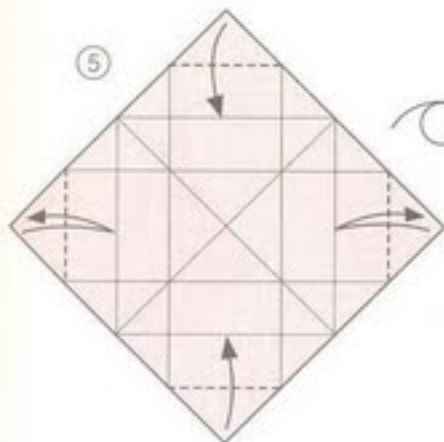
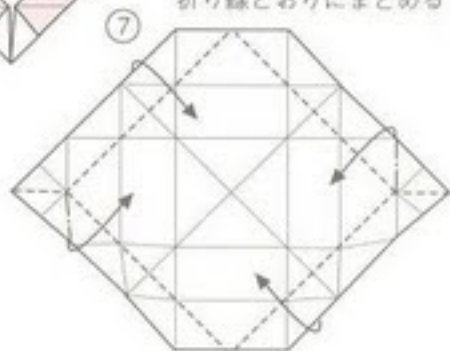
45 ページ ⑪ からと同じ  
要領でまとめる



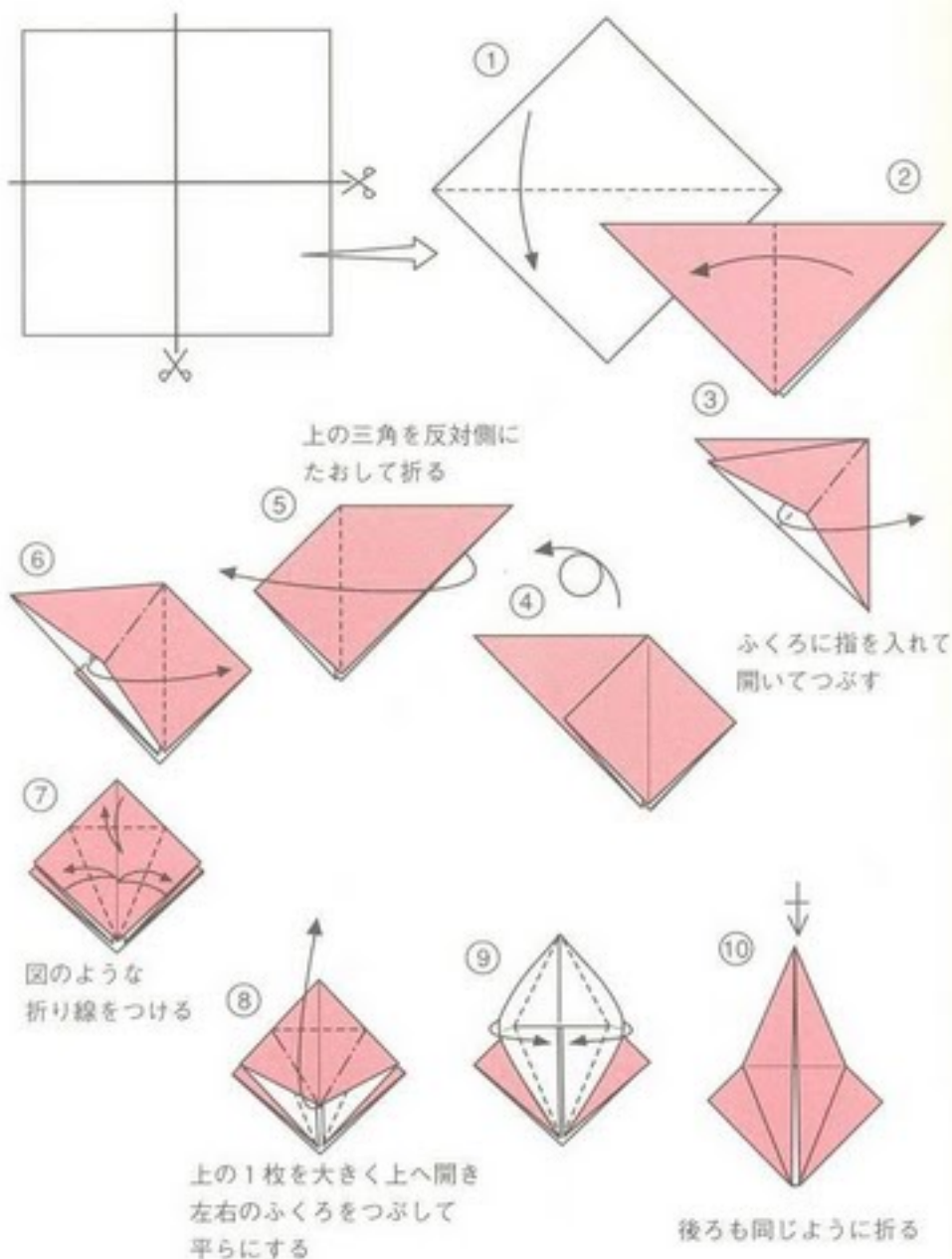
折り鶴のとり付け  
方は、次のページ →



折り線どおりにまとめる



# トッピングの折り鶴 (伝承)

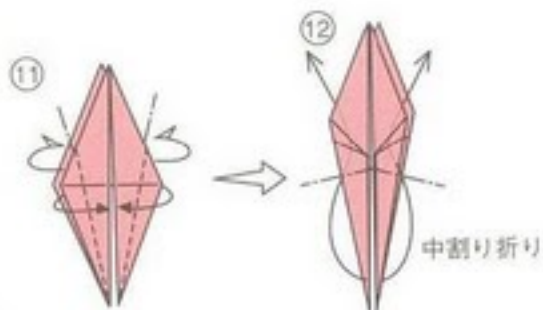




折り鶴の翼の内側のすき間に  
箱のひだをはさむ



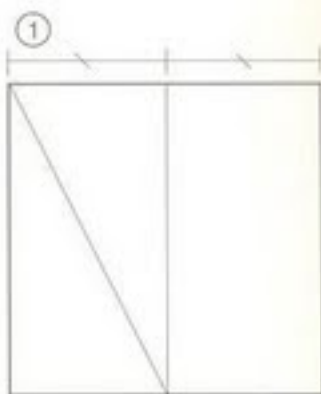
55 ページ ⑫



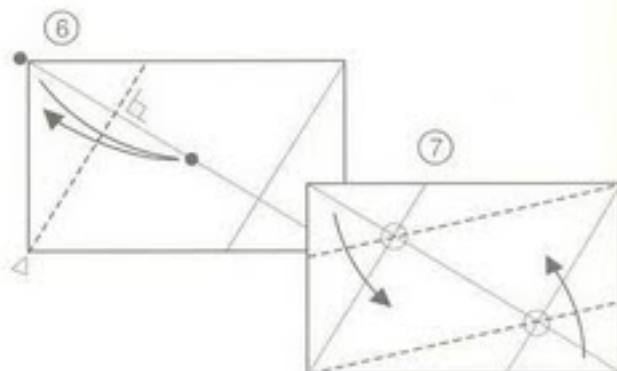
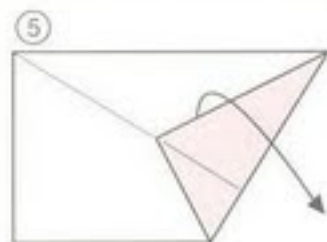
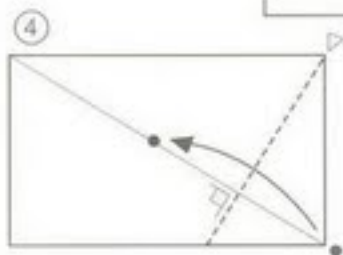
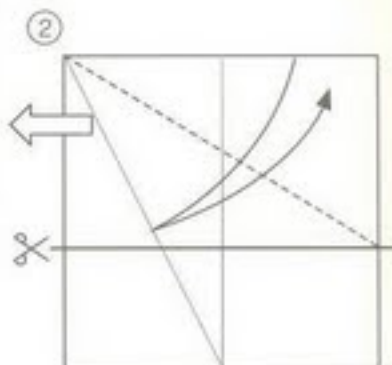
# 黄金矩形からの立方体・A

永田紀子 (by NAGATA Noriko) / 日本

永田さんは立方体ユニットをたくさん考案なさっています。前のアステカ宮殿もそうですが、黄金矩形を使ったものが特におもしろいそうです。紙を切るのが多少手間ですが、紙をむだなく使うので大きい立方体ができるし、模様変わりがいっぱいできるし、他にもちょっとした秘密のあるモビールができます。ここにそのいくつかを紹介します。永田さんの世界を味わってください。



図のような折り線をつける



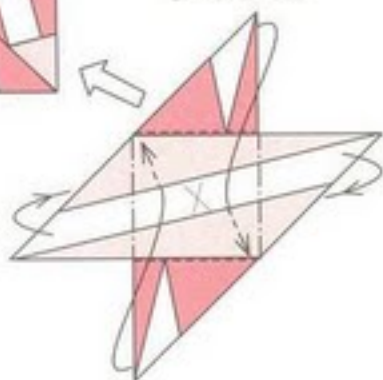
[6枚組み (立方体)]



2枚組みプレート



[2枚組み]



2枚を中合わせにして  
それぞれのポケットに  
差しこむ

(×2)



⑫



(×6)



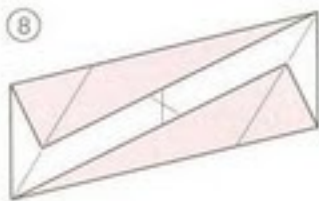
⑪



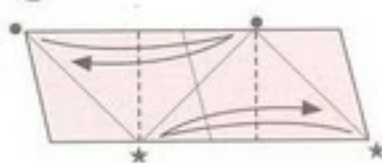
⑩



⑧



⑨

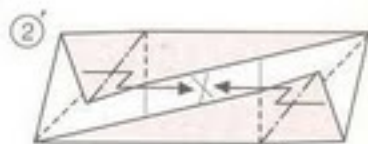
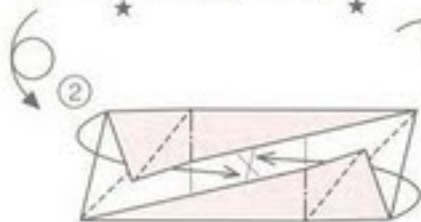
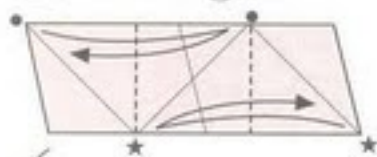




# 黄金矩形からの立方体・B, C

① 59ページ⑨から

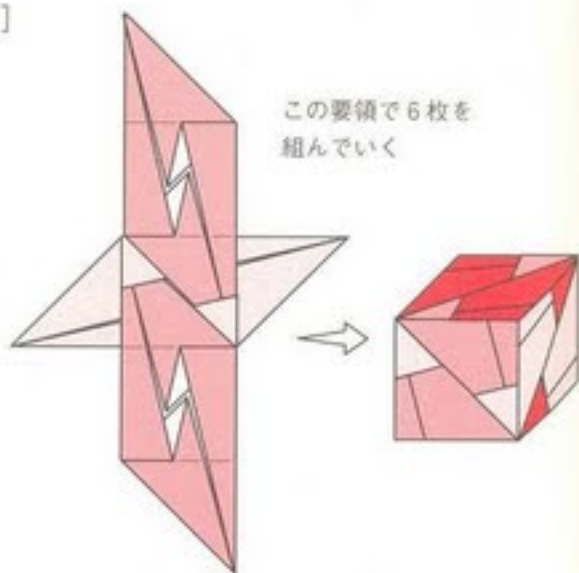
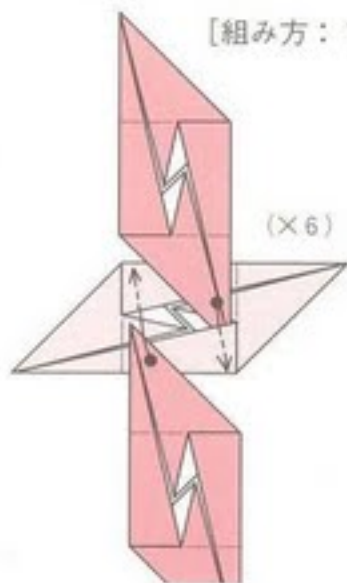
山線か谷線かの違いで「B」と「C」に別れ、それぞれのユニットにはポケットが2ヶ所あるので、2通りの組み方ができます。



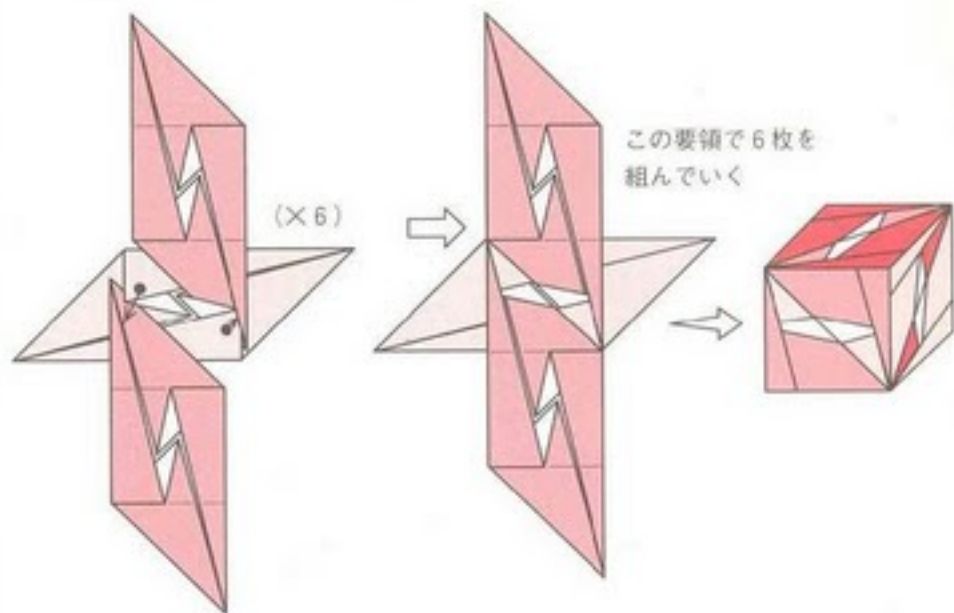
Bのユニットを使って

【組み方：1】

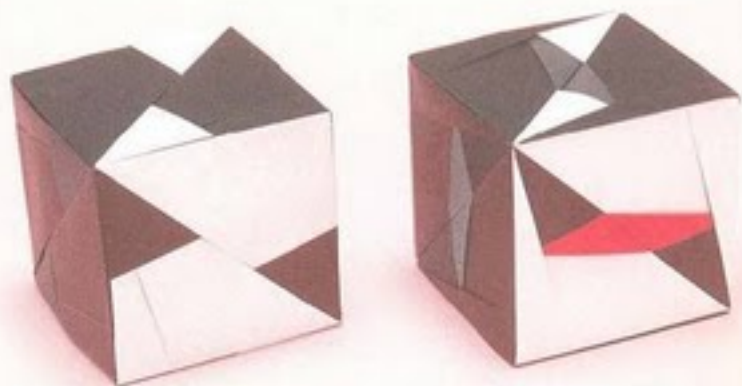
この要領で6枚を  
組んでいく



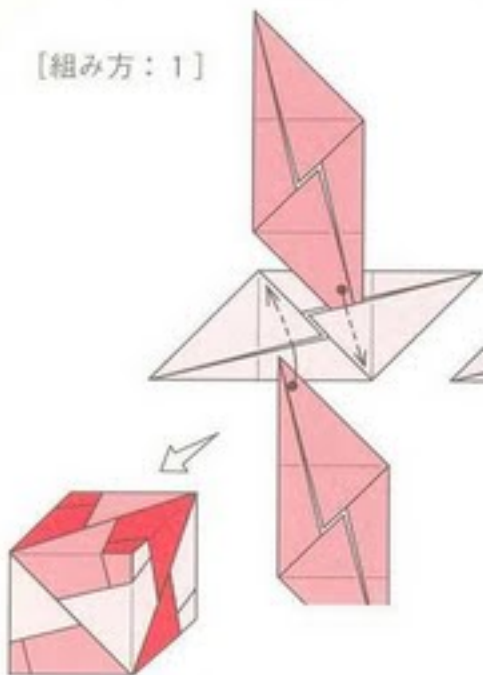
[組み方：2]



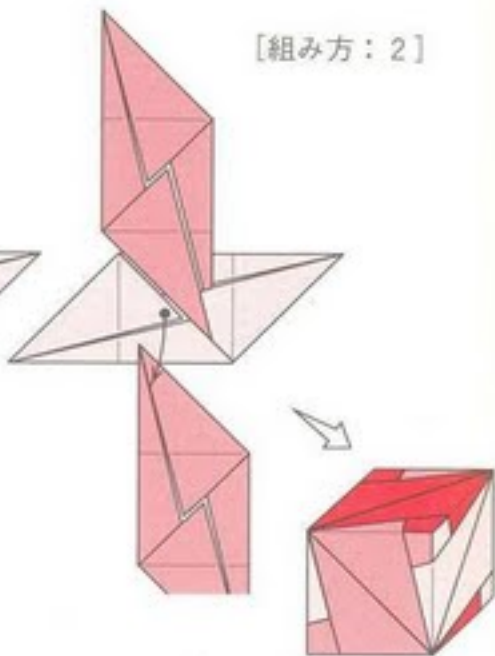
左：B-1, 右：B-2



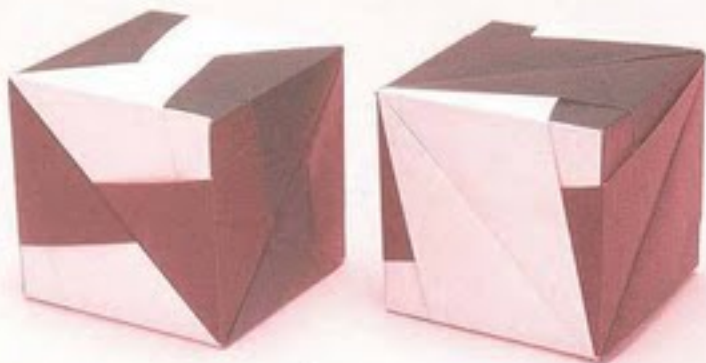
[組み方：1]



[組み方：2]



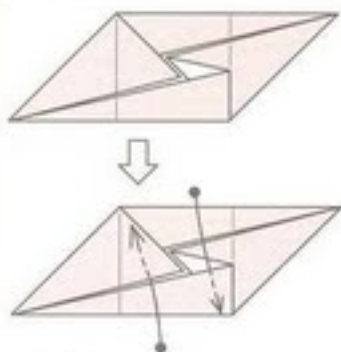
左：C-1 . 右：C-2



# 黄金矩形からの立方体・D, E

▶ D ◀

これは「B」と「C」の混合です

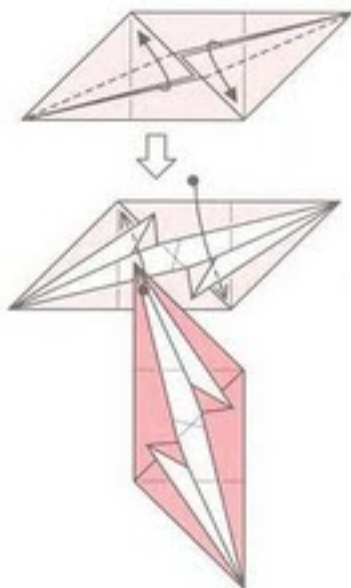


[組み方]

「A」～「E」はいずれも、ユニットも組み方も混合させることができます。各面すべて異なる柄にするなどお楽しみください

▶ E ◀

ユニットCから (60 ページ)



左：D、右：E

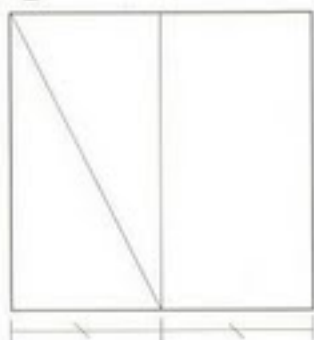


# 黄金比ユニットによるモビール

永田紀子 (by NAGATA Noriko) / 日本

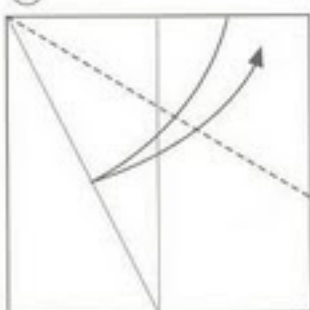
正方形から黄金矩形を取り出し、それぞれから立方体ユニットA～E (58～63ページ)の好きなものを使って2枚組みプレートをつくります。そして各プレートを糸でつなぐと、おもしろいモビールのできあがり。

①

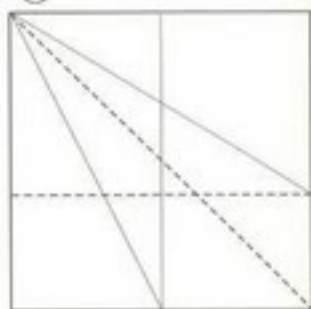


図のような折り線をつける

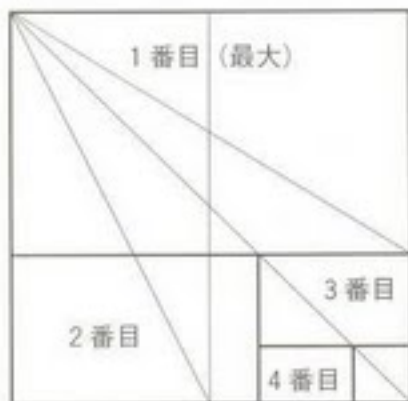
②



③

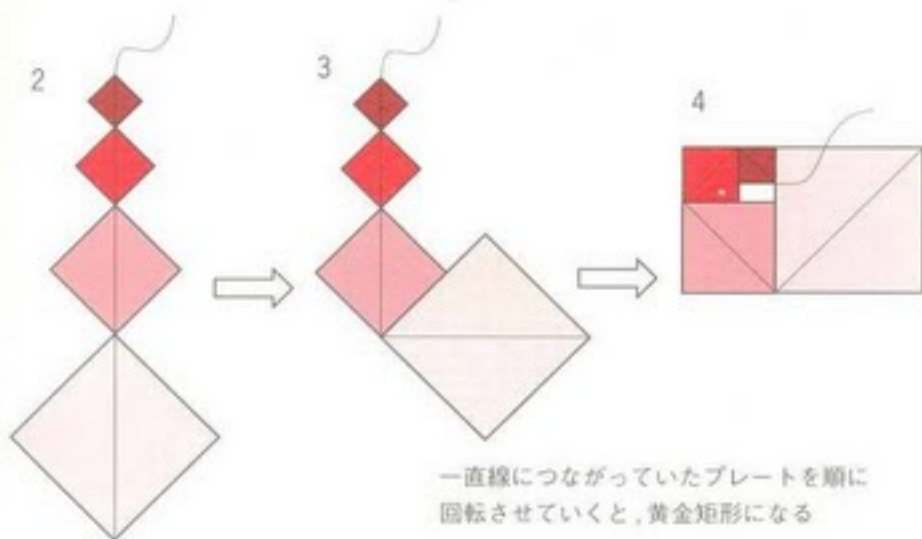


1



2枚の正方形から、左のように4通りの黄金矩形を取り出し、2枚組のプレート (59ページ参照) を作る





2枚組のプレートを  
図のように糸でつなぐ

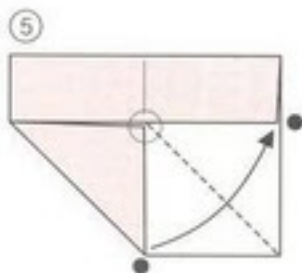
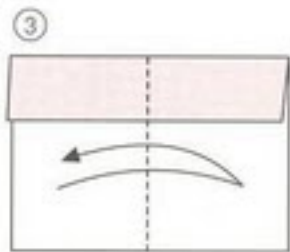
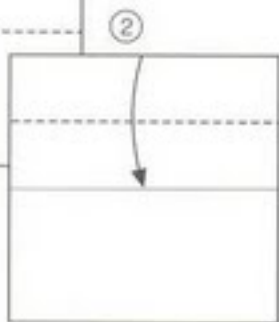
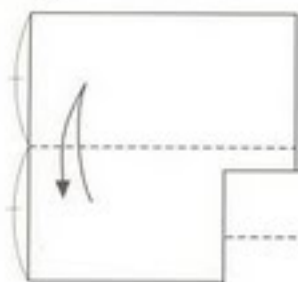


# 基本四角箱

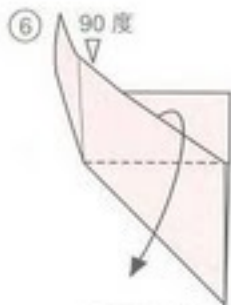
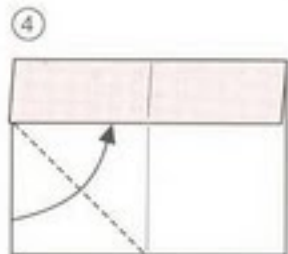
布施知子 (by FUSE Tomoko) / 日本

① [簡易法]

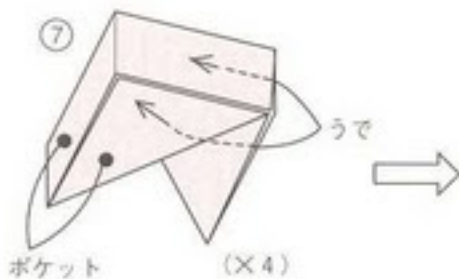
ユニット折り紙の箱の、基本中の基本です。  
ロック法は端を中に折りこむために、より丈夫  
なでき上がりになります。好きな方をどうぞ。



○印の交点まで折る



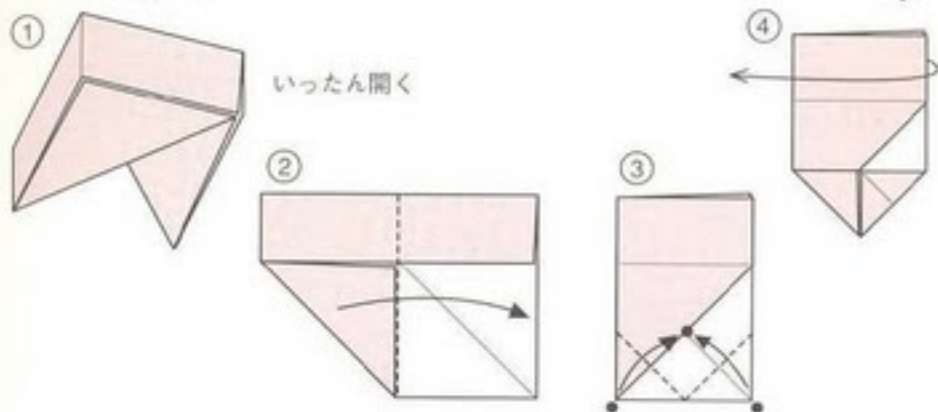
上を起こし、  
かどを90度にする



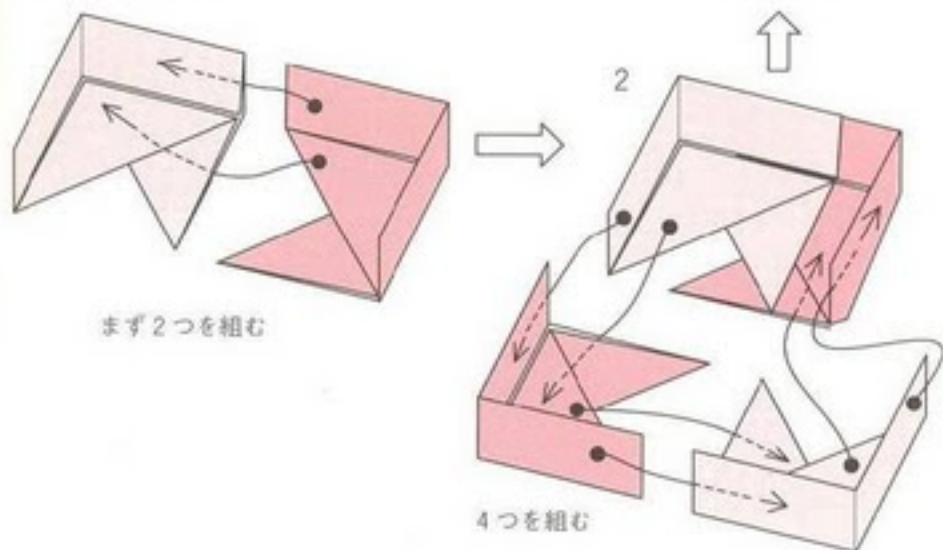
[ロック法]

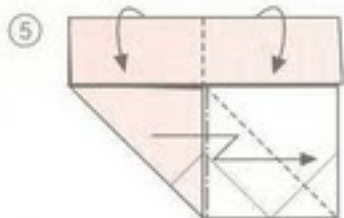
右ページ⑦から

次のページにつづく →

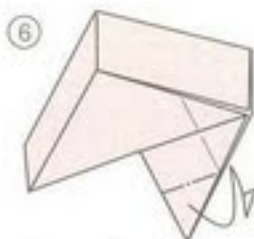


[組み方] 1



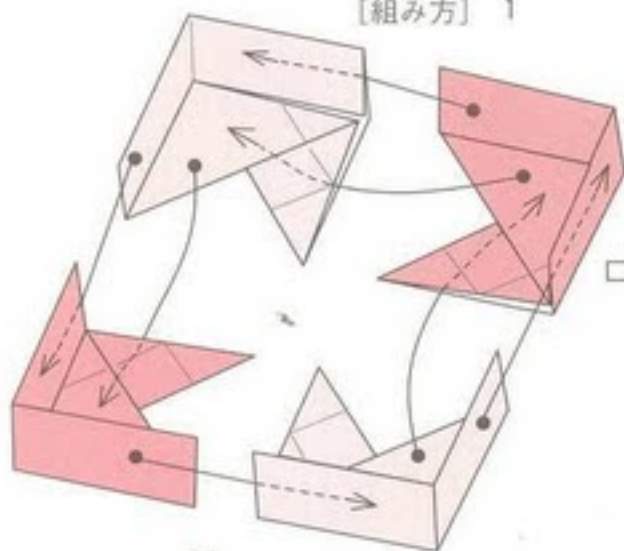


⑤ 折り線どおりに  
まとめる

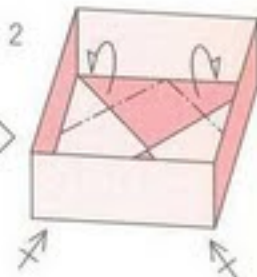


⑥ 先にもう一度  
折りぐせをつける

[組み方] 1



4 すみを内側に折りこむ

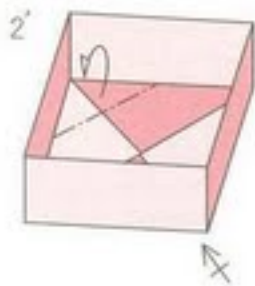


2



3 [内側の底]

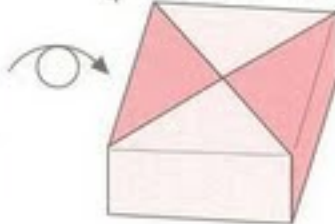
内側に折りこむ所を  
2ヶ所にしてもよい



[内側の底]



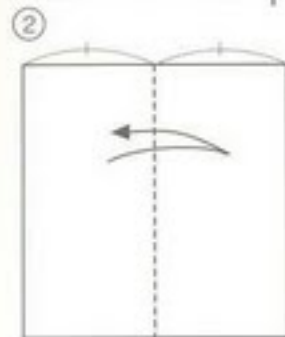
4 [外側]



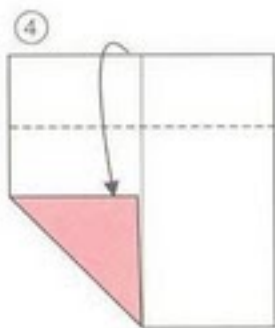
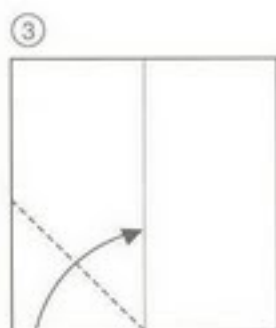
# 四角箱・小

端を3~4 mm

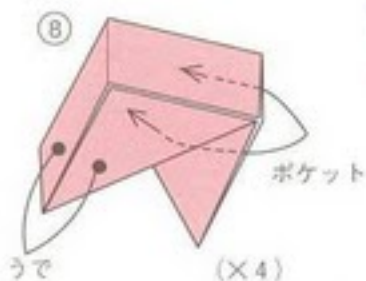
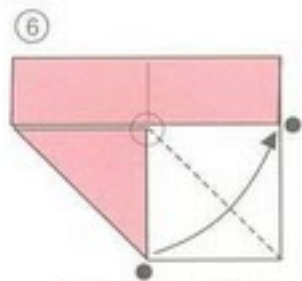
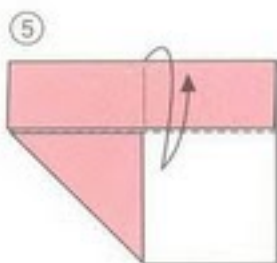
① 切り落とす



端を少し切り落としてから折ると、小さくて高さが高い箱になります。76ページの「ケーキボックス・2」のふたは、この折り方から作るとしっくりした寸法になります。



組み方は 67、68 ページ  
と同じ



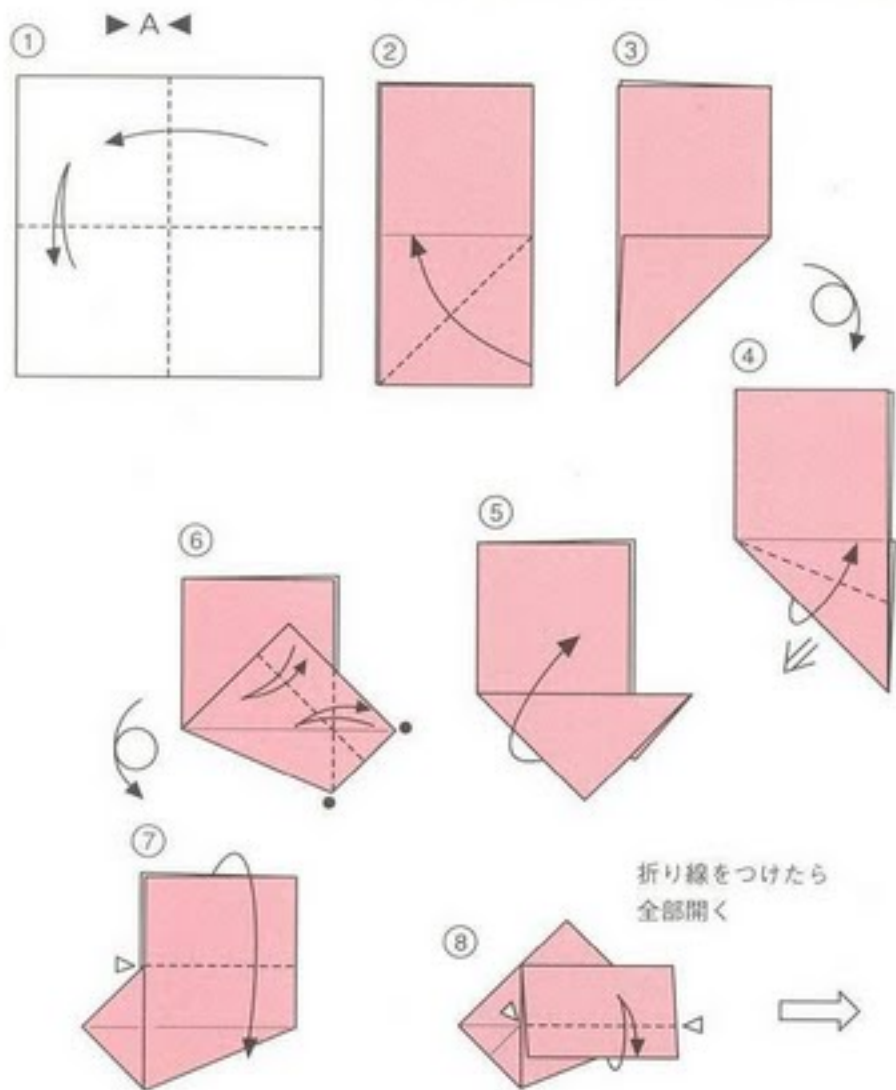
上を起こし、  
かどを90度にする

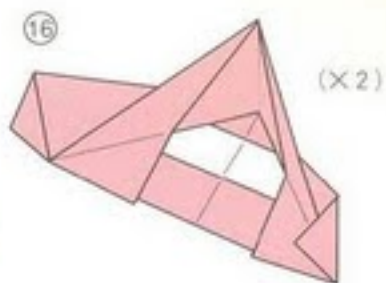
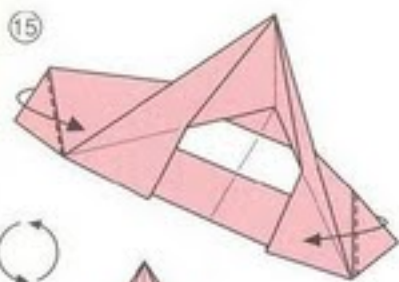
○印の交点まで折る

# 美保子のケーキボックス・1

橘高美保子 (by KITAKA Mihoko) / 日本

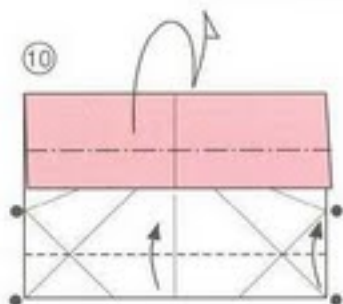
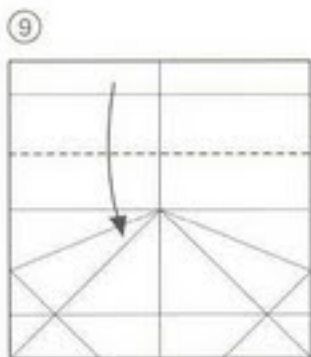
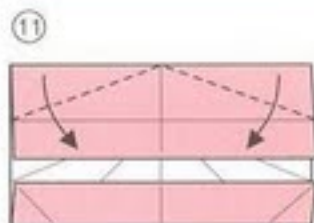
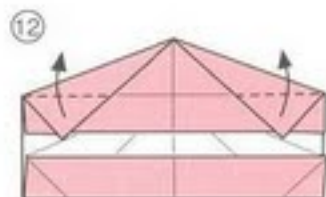
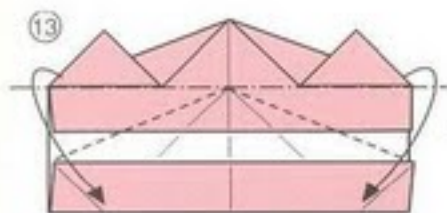
AとBの2種類のユニットを組んで箱にします。  
フリルのついたかわいいケーキボックスです。



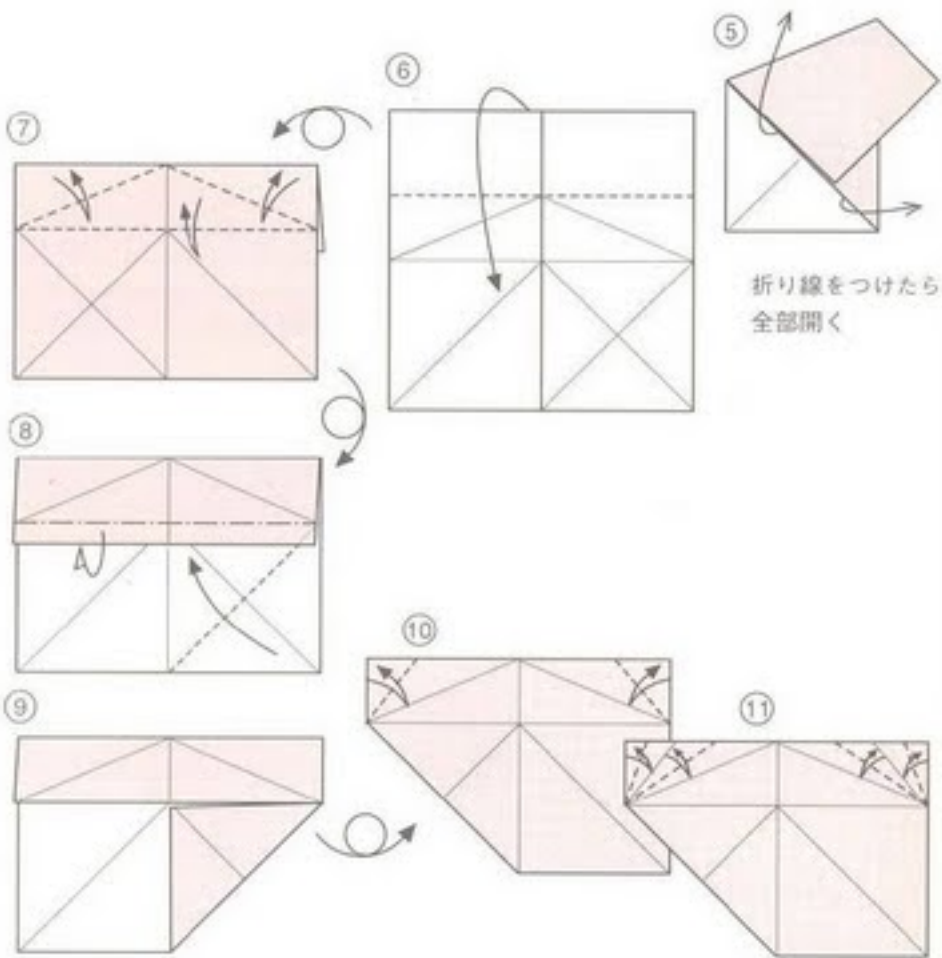
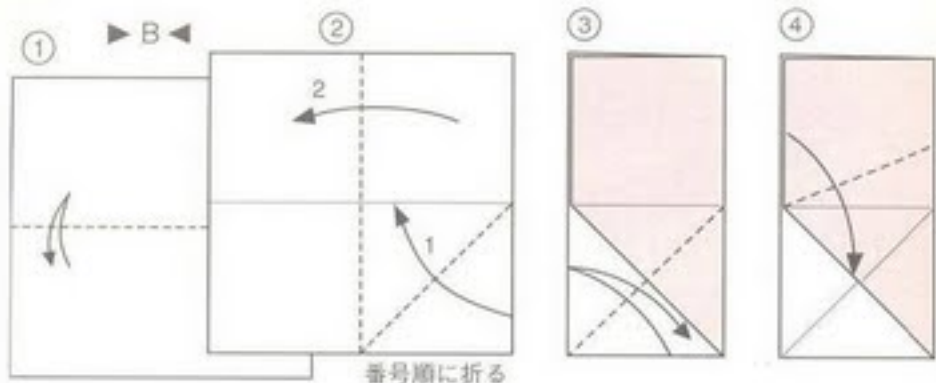


両わきを立てる

組み方は  
73 ページ

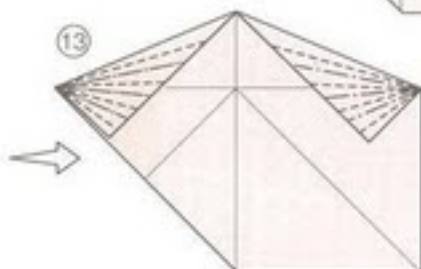
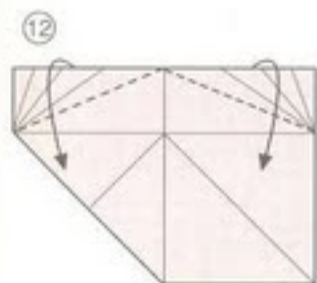
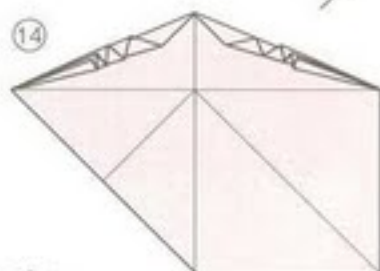
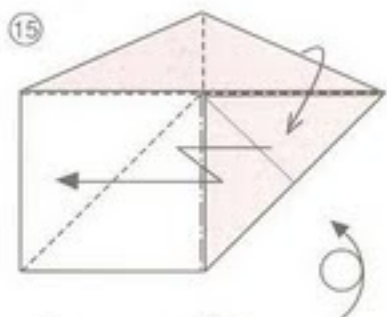
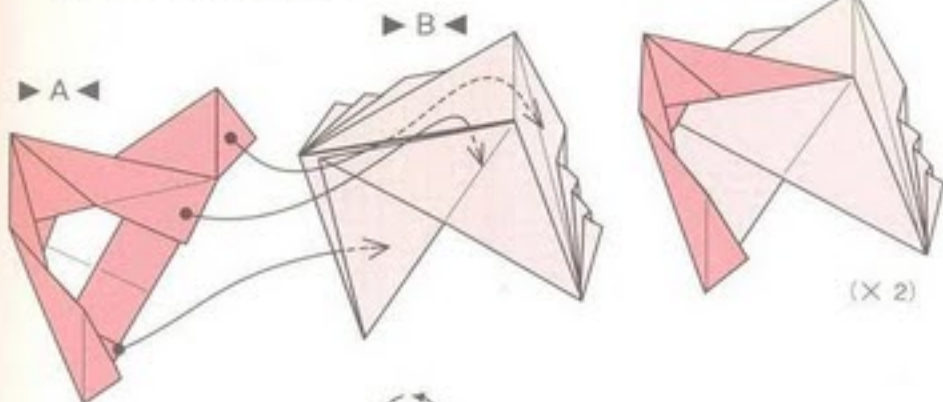






AとBを組み、これを2組作る

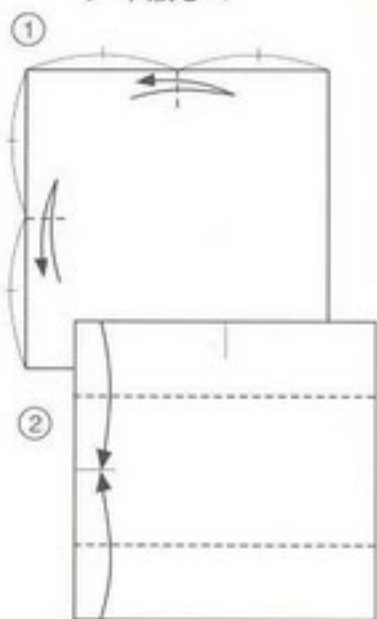
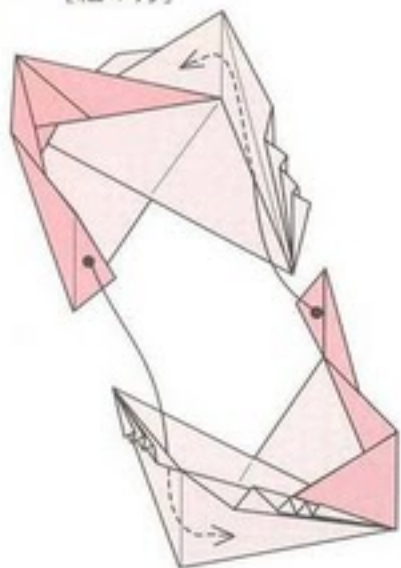
組み方は  
次のページ



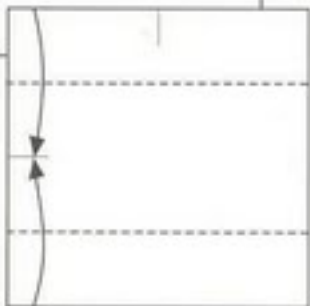
順に段に折る

[組み方]

▶ 中敷き ◀



②



③

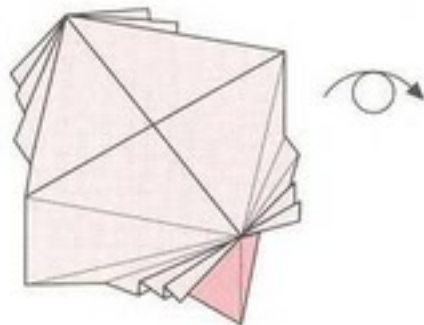


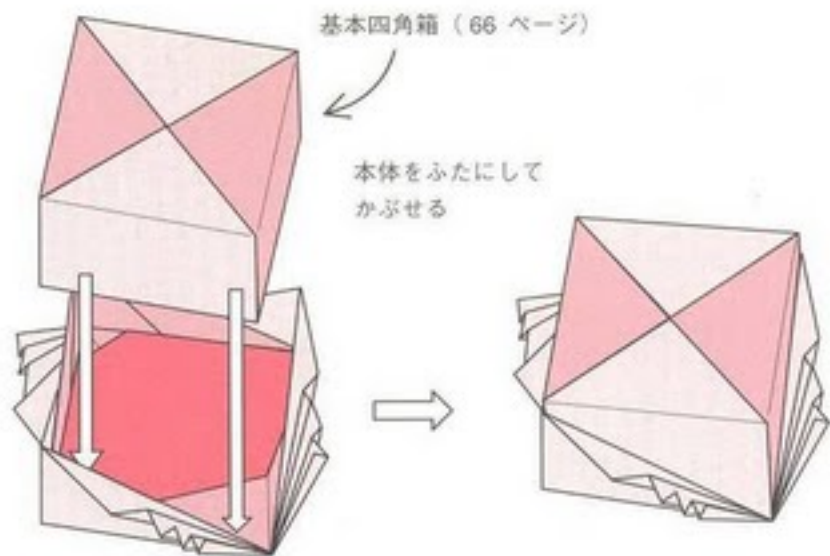
④



はさむ

中敷きをすると、箱はより丈夫になります



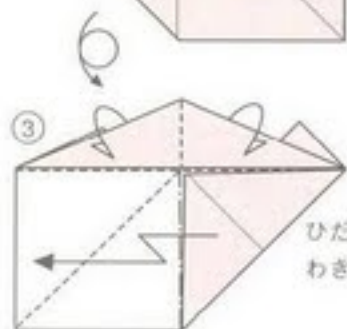
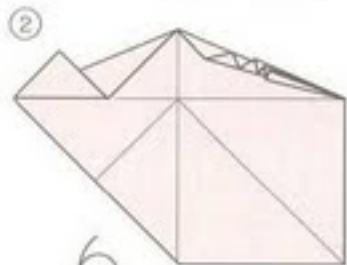
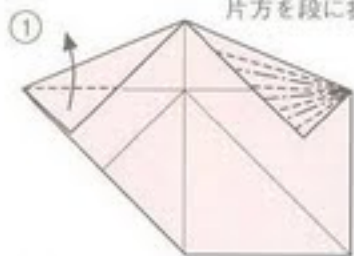


# 美保子のケーキボックス・2

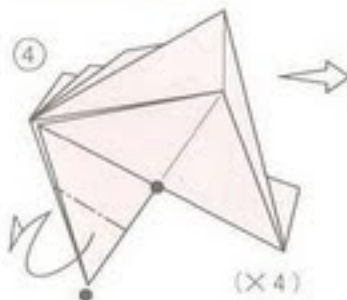
橋高美保子 (by KITTAKA Mihoko) / 日本

73 ページ ⑫ から

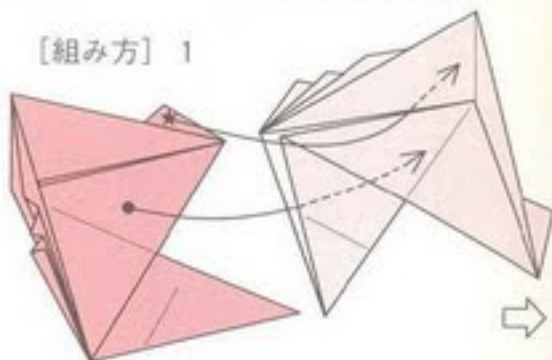
片方を段に折る



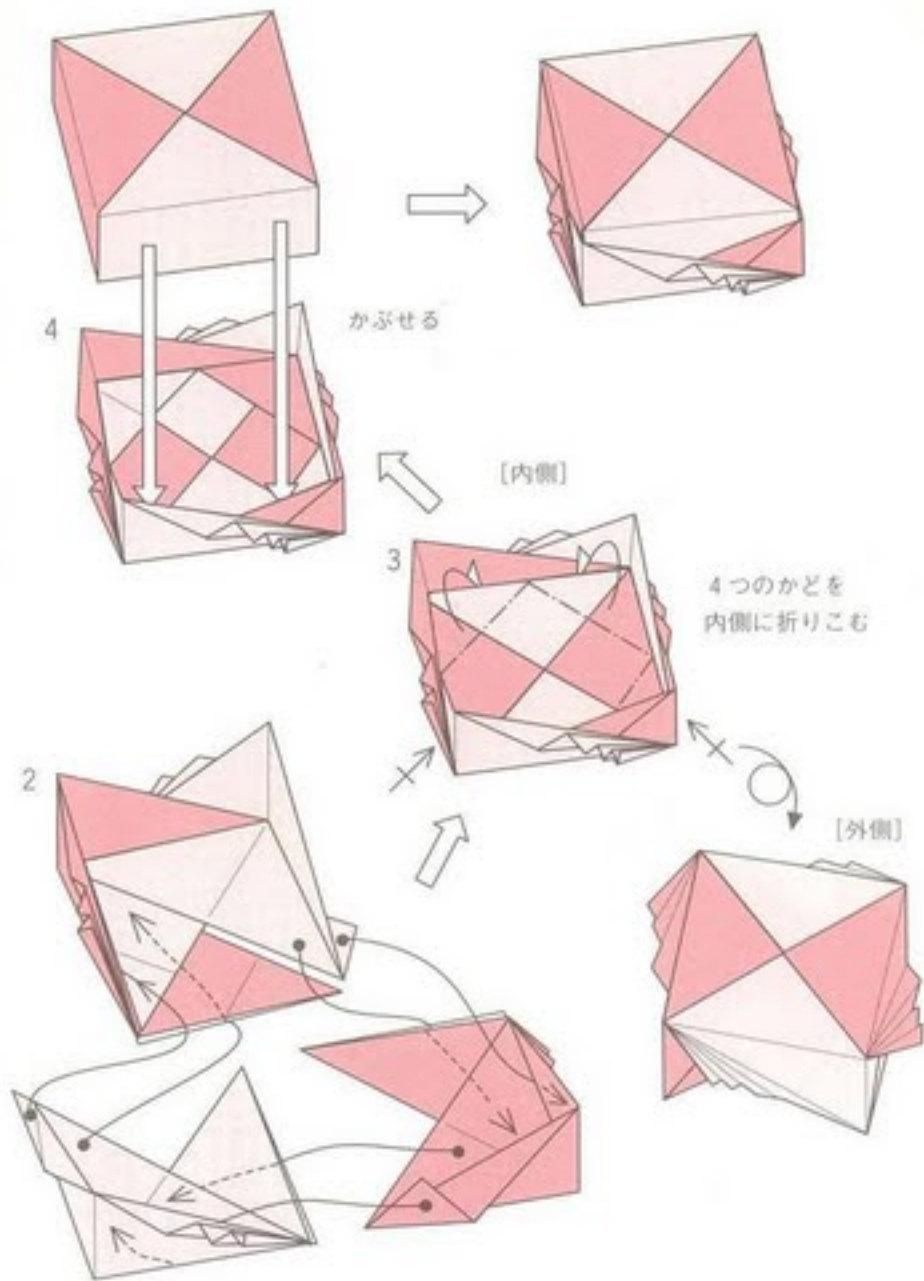
★印は下から差しこみフック  
のように引っかける



[組み方] 1



四角箱・小 (69 ページ)

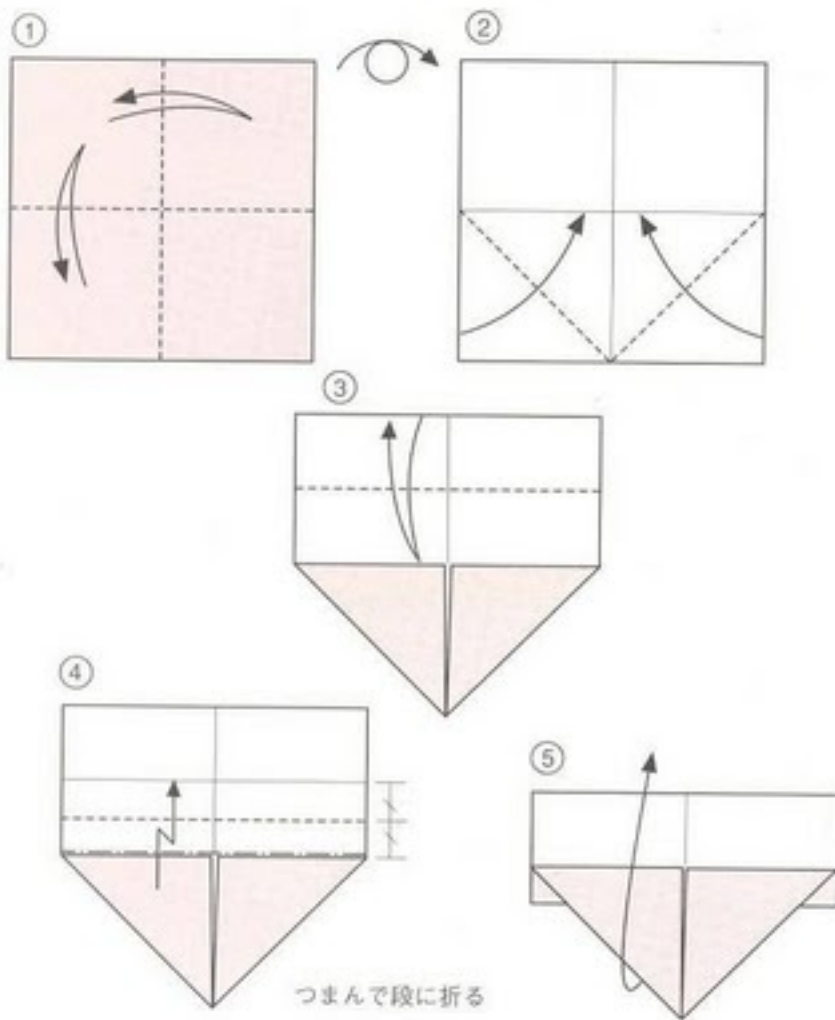




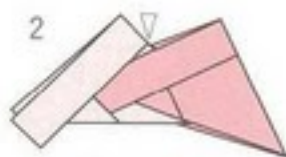
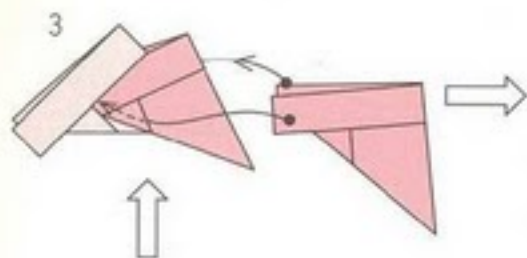
# リング・1

メッテ・ペダーソン (by Mette Pederson) / アメリカ

メッテさんは、ユニットをたくさん創作しておられます。  
中でもこれから一部紹介するリングのシリーズは、かんたんな折り、し  
っかりした組み、美しいパターン。メッテさんの代表作として、永く観  
しまれていくにちがいありません。



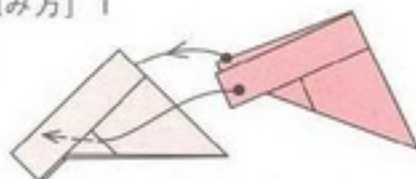
この要領で18枚を組んでいく



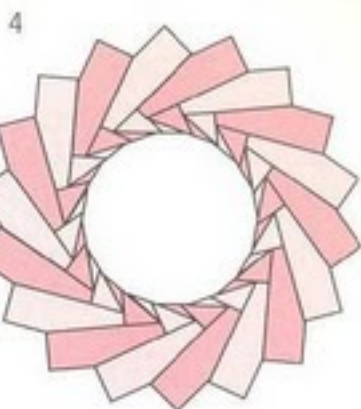
△印いっぱいまで  
差しこむ



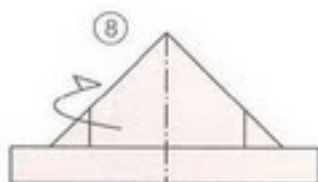
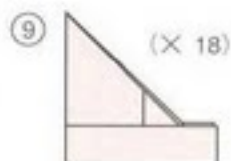
【組み方】1



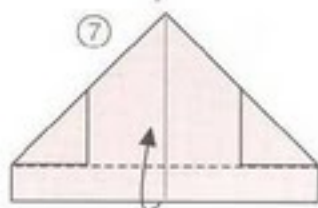
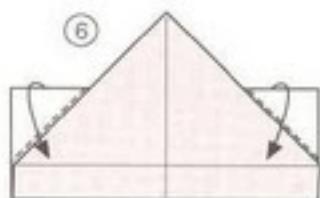
はさむようにして、両側  
のポケットに差しこむ



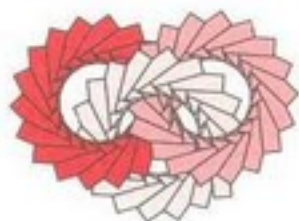
メッテさんは、このリングシリーズは  
7.5cm 以下の小さい紙で折っていらっ  
しゃいました。小さめの紙で折った方  
がいいようです



半分に折る

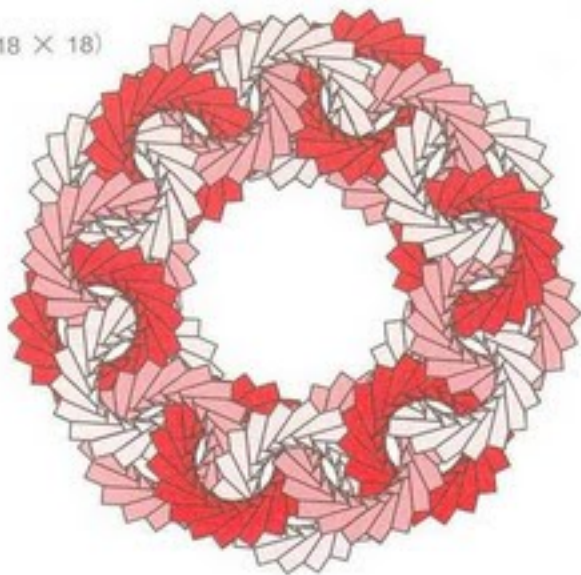


18枚の紙を使うので、できあがりはちょっと持ち重りがして、いい感じがします。メッテさんは、グラデーションのついた紙や、コーナーだけ違う色や模様 of 紙を使って、たいへんきれいなものを作っておられます。また、18枚組のリングをさらに18個輪につないだ、合計324枚の大作にも挑戦してください。



( $\times 18 \times 3$ )

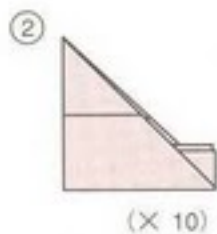
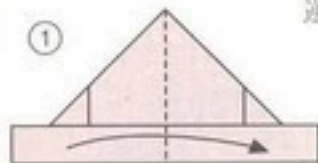
( $\times 18 \times 18$ )



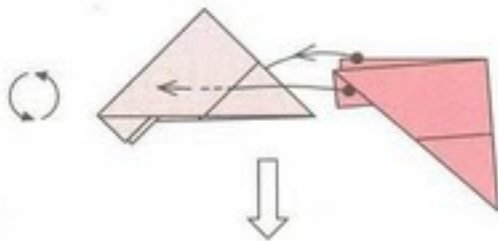
# リング・2

メッテ・ペダーソン (by Mette Pederson) / アメリカ

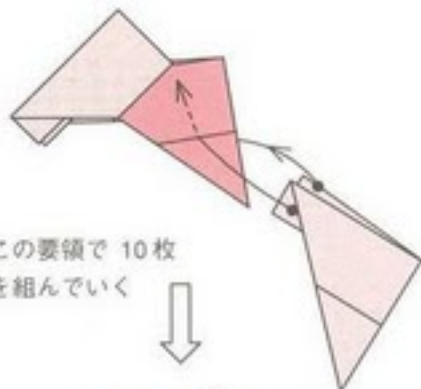
79ページ⑧から 「リング・1」(78ページ)のユニットを、最後に  
逆に折ります。これは10枚で組みます。



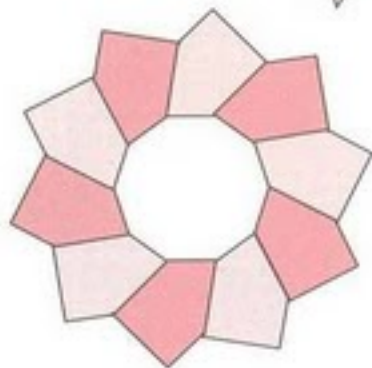
【組み方】 1



2



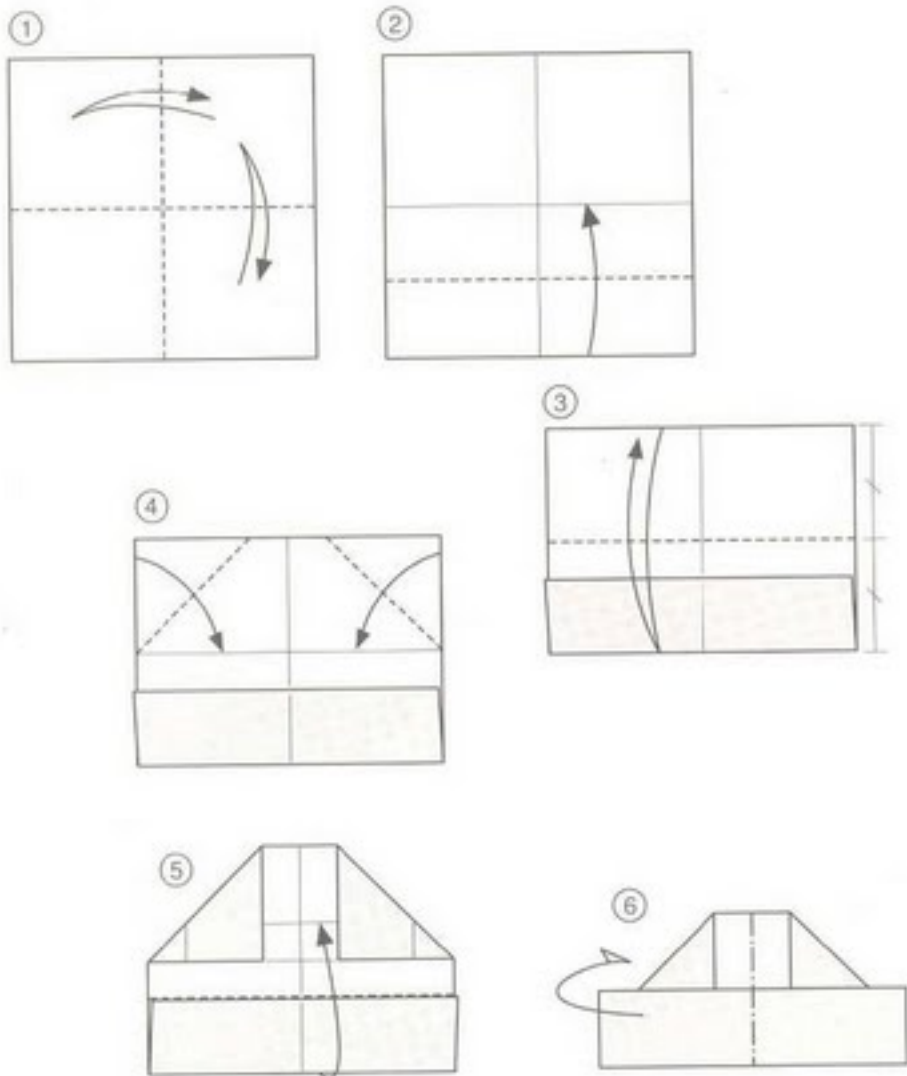
この要領で10枚  
を組み込んでいく

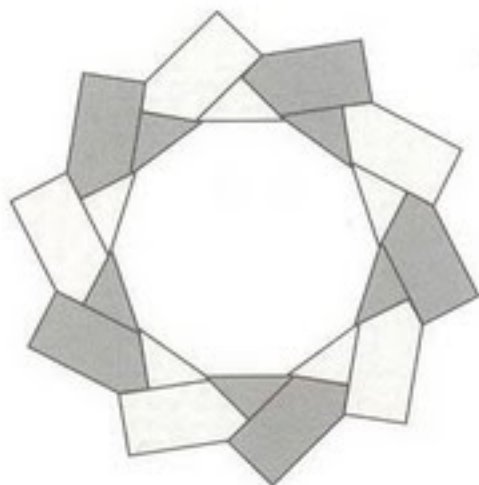


# リング・4

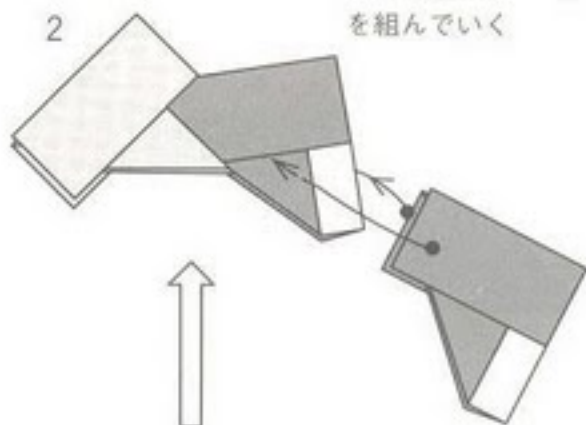
メッテ・ペダーソン (by Mette Pederson) / アメリカ

本書はメッテさんのリングの中で、正方形から折るものを集めたので、リングの番号が飛んでいます。





この要領で 10 枚  
を組んでいく

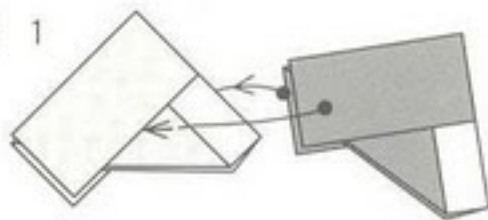


⑦



(× 10)

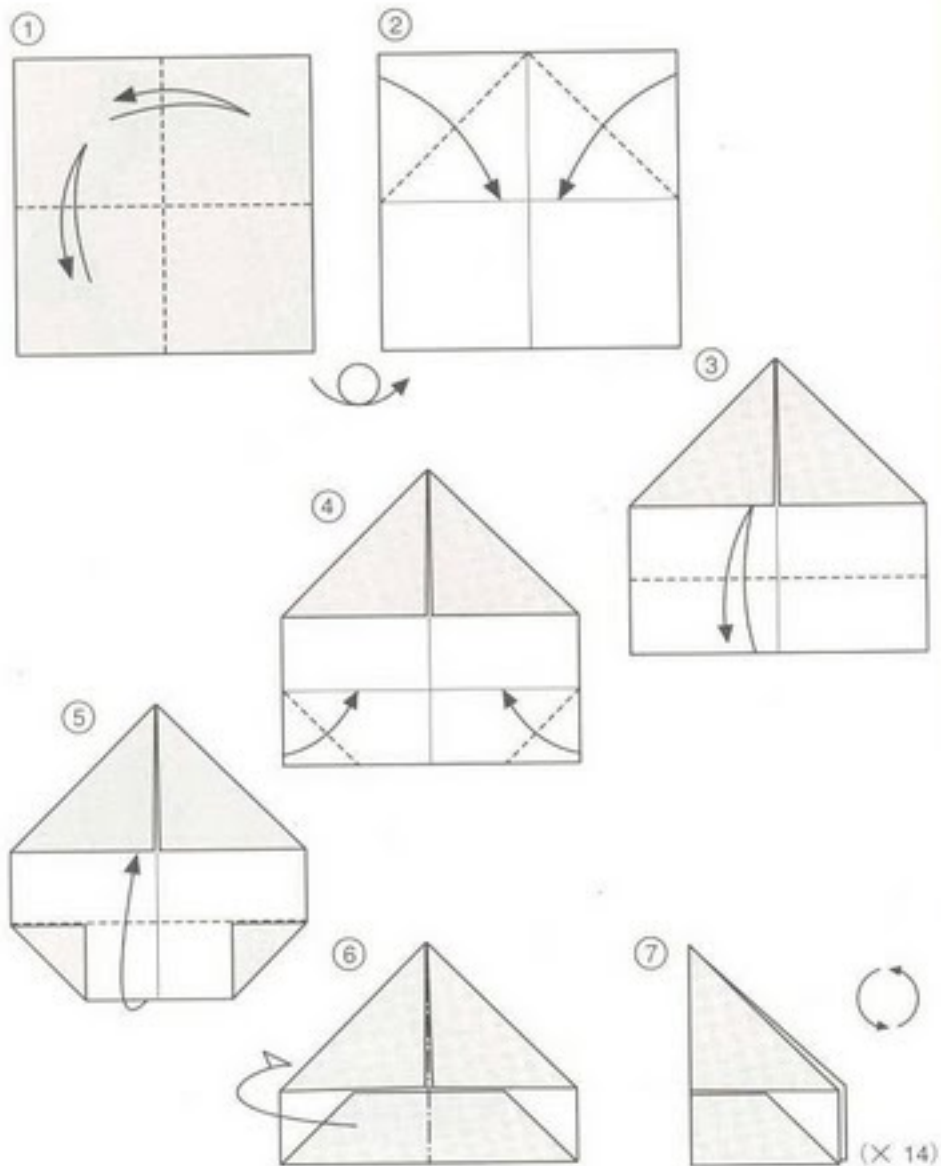
[組み方] 1

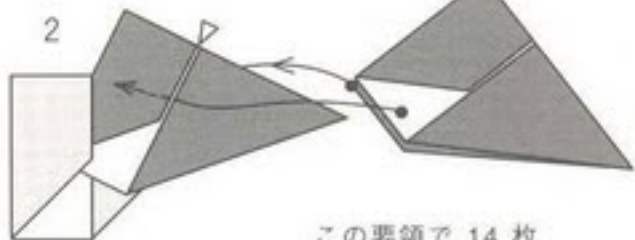
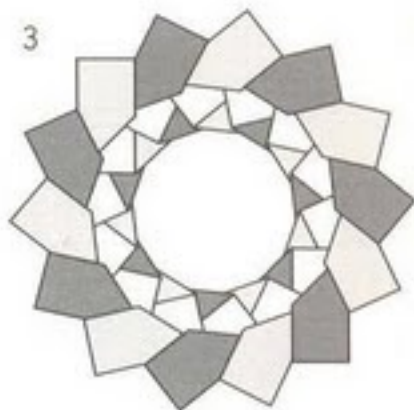




# リング・6

メッテ・ペダーソン (by Mette Pederson) / アメリカ

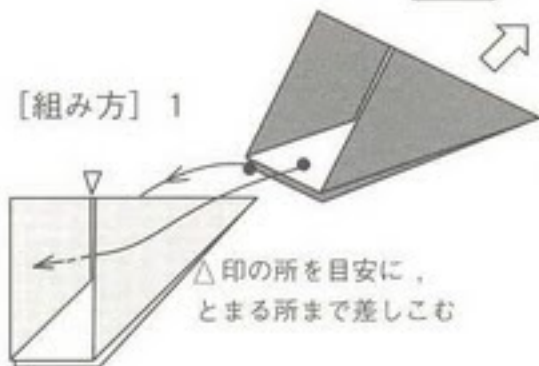




この要領で 14 枚  
を組んでいく



[組み方] 1



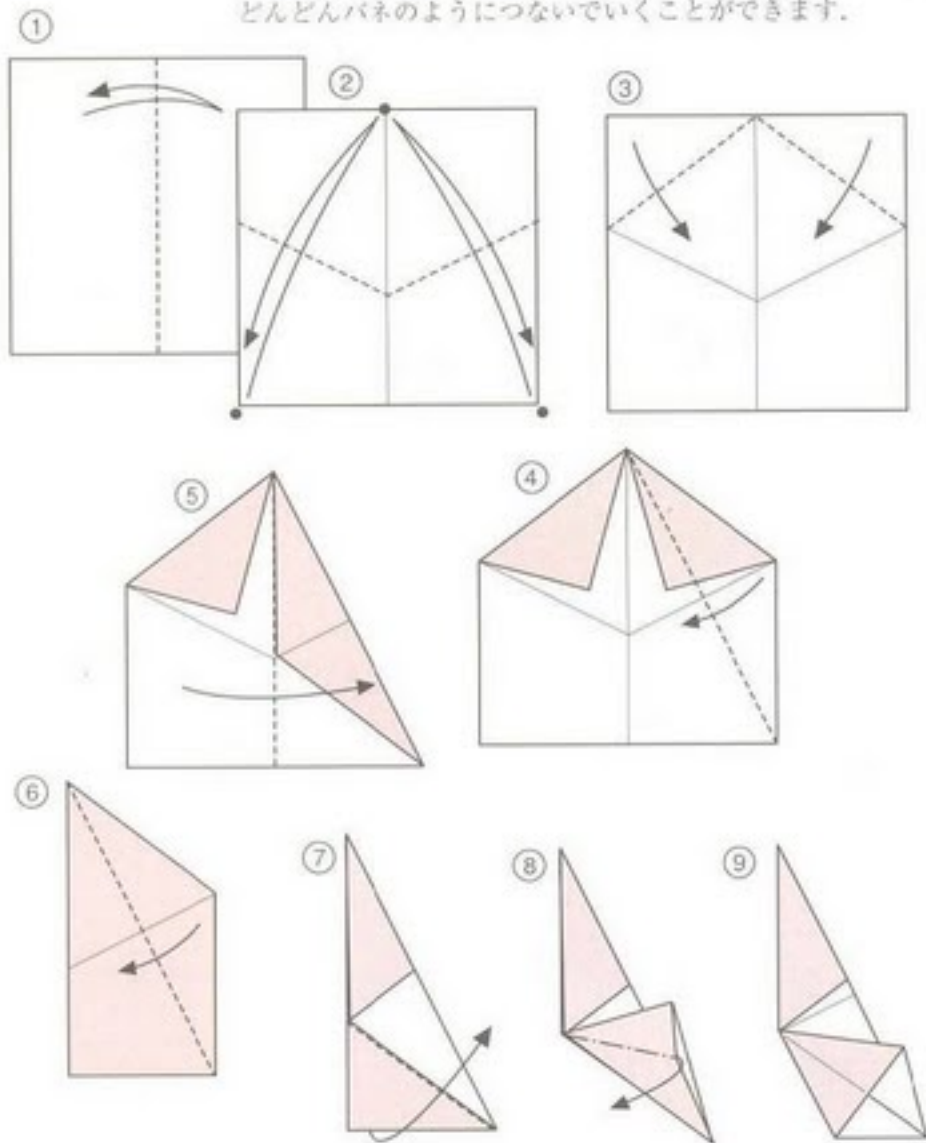
△印の所を目安に、  
とまる所まで差しこむ

このリングは弱い組み方なので、  
のりづけした方がいいようです。

# 七角のリング

メッテ・ペダーソン (by Mette pederson) / アメリカ

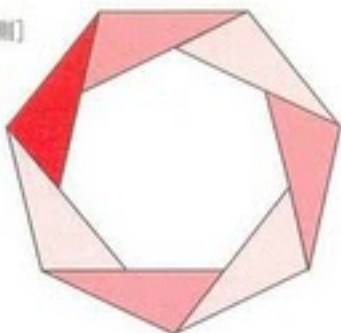
メッテ作品の最後は、このリングです。七角形だけでなく、  
どんどんバネのようにつないでいくことができます。



[表側]



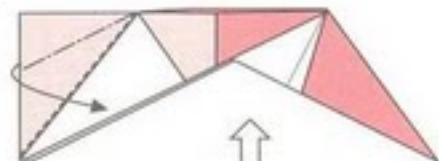
[裏側]



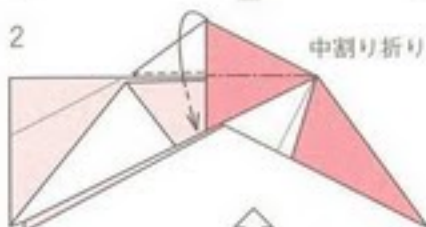
4



3



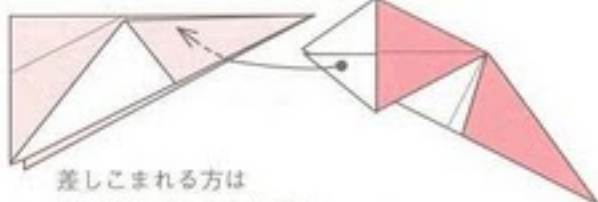
2



中割り折り



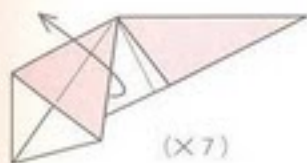
[組み方] 1



この要領で7枚を  
組んでいく

差しこまれる方は  
開いておくとやりやすい

⑩



(x7)

## 七角リングのらせん組み

端を閉じずにどんどんつないでいくと、バネのようならせんになります。

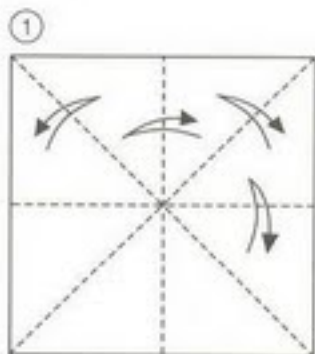
いろどり鮮やかに40枚のユニットでらせんに組んだものは、メッテさんの名刺にも印刷してあって、いわばトレードマークになっています。



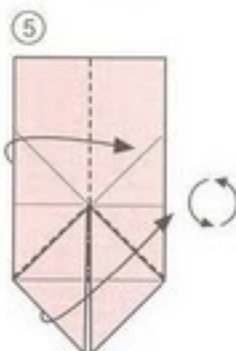
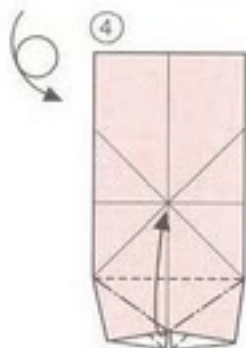
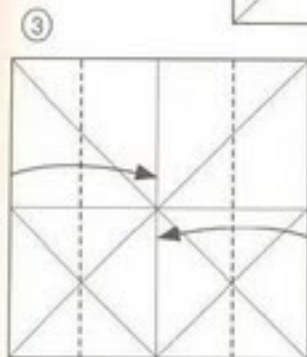
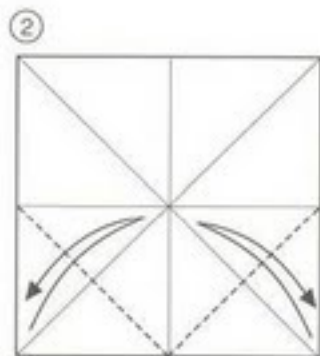
# うさぎのロンド

久我香子 (by KUGA Takako) / 日本

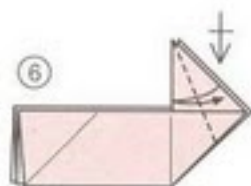
うさぎのリースです。十二支すべてのリースをつくるぞ！  
と思って作った第1号だそうです。



図のような折り線をつける



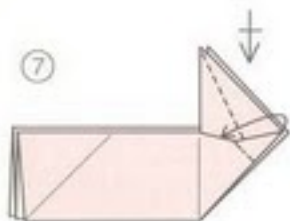
頭になるところを中割り  
折りをして半分に折る



次のページに  
つづく

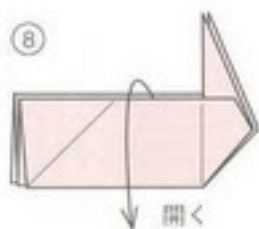






⑦

中割り折り



⑧

開く

外側の1枚をひっくりかえして紙の裏を出す

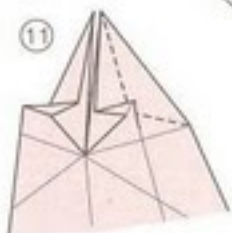


⑨

ひっくりかえしながら⑧にもどすようにするとスムーズに行く



⑫



⑪

(途中の図)



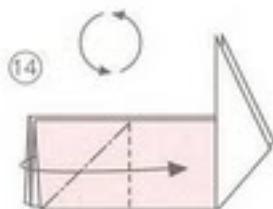
⑩

▲印を押して凹から凸に変える

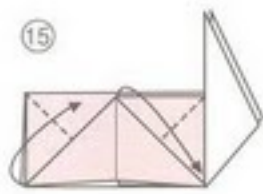


⑬

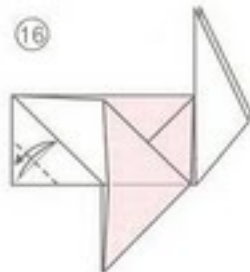
反対側も同じように



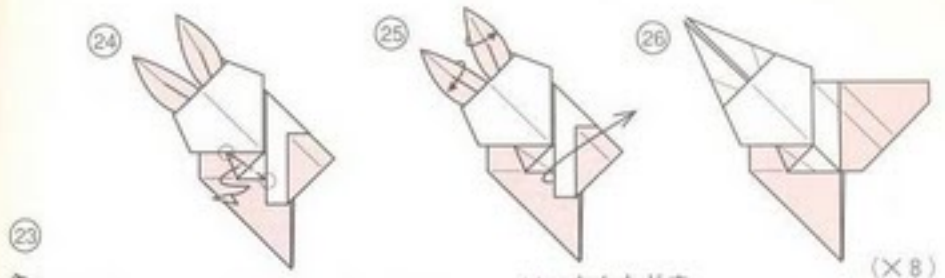
⑭



⑮



⑯



山線をつけてもどす

いったんもどす

(X8)

組み方は  
次のページ

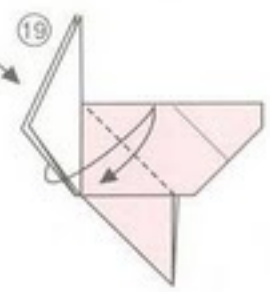
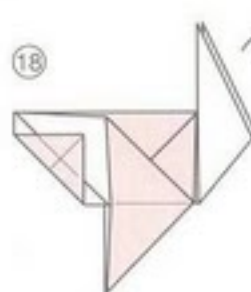
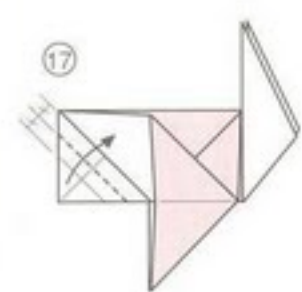
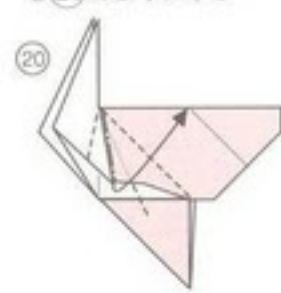
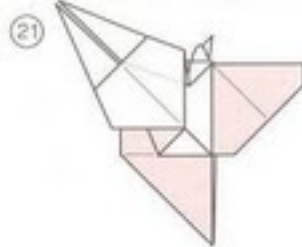


谷線を山線に変えて  
ひだを向こう側にする

上の1枚を開いて、全体  
を(21)のようにする

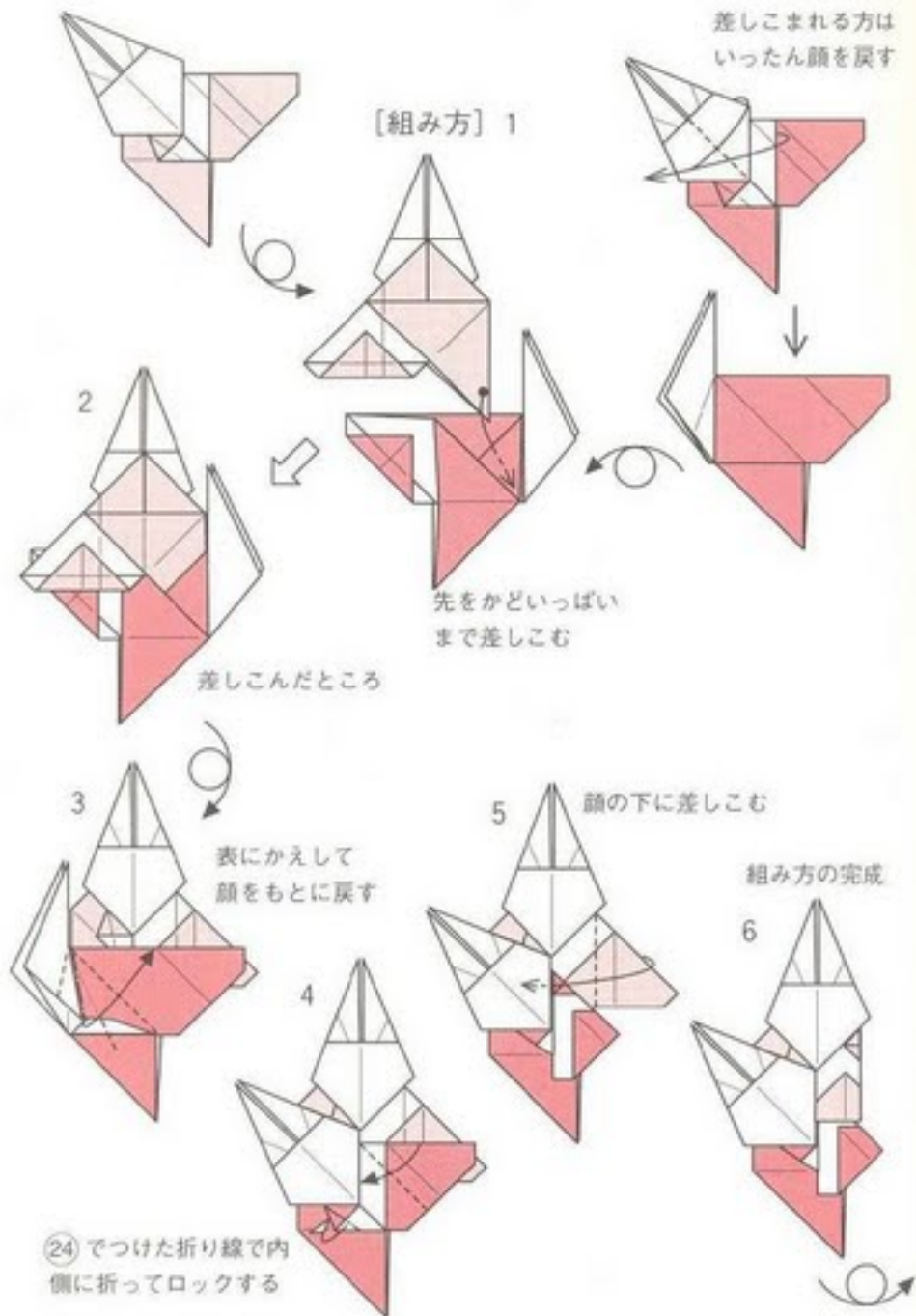


後ろから見ると  
このようになる



差しこまれる方は  
いったん顔を戻す

[組み方] 1

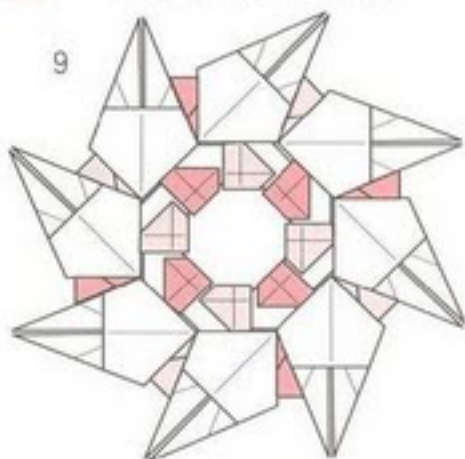


②4 でつけた折り線で内  
側に折ってロックする



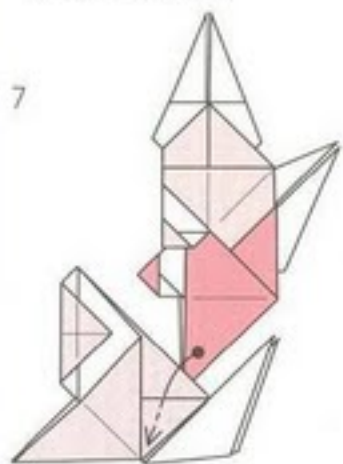
【表側】最後に耳を開く

9



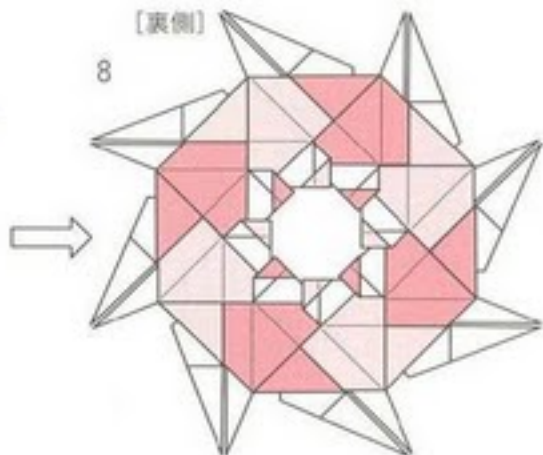
この要領で8枚を組んでいく  
組み方の4、5は適宜開きなが  
らまとめていく

7



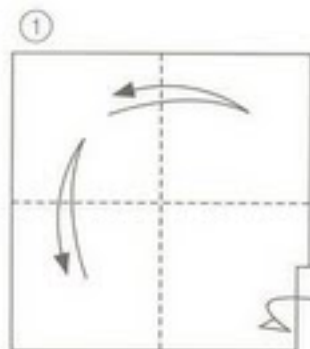
【裏側】

8



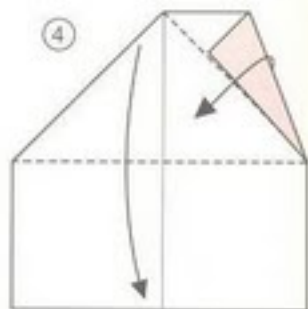
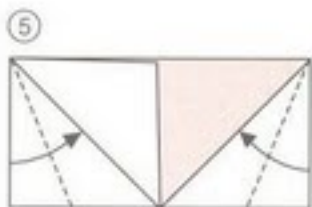
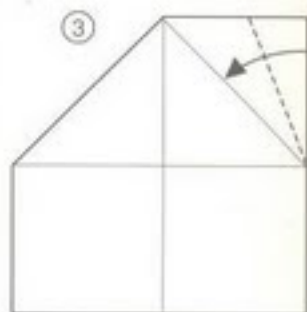
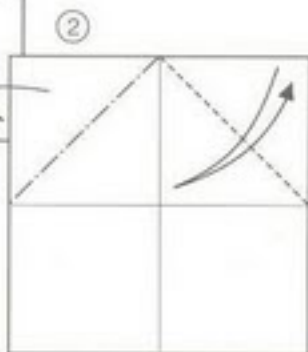
# さつき

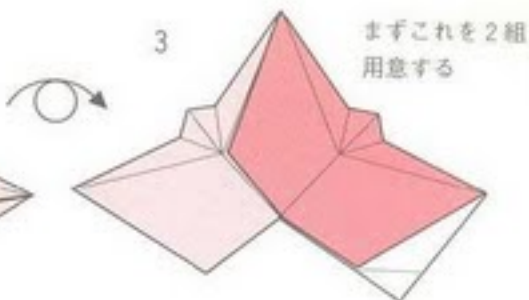
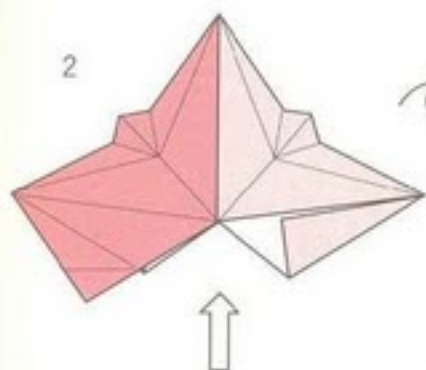
久我香子 (by KUGA Takako) / 日本



組み合わせにのりを使いますが、かんたんな折り方で数を折るのもそう苦にならないし、完成はとても豪華です。

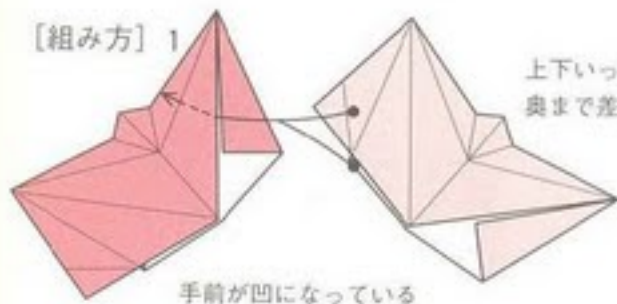
6~8 cm 角くらいの紙で折ると手ごろな大きさになります



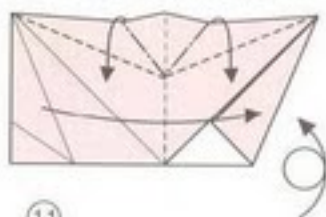
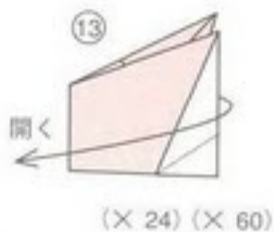


次のページにつづく →

【組み方】1



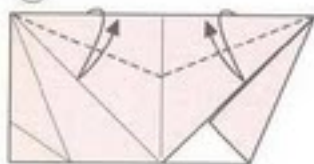
⑫ 折り線どおりにまとめる



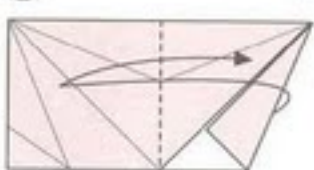
⑪



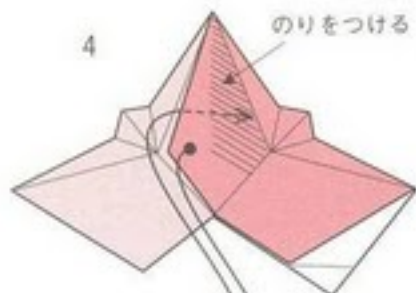
⑨



⑩



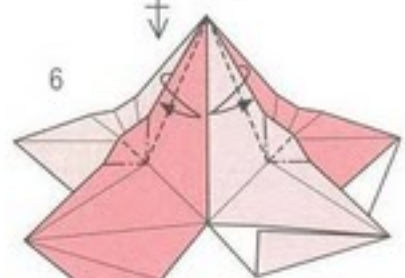




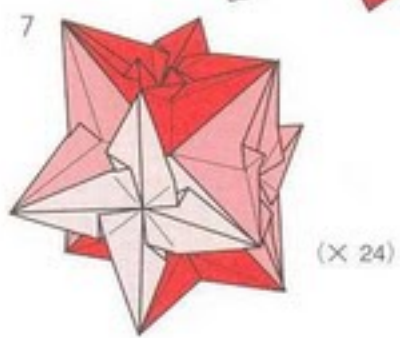
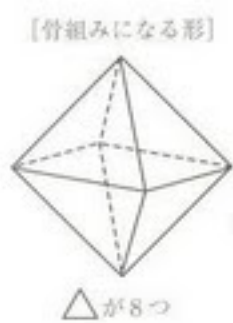
こちらも同じ位置に  
のりをつける



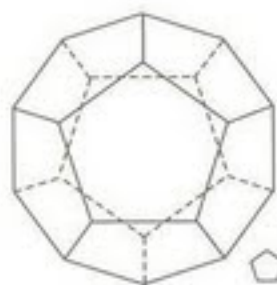
互い違いに差しこむ  
斜線の部分に軽くのりをつける



この要領で 24 枚  
を組んでいく



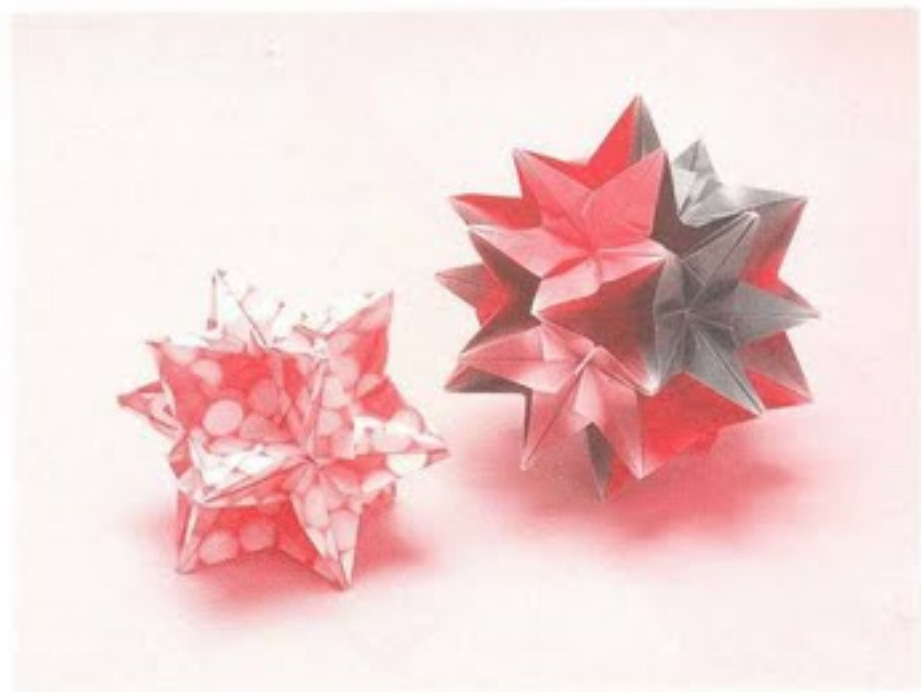
[骨組みになる形]



が12

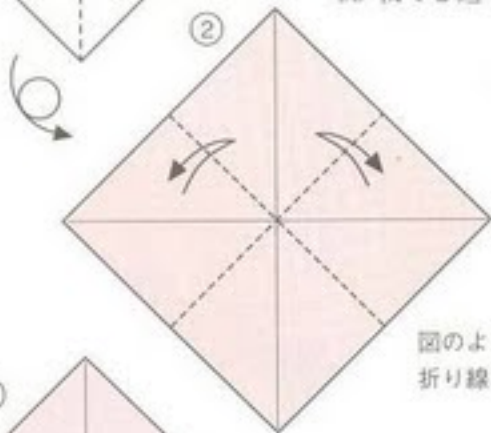
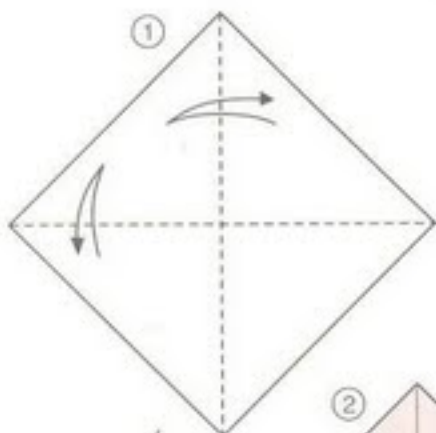


(× 60)

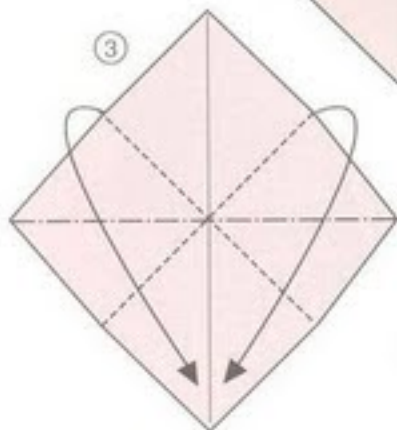


# シルバーナさんの星

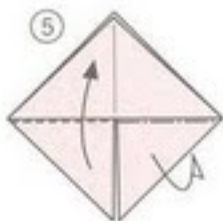
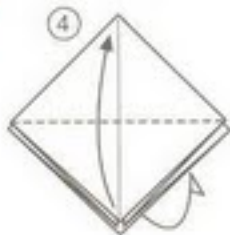
シルバーナ・ベッティ・マミーノ  
(by Silvana Betti Mamino) / イタリア



図のような  
折り線をつける



折り線どおりにまとめる



差しこみ口がなく、独特の組み方で  
でき上がる立体です。なぜばらばらにな  
らないのか、折って組んでみるとすぐ  
にわかるでしょう。

折り方はかんたん、でき上がりも見栄  
えがするし、傑作だと思います。

30枚で2通りの組み方ができます。

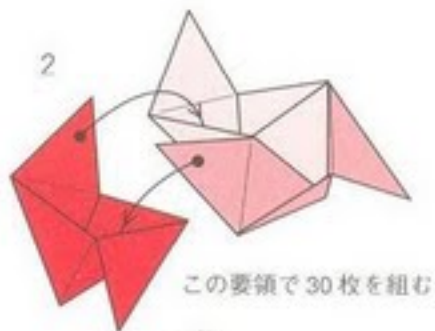


[骨組みになる形]



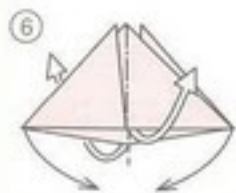
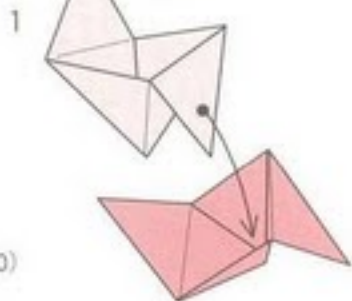
△が20

ただこれだけの組み方ですが、  
全部組み上がると丈夫です。  
自信のない方は、はじめの数  
枚をクリップなどで仮どめし  
ましょう



この要領で30枚を組む

[組み方A]

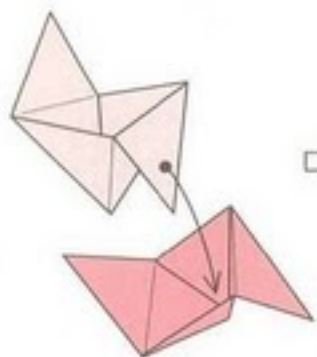


⑥ 中を割って半分折る

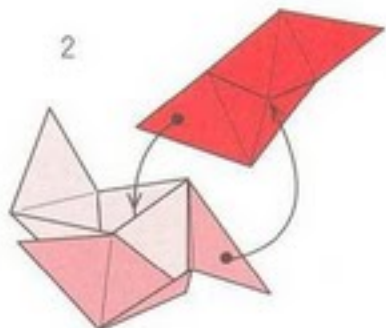


⑦ 開く (×30)

【組み方B】 1



2



3つ目のユニットを、Aとちがう方向に組む

【骨組みになる形】



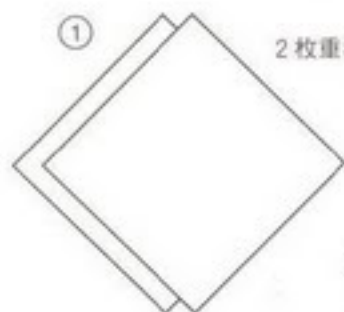
△が20



# カメラキューブ

ハイデ・メイヤー (Heide Meyer) / ドイツ

折り方も組み方もとてもかんたん。2枚重ねて折るところが、このユニットの特徴です。さいころ形に組んだら、カメラのしほりのように開け閉めしてたのしめます。

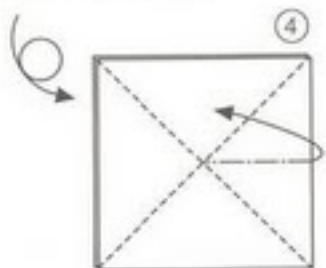


2枚重ねて折る

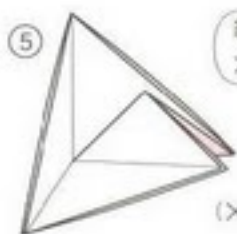
一辺が7.5cmくらいの紙で折ると  
ほどよい大きさになる



図のような  
折り線をつける



折り線どおりにまとめる

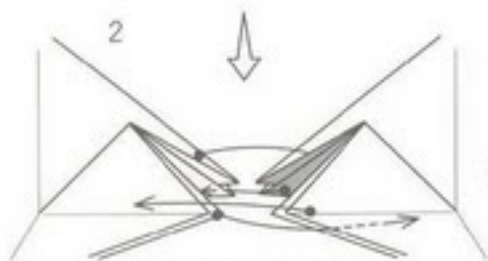
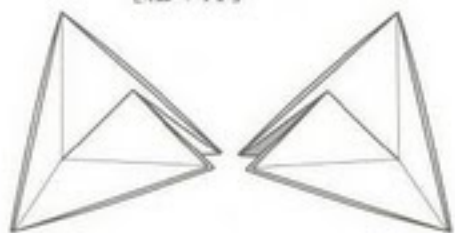


組み方は  
次のページ

(×8)



[組み方] 1



2枚重なっているすき間に  
互い違いに差しこむ



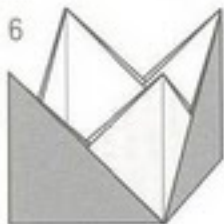
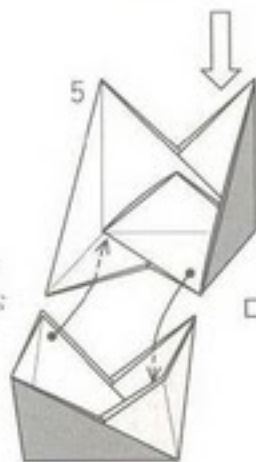
途中まで差しこんだ所



<外側から見た図>



2, 3と同じように  
互い違いに差しこむ





8と9でカメラのしぼりのように、開け閉めしてあそぶ



7

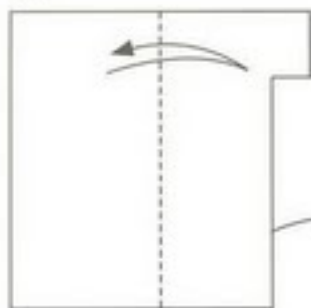
2, 3と同じように  
互い違いに差しこむ



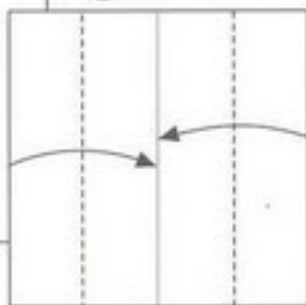
# さかなのコースター

フランシス・オウ (Francis M. Y.Ow) / シンガポール

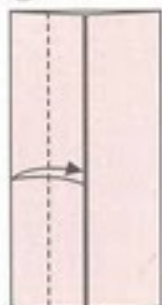
①



②

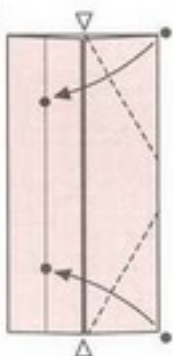


③



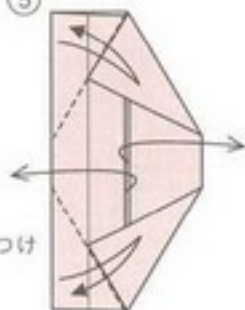
片方の上の1枚だけ  
折り線をつける

④



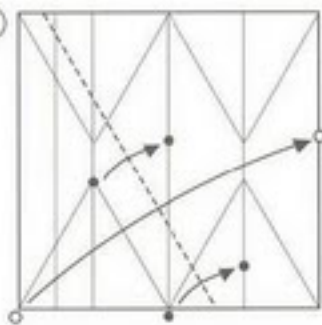
△印を軸に●印  
を合わせて折る

⑤

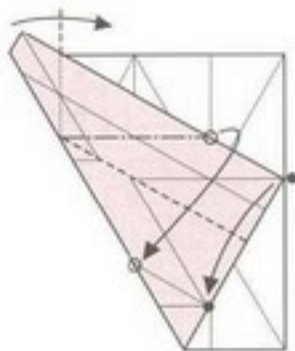


折り線をつけ  
たら開く

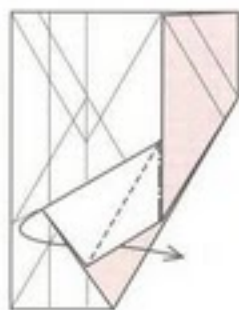
⑥



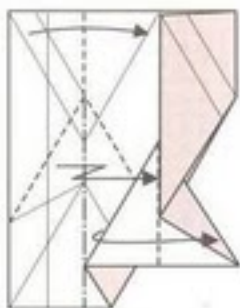
⑦



⑫

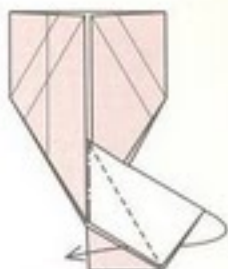


⑬



折り線どおりに  
まとめる

⑭

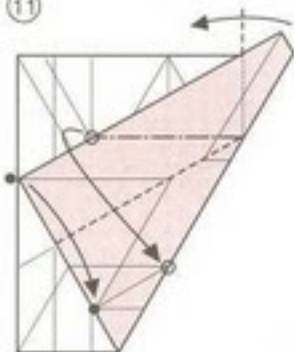


中割り折り

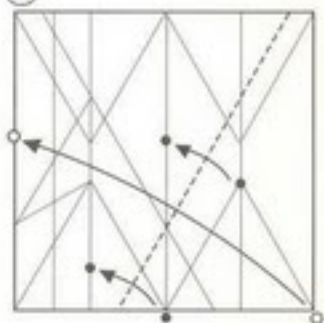
次のページへ  
つづく



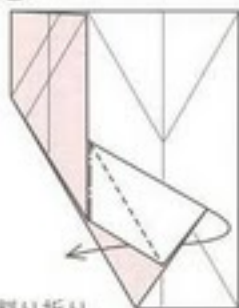
⑪



⑩

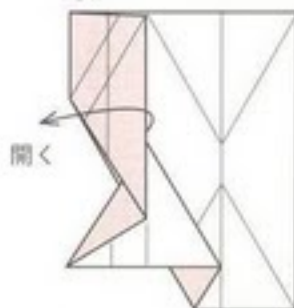


⑧



中割り折り

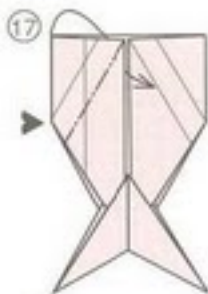
⑨



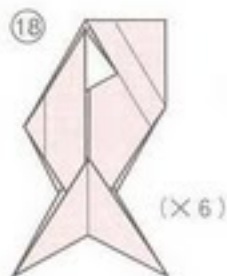
開く



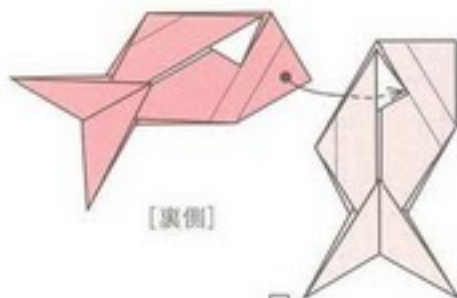
向こう側を引き出して  
かぶせる



▼印を押しこんで  
中割り折り



【組み方】 1

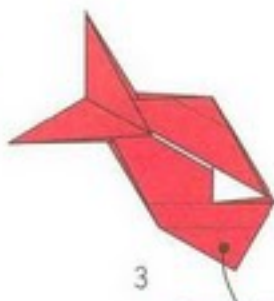


【裏側】

2

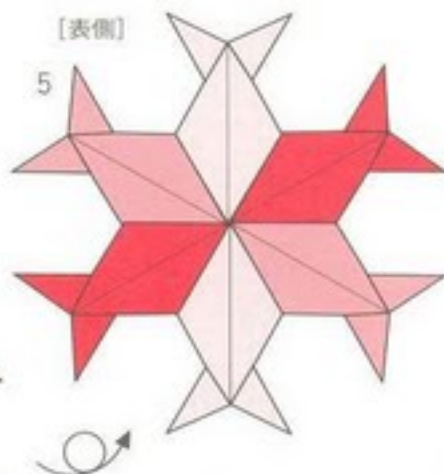
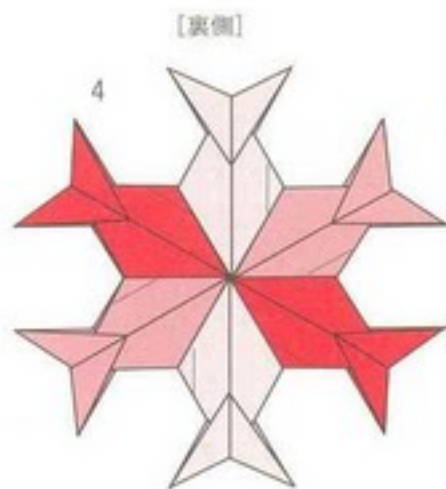


2ついっしょに  
折ってはさむ



3

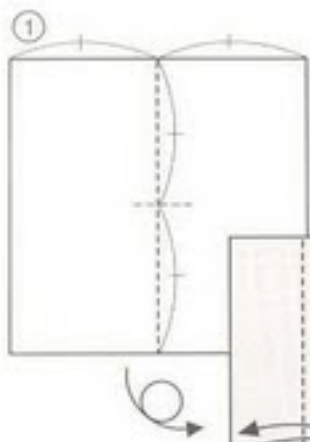
同じ要領で組んでいく



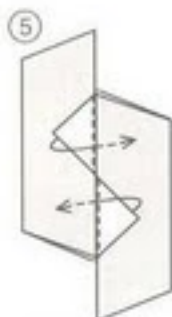
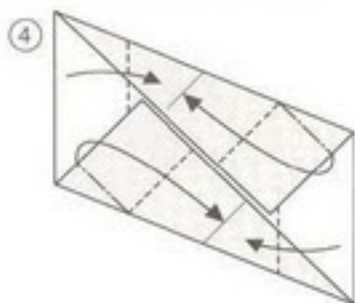
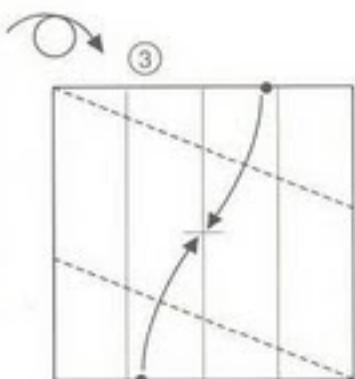
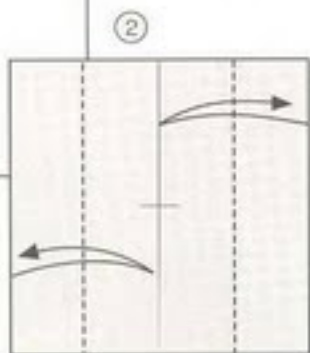


# 135度のユニット

フランシス・オウ (Francis M. Y.Ow) / シンガポール



折り方も組み方もすっきりしている、すばらしいユニットです。多面体だけでなく自由にいろいろな形を作ることができます。



間にはさむ



半分に折る



折り線をついたら  
開く

[骨組みになる形]



△が8つ

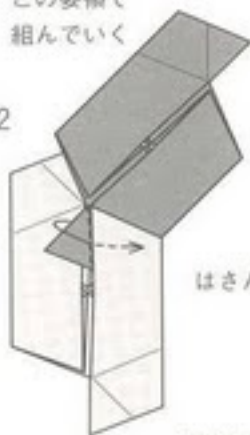
○が6つ

(× 36)



この要領で  
組んでいく

2

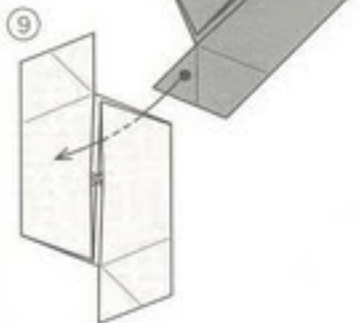


はさんでとめる

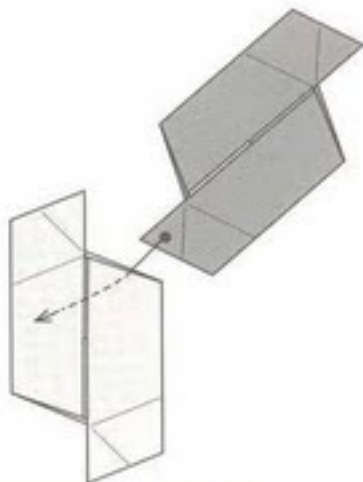
[内側から見た図]



[組み方] 1



最後まで組みにくいときは、  
⑤を折らずに中にしまつて、  
図のようにただ差しこむだけ  
でも十分強い立体になります



[骨組みになる形]



(×36)

□が6つ

○が8つ



これらはほんの  
1例です



[骨組みになる形]

○が12

△が20



(×60)

ISBN4-416-30103-0

C2072 ¥1500E

定価 本体1500円 +税



9784416301036



1922072015005

